

大雪山国立公園連絡協議会登山道維持管理部会（第10回）
表大雪地域/東大雪地域合同会議

日時：令和8年1月8日（木）
14:00～17:00（予定）
場所：上川町役場大会議室
（オンライン併用）

次 第

1. 開会

2. 議事

- （1）登山道等の協働型管理について

3. 報告事項

- （1）令和7年度登山道補修技術検討会について（事務局）
- （2）山岳トイレ等検討作業部会について（事務局）
- （3）各機関・団体からの活動状況報告等（各機関・団体）

4. その他

- （1）荒井岳への標識設置について

5. 閉会

【配布資料】

次第・出席者名簿

資料 1-1 登山道等配置・管理計画の検討及び実施

資料 1-2 大雪山国立公園ビジョンの実現に向けた取組み（登山道関係）

資料 1-3 登山道ビジョン意見照会結果

資料 2 令和 7 年度登山道補修技術検討会について

資料 3 山岳トイレ等に関する検討課題の整理

資料 4 令和 7 年度登山道維持管理・補修工事等実施概要（環境省）

資料 5 大雪山国立公園におけるヒグマの対応について（環境省）

資料 6 令和 7 年度大雪山国立公園入山者数調査（環境省）

資料 7 上川総合振興局からの活動状況報告等

資料 8 旭岳ビジターセンターからの活動状況報告等

資料 9 Asahidake Trail Keeper からの活動状況報告等

資料 10 2025 年大雪山国立公園 ヒグマに関する意識調査 結果報告
（北海道大学大学院愛甲教授）

資料 11 荒井岳への標識設置について

参考資料 大雪山国立公園連絡協議会表大雪地域登山道維持管理部会及び
東大雪地域登山道維持管理部会規約

令和8年1月8日

大雪山国立公園連絡協議会 登山道維持管理部会（第10回）
表大雪地域/東大雪地域合同会議 出席者名簿

【構成員】

分野	名称	出席者（敬称略）	備考
関係行政機関	上川中部森林管理署	地域林政調整官 大谷 数久 地域統括森林官 秋元 郁弥 総括森林整備官 加藤 和宏	会場
	上川南部森林管理署	総括事務管理官 岩館 正宣	WEB
	北海道上川総合振興局	環境生活課 課長 西野 友里 主査(山岳環境) 中島 浩之	会場
	富良野市	商工観光課 観光係 早川 佳尋	WEB
	上川町	産業経済課 主事 高橋 ほのか	会場
	東川町（旭岳ビジターセンター）	所長 田渕 浩 大塚 航平	WEB
	美瑛町	—	欠席
	上富良野町	主事 原 竹矢	WEB
	南富良野町	—	欠席
	十勝西部森林管理署 東大雪支署	総括事務管理官 菊池 寿幸 事務管理官 玉川 知弥 主事 坂本 奈未	WEB
	北海道十勝総合振興局	環境生活課 課長 内田 朋宏 係長 滝下 麻耶	WEB
	士幌町	主事 皆上 晃汰	WEB
	上士幌町	商工観光課 主査 松岡 佑昌	WEB
	鹿追町	商工観光課 観光係長 常清 拓也 ジオパーク推進課 推進係長 大西 潤	WEB
	新得町	—	欠席
維持管理・ 利用・環境 教育関係団体	NPO 法人かむい	代表理事 濱田 耕二	会場
	NPO 法人大雪山自然学校	廣瀬 さつき	WEB
	道央地区勤労者山岳連盟	副理事長兼自然保護委員長 伊吹 省道	WEB
	合同会社北海道山岳整備／ 一般社団法人大雪山・山守隊	代表社員 岡崎 哲三 事務局長 下条 典子	会場
	層雲峡ビジターセンター	インタープリター 佐久間 弘	会場
	山樂舎 BEAR	代表 佐久間 弘	上記兼任
	大雪山倶楽部	西元 徹	WEB
	大雪山国立公園 パークボランティア連絡会	会長 垣内 雅人	会場
	TREE LIFE	—	欠席
	富良野山岳会	—	欠席
	北海道山岳ガイド協会 （表大雪地区）	事務局 鳥羽 晃一	会場

維持管理・ 利用・環境 教育関係団体 (続き)	Asahidake Trail Keeper	—	欠席	
	NPO 法人ひがし大雪 自然ガイドセンター	—	欠席	
	新得山岳会	—	欠席	
	十勝山岳連盟	齊藤 邦明	WEB	
自然保護関係 団体	大雪と石狩の自然を守る会	—	欠席	
	山のトイレを考える会	代表 事務局長	小枝 正人 仲俣 善雄	会場
調査・研究 関係	山岳レクリエーション管理 研究会	事務局長	山口 和男	会場
	北海道大学 渡邊 悌二名誉教授	名誉教授	渡邊 悌二	会場
	北海道大学大学院農学研究院 愛甲 哲也教授	教授 修士課程1年	愛甲 哲也 粒來 綾香	会場 WEB
	福山市立大学都市経営学部都 市経営学科 澤田 結基教授	—	—	欠席

【オブザーバー（出席団体のみ記載）】

分野	名称	出席者（敬称略）	備考
維持管理・ 利用・環境 教育関係団体	上川山岳会	会長 榎本 康之	会場

会場出席 13 団体 / 18 名 ウェブ出席 14 団体 / 19 名

【その他】

分野	名称	出席者（敬称略）	備考
自然保護関係 団体	十勝自然保護協会	理事 植田 幹夫	会場
—	荒井建設株式会社	顧問 常務取締役 田中 利明 扇谷 徹	会場

【事務局】

所属	出席者
北海道地方環境事務所	所長 岡島 一徳
大雪山国立公園管理事務所	国立公園利用企画官 高橋 広子 上席国立公園管理官 友野 雄己 係員 森田 夕貴 登山道保全調整等専門員 村田 奈都希 自然保護官補佐 坂井 まお 自然保護官補佐 永瀬 大悦
東川管理官事務所	国立公園管理官 菅野 敬雅 自然保護官補佐 渡邊 あゆみ
上士幌管理官事務所	国立公園管理官 永田 拳吾 自然保護官補佐 上村 哲也

○大雪山国立公園ビジョンの実現に向けた取組み(登山道関係)

大雪山ビジョン	取組事項	主な取組項目	課題	当面の取組方針等(案)	目標・指標・進捗状況確認方法(案)
(1)大雪山の自然環境が守られ、より豊かになった国立公園 登山道の荒廃や登山者の踏み荒らしにより改変、消失した植生、地形や土壌の改変・消失を回復させます。これらは、大雪山グレードに応じて原生的な自然環境が維持された地域から優先的に取り組みます。 (中略) これらにより、広大な原生的な山岳景観、火山を基盤として広さを形作る特徴的な地形と、その上に大規模に広がる生物多様性が守られた国立公園を目指します。		○登山道/野営指定地単位の計画	○登山道ごとの課題整理、保全計画や管理方針を検討できていない(野営指定地についても同様)ことが、対処療法型の登山道補修に留まっている。 ○必要に応じて登山道や野営指定地そのものの配置の見直しも必要。 ○管理水準の改定から10年以上が経過しており、グレードや保全対策ランクの要更新箇所あり。	○「登山道の管理状況」「野営指定地・避難小屋等の管理状況」資料を用いた区間・地点ごとの課題整理、認識共有、計画の進捗状況を評価する仕組みを検討。 【登山道部会、R7～】 ○特定の区間を選定した集中的な保全計画・管理方針の検討。必要に応じて管理水準の見直しを実施。 【登山道部会・各管理者等、R8～】	○部会において、各管理者から計画の作成状況、各路線ごとの管理の進捗状況を報告 ○「登山道ビジョン」の構想(策定あるいは大雪山ビジョンへの反映)(5年以内) ○公園計画・管理運営計画改定(10年以内) ○指標案:計画作成数/計画路線数 ○指標案:公園事業執行路線数/公園計画路線数 (令和7年度:20/41路線)
(2)魅力を活かし、質の高い利用体験ができる国立公園 ⇒大雪山グレードに応じた管理と利用	①登山道等計画の検討及び実施	○全体の配置計画 ○管理者の再配置及び明確化	○平成30年頃に作成されたグランドトラバース構想(縦走線を中心とした歩道事業執行者の再配置)の実現に向けた進め方が十分に整理されていない。 ○未執行路線の執行化は、三段山線以降は進んでいない。 ○執行化の意義を明確化する必要。	○事業執行者の配置の見直し、登山道未執行区間の解消など、整備・維持管理を行う路線・区間のメリハリをつけた全体計画(野営指定地を含む)の検討。 【登山道部会・行政機関、R8～】	
大雪山グレードに応じた登山道の管理により登山道の荒廃が解消され、周辺自然環境に調和した案内板、誘導標識等が整備され、野営指定地や避難小屋においては施設の更新と管理が行き届いた状態を目指します。	○基盤的整備及び順応的管理		○整備工事での、入札不調等による年単位での計画遅延、受注者不足、金額の高騰 ○公共工事での整備及び維持管理の発注方式が、登山道の順応的管理に適さない ○管理者での維持管理予算・人員不足 ○技術指針の改定から10年以上が経過しており、必要に応じて見直しが必要。	○登山道等の利用・管理方針や配置計画からなる全体計画(=登山道ビジョン?)の構想の検討(上記取組みを踏まえながら検討)。 【登山道部会、R8～】	
	②施工技術水準の向上等の検討	○補修結果の評価・検証 ○補修技術の向上	○登山道補修技術検討会の役割、歩道等維持管理実施手順マニュアルの意義について確認しつつ進める必要あり ○人材育成とセットで考える必要あり	○登山道補修技術検討会 【事務局、年1回開催】 ○登山道維持管理データベースの目的・方針再整理について検討。 【補修技術検討会、R7～】	○部会において登山道補修技術検討会の評価内容を報告 ○指標案:データベース運用実績 (令和7年度:DB登録数0件)
	○登山道等情報の共有・活用		○大連協HPに掲載している登山道維持管理データベースの目的や内容、それらに必要な記録方法等を要再整理		
携帯トイレの普及、携帯トイレ関係設備の充実、既存の常設トイレの効果的な利用などにより、野外へのし尿排出をなくし、し尿の問題を解決します。	③山岳トイレ等の検討	○山岳トイレ施設の維持・改善 ○携帯トイレ普及推進	※「山岳トイレ等に関する検討課題の整理」を参照	※「山岳トイレ等に関する検討課題の整理」を参照	○「山岳トイレ等に関する検討課題の整理」について登山道部会で進捗状況を確認
(3)つながっていく国立公園 ⇒来訪者に向けた情報発信、大雪山国立公園に関わるすべての人々に向けた価値の発信		○ホームページ、SNS等での情報発信	○大連協ホームページは利用者向け情報発信と主に関係者向け情報共有の両方を兼ねた状態となっているが、少なくとも大雪山NPに係る利用者向けポータルサイトは現状存在しない(登山道以外の取組全般を含む) ○大連協ホームページの利用者の利便性向上(UI/UXの向上) ○利用者の情報収集に関するニーズ把握、利用者のアクセス状況の分析ができていない。 ○国立公園全体の利用者向け情報発信については、各地域の観光情報発信等との連携を要考慮	○大連協HPの段階的リニューアルの検討 【事務局、R7～】 ○大連協SNSでの適時の情報発信 【事務局、実施中】	○指標案:インスタ閲覧数 (令和7年6/1～10/15:19.6万人) (令和6年6/1～10/15:2.5万人) ○指標案:インスタフォロワー数 1024人(令和7年12月時点) ○指標案:フェイスブック閲覧数 (令和7年6/1～10/15:63万) (令和6年6/1～10/15:7.6万) ○指標案:フェイスブックフォロワー数 5694人(令和7年12月時点)
旅行や登山の準備段階において、大雪山国立公園に入ってから出までの間に必要な情報についてインターネット等を通じて、わかりやすく得られる状態を目指します。		○関係者間のネットワークの構築 ○ホームページのポータルサイトの機能強化			
また、各利用拠点を中心としてネットワークを形成し、質の高い利用体験がいつ、どこで、又はどの施設にコンタクトを取ればできるかという情報が発信できる状態を目指します。		○窓口や案内板やサインの表記の充実化	○標識類等のデザイン統一化、基本情報の共通化	○まずは歩道事業執行路線における大雪山国立公園内の標識類の状況の把握を行う。 【事務局、R8～】	○標識類の整備状況 (指標設定は要検討)
旅行者や登山者が実際に大雪山国立公園に訪れた際には、各施設等で必要な情報に接することができ、求める情報にアクセスしやすいよう、窓口や案内板やサインの表記が充実した状況を目指します。	④一元的な道情報発信	○多言語での情報発信	○多言語での情報発信	○大連協ホームページ、SNSほか各ウェブコンテンツの多言語表記化や情報整理 【事務局、実施中】	○指標案:大連協HP閲覧数(海外2077全体の8%) ○指標案:SNSフォロワー数 海外FB700(全体の12%) IGM99(全体の10%)
増加する外国人利用者に対しても、必要な情報が多言語で発信されることを目指します。		○安全確保(遭難、ヒグマ等)に関する情報発信	○大雪山グレードの確認及び危険の認識を促し自己責任で力量にあった登山の推奨 ○登山者が自ら登山情報を積極的に収集し、遭難防止対策を実施(登山届の提出等)し安全確保に努めるような普及啓発が必要 ○上記普及啓発に向けて、ヒグマの危険個体の出没といった重要情報を速やかに地域間共有、発信できるようなネットワーク化も必要 ○公園利用者の安全確保のため、国立公園の登山情報として必要に応じ火山関係情報(熱水や有毒ガス地帯等危険箇所等)が必要。	○ヒグマ情報の収集、提供のネットワーク化に関し、山岳全域での関係者間の連絡体制を構築 【環境省、R6～8】 ○フォーラムの開催(年1回) 【大連協、実施中】	○R8シーズンにおいて、できるだけ山岳全域をカバーしたヒグマ情報収集・共有・提供を試行的にでも開始予定(R8部会において進捗状況を報告予定)。
大雪山国立公園の持つ優れた価値、荒廃や低迷を食い止める課題を解決するための取組、目指す姿が実現した状態を、大雪山国立公園に関わるすべての人々に発信するとともに、日本国内さらには世界に発信し続けることで、大雪山国立公園の価値が理解され、共有された状態を目指します。 これにより、大雪山国立公園が地域の誇りとなるばかりでなく、世界の人々を魅了し何度でも訪れてみたいと思う国立公園を目指します。	○大雪山国立公園の持つ優れた価値の情報発信 ○各保全の取組、保全ルール等の情報発信 ○大雪山フォーラムの開催	○協力金・クラウドファンディング等の情報発信 ○「取組成果の蓄積・評価」より効果的な情報発信方法の検討についてはいずれも具体的な方針を考える必要。 ○登山道の特徴・魅力、荒廃状況、保全取組状況等が伝わるよう登山道のブランディングをすることによる情報発信。	○大雪山国立公園連絡協議会のHPで基礎的な情報を整理し、SNSを中心に適時適切に情報を発信 【事務局、実施中】 ○フォーラムの開催(年1回) 【大連協、実施中】	○認知度、理解度 (指標設定及び調査手法は要検討)	
(4)みんなが協働して管理運営する国立公園 ⇒協働型管理体制の維持、管理運営への利用者の参加・周辺地域との連携、みんなが学び成長し将来世代へ引き継ぐ国立公園	⑤総合型協議会の構築と維持	○総合型協議会の構築と維持 ○国立公園の一元的な管理運営体制の構築 ○調査・研究の推進、研究成果のフィードバックとデータの活用	○行動計画の策定 ○大雪山の山岳管理を民間側で一元的に担うことのできる体制の構築	○大雪山ビジョン全体の進捗の確認・評価は総会において行えるよう仕組みを検討 【大連協、R8～】 ○財団の役割、組織等の検討を進め、行政機関側に必要な支援、調整についても検討を進める。 【登山道部会】	○協議会・登山道部会での進捗確認・評価体制確立(1～3年) ○財団の設立(1～3年)
・大雪山国立公園ビジョンは、大雪山国立公園の利用者、関係するあらゆる人々(みんな)と共有し、浸透させます。そして、みんな目指す姿を実現するための取組を実施します。具体的には、大雪山国立公園の管理運営に参加・協力したい人がお金や労力を提供できる仕組みが整った状態を目指します。	⑥協力金の拡充	○大雪山国立公園全体における保全の仕組みづくり ○様々な主体の新たな賛同者・支援の獲得 ○登山道管理者と利用者等の協働による維持管理	○受益者負担の仕組みの必要性自体は理解や認識共有が進み、協力金の収受・活用が一部地域で開始されているが、規模的・範囲的に未だ十分とは言えない。 ○大雪山国立公園全体として寄附を受けられる場合の適当な受け皿が現状ない。	○白雲・忠別の施設再整備と併せた維持管理及び協力金収受体制の検討 【環境省・北海道・上川町、R7～】	○指標案:協力金実施状況 上川地区登山道等維持管理連絡協議会 東川町大雪山国立公園保護協会 ○白雲・忠別の施設再整備及び管理体制確立(5年以内)
大雪山国立公園を取り巻く自然的、社会的環境は今後も急速に変化していくことが予想されます。今後の変化に柔軟に対応しながら目指す姿を実現していくためには、みんなが学び、成長していくことが重要です。 大雪山国立公園ビジョンを実現するために必要な具体的な取組を実現できる人材を育成する観点から、学びを支援する体制が整った状態を目指します。 みんな、これらの目指す姿が実現した国立公園を、後世まで地域の宝として守り続け、将来世代に引き継いでいきます。	⑦人材育成	○登山道補修技術者の人材育成支援	○各取組は継続して行われているが、技術者育成は個人・団体レベルの両方で成果を挙げられている段階には至っていない。	○勉強会(リーダー育成研修会)の開催(年1回) 【事務局・北海道、実施中】 ※その他要検討	※要検討

公園計画・管理運営計画				登山道管理水準 (2015)				管理・利用の現況				今後の利用目標	今後の管理方針					
地域	番号	路線名	区間	公園計画書(H31.3) 一 整備方針	管理運営計画書(R6.4) 一 公園事業取扱方針 (一部省略あり)	グレード(利用体験ランク)	保全対策ランク	植生の状況	荒廃、整備の状況	利用者数、利用状況	公園事業執行	維持管理、補修等	課題整理					
北大雪	2	層雲峡ニセイカウシュベ山線	ニセイカウシュベ山登山口～(ア)	ニセイカウシュベ山への登山道として整備する	層雲峡集団施設地区からニセイカウシュベ山頂を經由し清川を結ぶ登山道として整備する。当該路線から大雪山連峰が一望できる登山道として利用者が多い。	G3	D(2/3)	針葉樹林、ダケカンバ林、チシマザサ群落	小規模の侵食、徐々に進行未整備	—	—	民間団体によるササ刈り	歩道維持には定期的なササ刈りが必要					
			(ア)～ニセイカウシュベ山頂						C(1/3)	ハイマツ群落、保全が必要な雷田群落あり	中～小規模の侵食、徐々に進行未整備	—	—	—	—			
			層雲峡園地登山口付近						A(2/1)	針葉樹林	大～小規模の侵食、著しく進行未整備	—	—	—	—			
			層雲峡園地登山口付近～朝陽山						D	針葉樹林、針葉混交林、ダケカンバ林、チシマザサ群落	侵食はない、ヤブ化、倒木あり未整備、一部区間通行止め	—	—	—	歩道維持には定期的なササ刈りが必要			
—	—	パノラマ台分岐～パノラマ台	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	整備予定なし			
—	—	層雲峡銀河流星ノ滝線	銀河流星ノ滝への探勝歩道として整備する。	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	整備予定なし		
—	—	銀河流星ノ滝園地	銀河流星ノ滝の展望、休憩のための園地として整備する。また、駐車場から双瀑台までの園路をあわせて整備する。	当該園地の恵まれた環境をより有効に活用するため、利用状況に応じて既存施設等の再整備を検討する。なお、施設の整備に当たっては、対岸の景観眺望を十分確保するよう留意するものとする。	G1	D(2/4)	針葉樹林	侵食はない 駐車場等を含む園地整備、状態良好	北海道	—	林野庁	—	—	—	改修工事予定 (R8～)			
—	—	紅葉谷線	紅葉谷への探勝歩道として整備する。	整備、補修、維持管理に当たっては沿線の自然改変を極力避ける。	G1	D(2/4)	針葉樹林	侵食はない 未整備、管理された良好な道	北海道	上川町	登山口周辺の冠水対策 (集水樹土砂抜き)	—	—	—	—			
—	3	層雲峡勇駒別線	黒岳林道口～層雲峡5合目RW駅舎付近	黒岳及び旭岳への幹線登山道並びにお鉢回りの登山道として整備する。	幹線登山道として、案内板、指導標、誘導標等が整備されている。建替え及び改良が行われているが、老朽化及び荒廃が進んでいる。一部には、植生保護のため木道等が整備されており、利用者の事故防止、湿原植物の保護のため、補修等を実施する。	G2	D(2/4)	針葉樹林、人工林	中～小規模の侵食、概ね安定未整備	北海道	—	—	—	—	—	—		
			黒岳5合目付近～黒岳7合目付近						G2	D(2/4)	チシマザサ群落	小規模の侵食、概ね安定未整備	北海道	—	—	—	—	
			黒岳7合目付近～見晴らし台						—	—	—	—	—	—	—	—	—	
			黒岳9合目付近～見晴らし台						—	—	—	—	—	—	—	—	—	
			黒岳7合目付近～黒岳山頂						G2	C(1/4)	チシマザサ群落、保全が必要な雪田群落	小規模の侵食、概ね安定 土留整備済み、周囲に小規模な侵食あり、利用者が多く頻りに補修必要	R7: 38,000 (7合目登山口)	北海道	—	—	—	—
			黒岳山頂～黒岳石室分岐						G3	C(1/4)	ハイマツ群落、保全が必要な風衝地群落・雪田群落あり	小規模の侵食、概ね安定 石ステップ等あり、概ね良好	—	—	—	—	—	—
			黒岳石室分岐～北海沢						G3	B(1/2)	ハイマツ群落、保全が必要な雪田群落あり	大～小規模の侵食、徐々に進行 土留等整備、周囲に小規模な侵食あり、概ね良好	—	—	イベントによる補修 (赤石川北側斜面)	—	—	
			北海沢～(ア)						G4	C(1/4)	ハイマツ群落、保全が必要な雷田群落	問題ない道、雪渓が遠くまで残る未整備	北海道	—	—	—	—	—
			(ア)～(イ)						G4	A(1/1)	ハイマツ群落、保全が必要な雷田群落・風衝地群落あり	大～小規模な侵食あり、著しく進行未整備	—	—	—	—	—	—
			(イ)～北海沢分岐～(ウ)						G3	C(1/3)	保全が必要な風衝地群落あり	小規模の侵食、徐々に進行 未整備	—	—	—	—	—	—
			(ウ)～黒岳分岐						G3	C(1/4)	保全が必要な風衝地群落あり	問題ない道、未整備	—	—	—	—	—	—
			黒岳石室分岐～お鉢展望台						G3	B(1/2)	ハイマツ群落、保全が必要な風衝地群落・雪田群落あり	大～小規模の侵食、徐々に進行 土留等整備、周囲に小規模な侵食あり、老朽化	北海道	—	イベントによる補修 (雲ノ平)	—	—	
			お鉢展望台～北嶺分岐						G4	C(1/4)	保全が必要な風衝地群落・高山砂礫地あり	小規模の侵食、概ね安定未整備	—	—	—	—	—	—
			北嶺分岐～中岳分岐						G4	C(1/3)	保全が必要な風衝地群落あり	大～中規模の侵食、概ね安定 土留等整備済み(H24)、概ね良好	環境省	—	・点検、維持管理、モニタリング (毎年)	—	—	—
中岳分岐～(ウ)						G4	C(1/4)	保全が必要な風衝地群落・高山砂礫地あり	問題のない道、未整備	北海道	—	・補修 (R7)	—	—	—			
(ウ)～間宮分岐						G4	A(1/1)	保全が必要な風衝地群落・高山砂礫地あり	大～小規模の侵食、著しく進行未整備	—	—	—	—	—	—			
間宮分岐～裏池から間宮分岐へのアプローチ						G3	C(1/3)	保全が必要な高山砂礫地あり	小規模の侵食 (登山道からの流出土砂が表見の池に堆積)、徐々に進行 未整備	R7: 32,000 (表見の池園地付近)	北海道	—	—	—	—			
裏池から間宮分岐へのアプローチ						G3	C(1/3)	保全が必要な高山砂礫地あり	小規模の侵食 (登山道からの流出土砂が表見の池に堆積)、徐々に進行 未整備	—	—	—	—	—	—			
旭岳山頂～表見の池園地						G2	B(1/2)	保全が必要な雪田群落、高層湿原あり	小規模の侵食、徐々に進行 木道土留整備、木道老朽化	北海道	—	・木道補修、点検 (天女が原登山道)	—	—	—			
—	—	黒岳石室～桂月岳	—	—		G3	C(2/2)	ハイマツ群落	大～小規模の侵食、徐々に進行未整備	—	—	—	—	—	—			
—	—	雲井ヶ原線	雲井ヶ原入口～雲井ヶ原湿原	雲井ヶ原湿原への探勝歩道として整備する。	自然環境の保全に留意することとし、登山利用者の事故防止、高山植物保護及び侵食防止のため必要に応じて保全対策を行う。湿原部分には、木道の整備を適切に行い、湿原植物の保護を図る。	非適用	非適用	針葉樹林、保全が必要な高層湿原あり	小規模の侵食、概ね安定 木道整備済み、老朽化著しい	—	未執行 (上川町が歩道敷地を借地)	ササ刈り、木道補修	—	—	—			
—	—	松仙園線	愛山溪温泉登山口～松仙園登山口	沼ノ平湿原への探勝歩道として整備する。	整備、補修、維持管理に当たっては、沿線の自然の改変を極力避け、湿原部分は木道の整備を適切に行い湿原植物の保護を図る。	非適用	非適用	針葉樹林	—	—	未執行	安足間林道	—	—	—			
—	—	松仙園線	松仙園登山口～松仙園分岐～八島分岐	登山者がぬかみきを見て登山道周辺の植物を踏みつけないよう登山道からの排水、簡易木道の設置等の維持管理をきめ細やかに行う。 「松仙園地区適正利用推進計画」(平成29年2月、北海道地方環境事務所)に基づき定められた利用ルールを遵守するよう指導する。	登山者がぬかみきを見て登山道周辺の植物を踏みつけないよう登山道からの排水、簡易木道の設置等の維持管理をきめ細やかに行う。 「松仙園地区適正利用推進計画」(平成29年2月、北海道地方環境事務所)に基づき定められた利用ルールを遵守するよう指導する。	非適用 ※R2～供用再開後、G4	非適用	針葉樹林、チシマザサ群落、保全が必要な高層湿原あり	小規模の侵食、植生回復しヤブ化 現在通行止め	・R7: 600 (松仙園登山口) ・利用適正推進計画に基づく利用方針、ルール設定	環境省	—	環境省：整備、改修、ルート開閉、モニタリング 泥濘箇所対策 (松仙園分岐付近～八島分岐間、現状は飛木道設置で対応) ・年間数百人の利用に留まり、利用圧は高くない。利用ルールの見直し (ex. 開放日の前倒し・延長、松仙園～八島分岐間の往復利用) も検討の余地あり	・中期的な補修計画の検討 ・利用方針の点検				
—	—	愛山溪温泉登山口～三十三曲分岐	北嶺岳への登山道として整備する。	登山利用者の事故防止、高山植物保護及び侵食防止のため、補修等を実施する。また、安全性の確保のため、必要に応じて一部の区間を閉鎖する等の措置を講じる。	登山利用者の事故防止、高山植物保護及び侵食防止のため、補修等を実施する。また、安全性の確保のため、必要に応じて一部の区間を閉鎖する等の措置を講じる。	G2	D(2/4)	針葉混交林、ダケカンバ林	小規模の侵食、概ね安定 石組、土留、木道等整備済み、周囲に小規模な侵食あるが概ね良好	R7: 1,700 (登山口)	北海道	—	渡渉箇所の木橋の維持	—	—			
—	—	三十三曲分岐～沼ノ平分岐								—	—	—	—	—	—	—		
—	—	三十三曲分岐～滝の上分岐								—	—	—	—	—	—	—		
—	—	沼ノ平分岐～滝の上分岐～標高1600m付近								—	—	—	—	—	—	—		
—	—	標高1600m付近～銀明水								—	—	—	—	—	—	—		
—	—	銀明水～永山岳								—	—	—	—	—	—	—		
—	—	永山岳～安足間岳分岐								—	—	—	—	—	—	—		
—	—	安足間岳分岐～愛別岳分岐～(ウ)								—	—	—	—	—	—	—		
—	—	(ウ)～北嶺岳								—	—	—	—	—	—	—		
—	—	北嶺岳～北嶺分岐								—	—	—	—	—	—	—		
—	—	愛別岳分岐～愛別岳								—	—	—	—	—	—	—		
—	—	当麻岳線	当麻乗越～(ア)	比布岳と当麻乗越を結ぶ登山道として整備する。	自然環境の保全に留意することとし、登山利用者の事故防止及び高山植物保護のため、整備、補修等を検討する。	G4	C(1/3)	ハイマツ群落、保全が必要な風衝地群落あり	中～小規模の侵食、徐々に進行未整備	—	未執行 (北海道が歩道敷地を借地?)	—	—	—	—	—		
—	—	(ア)～安足間岳								—	—	—	—	—	—	—		
—	—	安足間岳～安足間岳分岐								—	—	—	—	—	—	—		
—	—	標合分岐～(ア)								—	—	—	—	—	—	—		
—	—	(ア)～中岳温泉								—	—	—	—	—	—	—		
—	—	中岳温泉～中岳分岐								—	—	—	—	—	—	—		
—	—	沼ノ平表見の池線	沼ノ平分岐～六ノ沼	沼ノ平と表見の池を結ぶ探勝歩道として整備する。	登山利用者の事故防止、高山植物保護及び侵食防止のため、補修等を実施する。	G2	C(1/4)	ハイマツ群落、チシマザサ群落、保全が必要な高層湿原あり	小規模の侵食、徐々に進行 木道、土留整備済み、概ね良好	—	環境省 (※整理中)	—	—	—	—	—		
—	—	六ノ沼～当麻乗越～標合分岐								—	—	—	—	—	—	—		
—	—	標合分岐～表見の池園地								—	—	—	—	—	—	—		
—	—	表見の池園地	表見の池園地	表見の池園地	高山植物保護のため、北海道、東川町大雪山国立公園保護協議会等の協力により、園路にはロープを張り、周辺植生に立ち入らないよう努めるものとする。施設の規模については、現状程度とするが、特に混雑が見られ、周囲の植生に悪影響を及ぼす場合は、この限りでない。	G1	C(1/3)	保全が必要な雪田群落・高山砂礫地あり	小規模の侵食、概ね安定 土留等整備、小規模な侵食あるが概ね良好、利用多く頻りに補修必要	R7: 11,000 (表見の池園地付近)	北海道	—	点検、補修 (毎年)	・定期的な巡視点検の実施 ・登山道の大きな荒廃が発生する前に、きめ細やかな維持管理を実施する				
—	—	勇駒別園地	勇駒別園地 (見晴台コース・(ア)～(イ)～(ウ)～(エ)を除く)	(一部のみ) 自然体験利用促進のため、博物館展示施設の整備を図ると共に、地区外での自然探勝の利用が行われるよう努めるものとする。また、園路の車道との連携に留意しつつ自然観察路等を整備する。	再整備に当たっては、既設の自然探勝路の活用を検討するとともに、新たな自然探勝路の整備も検討し、集団施設地区全体で自然探勝の利用が行われるよう努めるものとする。また、園路の車道との連携に留意しつつ自然観察路等を整備する。	G1	C(1/4)	針葉混交林、保全が必要な高層湿原あり	問題ない道 階段等整備、概ね良好	—	—	—	—	—	—	—		
—	—	勇駒別園地	勇駒別園地 (地区北側)	—	—	G1	C(2/2or1/3)	針葉混交林	問題ない道 橋、階段等整備、橋老朽化	—	—	—	—	—	—	—		

公園計画・管理運営計画					登山道管理水準（2015）				管理・利用の現況			今後の利用目標	今後の管理方針				
地域	番号	路線名	区間	公園計画書(H31.3) 整備方針	管理運営計画書(R6.4) 一公園事業取扱方針（一部省略あり）	グレード(利用体験ランク)	保全対策ランク	植生の状況	荒廃、整備の状況	利用者数、利用状況	公園事業執行	維持管理、補修等	課題整理				
表大雪・縦走線	18	勇駒別周回線	(ウ)～(エ) (地区南側)	勇駒別集団施設地区周辺の自然探勝路として整備する。	夏期は自然観察探勝、冬期はクロスカントリーコースとして整備検討するとともに既存探勝歩道についても維持管理が適正に行われるよう関係機関と調整を図る。現道の維持管理と	G1	C(1/4)	保全が必要な高層湿原あり	問題ない道 木道土留整備、概ね良好		東川町?						
			見晴台コース (地区北側)	見晴台コース (地区北側)	現在、危険箇所があるため自然環境の保全に留意し、原則として、立木の伐採は行わないものとする。また、利用者の事故防止、高山植物保護及び侵食防止のため必要に応じて保全対策を行う。	G2	D(2/4)	針広混交林	問題ない道 未整備、一部ヤブ化		未執行?						
	19	天人峽勇駒別線	天人峽地岳温泉方面登山口～(ア)	天人峽温泉と勇駒別集団施設地区を結ぶ探勝歩道として整備する。	現在、危険箇所があるため自然環境の保全に留意し、原則として、立木の伐採は行わないものとする。また、利用者の事故防止、高山植物保護及び侵食防止のため必要に応じて保全対策を行う。	G3 (点線)	A(2/1)	針広混交林	登山道が前落、通行困難 未整備	通行止め (一般利用なし)	未執行		通行止め				
			(ア)～(イ)	(イ)～勇駒別園地	天人峽温泉と羽衣の滝・敷島の滝を結ぶ探勝歩道として整備する。	現在、危険箇所があるため通行止めを行っている。整備に当たっては、利用者層に比較的高齢者が多いことから、安全な通行確保のため、天人峽温泉から羽衣の滝までは、歩道幅員2.5m以内、羽衣の滝から敷島の滝までは、1.5m整備、補修、維持管理に当たっては、沿線の自然の改変を極力避け、侵食防止のため必要に応じて保全対策を行う。	G1	D	針広混交林	現在通行止め 調査未実施		北海道		通行止め			
	20	羽衣敷島の滝線	天人峽羽衣・敷島の滝入口～羽衣の滝滝見場	天人峽温泉と羽衣の滝・敷島の滝を結ぶ探勝歩道として整備する。	現在、危険箇所があるため通行止めを行っている。整備に当たっては、利用者層に比較的高齢者が多いことから、安全な通行確保のため、天人峽温泉から羽衣の滝までは、歩道幅員2.5m以内、羽衣の滝から敷島の滝までは、1.5m整備、補修、維持管理に当たっては、沿線の自然の改変を極力避け、侵食防止のため必要に応じて保全対策を行う。	非適用	非適用	針広混交林	現在通行止め 調査未実施		—		通行止め				
			羽衣の滝滝見場～敷島の滝	天人峽温泉と羽衣の滝・敷島の滝を結ぶ探勝歩道として整備する。	現在、危険箇所があるため通行止めを行っている。整備に当たっては、利用者層に比較的高齢者が多いことから、安全な通行確保のため、天人峽温泉から羽衣の滝までは、歩道幅員2.5m以内、羽衣の滝から敷島の滝までは、1.5m整備、補修、維持管理に当たっては、沿線の自然の改変を極力避け、侵食防止のため必要に応じて保全対策を行う。	G2	C(2/2)	針広混交林	現在通行止め 調査未実施	R7: 500 (登山口)			路肩決壊箇所の補修 (R7)		通行止め		
	21	天人峽化雲岳線	天人峽化雲岳方面登山口～滝見台	天人峽温泉と化雲岳方面登山口～滝見台	化雲岳への登山道として整備する。	整備、補修、維持管理に当たっては、沿線の自然の改変を極力避け、侵食防止のため必要に応じて保全対策を行う。	G2	C(2/2)	針広混交林	現在通行止め 調査未実施							
			滝見台～(ア)	(ア)～(イ)	(イ)～(ウ) (第二公園付近)	(ウ)～小化雲岳直下 (ボン沼南)	G4	D(2/4)	針広混交林	現在通行止め 調査未実施							
			(ア)～(イ)	(イ)～(ウ) (第二公園付近)	(ウ)～小化雲岳直下 (ボン沼南)	(オ)～化雲岳	G4	C(1/3)	ハイマツ群落、保全が必要な雪田群落あり	現在通行止め 調査未実施			林野庁				
			(イ)～(ウ) (第二公園付近)	(ウ)～小化雲岳直下 (ボン沼南)	(オ)～化雲岳	(イ)～(ウ) (第二公園付近)	G4	C(1/4)	ハイマツ群落、保全が必要な雪田群落、風衝地群落あり	現在通行止め 調査未実施							
	13	銀泉台白雲岳線	銀泉台～赤岳登山口	白雲岳への登山道として整備する。	整備、補修、維持管理に当たっては、沿線の自然の改変を極力避け、侵食防止のため必要に応じて保全対策を行う。	G2	D(2/4)	針広混交林	現在通行止め 調査未実施	R7: 9,900 (第一花園下)							
			赤岳登山口～第一花園	第一花園～見晴台	G3	C(1/3)	保全が必要な雪田群落あり	現在通行止め 調査未実施		北海道							
見晴台～赤岳			赤岳～白雲岳	G4	B(1/2)	ハイマツ群落、保全が必要な雪田群落、風衝地群落あり	現在通行止め 調査未実施					・第4雪渓付近の補修 (R3～) ・第2花園付近の補修 (R7) ・ロープ設置によるコースの明示	・第2・3・4花園等で侵食が著しく進行 ・赤岳山頂付近でのルートからの逸脱				
赤岳～白雲岳			赤岳～白雲岳	G4	C(1/3)	保全が必要な風衝地群落あり	現在通行止め 調査未実施										
14	高原温泉小泉岳線	大雪山高原温泉～第二花畑	小泉岳への登山道として整備する。	整備、補修、維持管理に当たっては、沿線の自然の改変を極力避ける。	G3	C(1/3)	針広混交林、ハイマツ群落、保全が必要な雪田群落、風衝地群落あり	現在通行止め 調査未実施	R7: 2,000 (登山口)								
		第二花畑～緑岳	緑岳～小泉岳分岐	G4	C(1/3)	針広混交林、ハイマツ群落、保全が必要な雪田群落、風衝地群落あり	現在通行止め 調査未実施				林野庁						
		緑岳～小泉岳分岐	板垣真道分岐～白雲岳避難小屋分岐	G4	C(1/3)	針広混交林、ハイマツ群落、保全が必要な雪田群落、風衝地群落あり	現在通行止め 調査未実施										
15	高原温泉高根ヶ原線	大雪山高原温泉～緑沼	高根ヶ原への登山道及び高原沼への探勝歩道として整備する。	「大雪山高原温泉地区管理運営計画」(案)に基づき定められている登山道の利用ルールを遵守するよう指導する。沿線の自然の改変を極力避けるため自然環境の保全に留意することとし、登山利用者の事故防止、湿原部分湿原植物の保護を図るため整備、補修、維持管理を適切に行う。	G2	C(1/4)	針葉樹林、保全が必要な高層湿原あり	問題ない道 木道土留整備済み、一部老朽化、頻繁な維持管理が必要	R6: 3,700 (ヒグマ情報センター利用者数)		北海道						
		緑沼～三笠新道分岐～ヤンベツ温泉分岐	三笠新道分岐～高根ヶ原分岐	G3	C(1/3)	針葉樹林、保全が必要な高層湿原あり	問題ない道 木道土留整備済み、一部老朽化、頻繁な維持管理が必要				北海道		・補修、木道・木橋の更新 ・ヒグマセンターにおける募金の活用、ボランティア活動				
		三笠新道分岐～高根ヶ原分岐	高根ヶ原分岐～緑沼	G5 (点線)	C(1/4)	保全が必要な雪田群落あり	問題ない道 木道土留整備済み、一部老朽化、頻繁な維持管理が必要	7月初旬以降、ヒグマの定着が確認され次第閉鎖		北海道							
17	ヤンベツ五ヶ原線	ヤンベツ川合流点～クチャンベツ沼ノ原登山口	沼ノ原及び五ヶ原への登山道として整備する。	整備、補修、維持管理に当たっては、自然環境の保全に留意することとし、登山利用者の事故防止、高山植物保護及び侵食防止のため十分な保全対策を行う。	—	—	—	—			未執行		層雲峡本流林道				
		クチャンベツ沼ノ原登山口～(ア)	(ア)～沼ノ原原入口付近	G4	C(2/2)	針広混交林	小規模の侵食、近年代替えたルート、徐々に進行	R7: 1,000 (登山口)			北海道		・官民協働登山道補修事業の実施 (コロンビア社との連携)				
		(ア)～沼ノ原原入口付近	沼ノ原入口付近～?	G4	A(2/1)	針広混交林、ダケカンパ林	小規模の侵食、周辺に小規模侵食あり										
		?～	五ヶ原分岐	G4	C(1/4)	針広混交林、保全が必要な高層湿原あり	問題ない道 木道整備済み、概ね良好					環境省		・点検、維持管理、モニタリング (沼ノ原分岐～沼ノ原木沼)	・湿原木道の老朽化は未だそこまで進行していないが、周辺の湿原も含め引き続き状況の注視が必要	・施設点検・モニタリングの継続実施 ・沼ノ原分岐横溝の補修	
12	大雪山縦走線	北海岳分岐～白雲岳分岐	大雪山を縦走する幹線登山道として、原始性の高い自然の雰囲気を保つために必要最小限又は必要な整備を行う。	沿線の自然の改変を極力避け、侵食防止のため必要に応じて保全対策を行い、登山利用者の事故防止及び高山植物保護のため、整備、補修等を実施する。	G4	A(1/1)	ハイマツ群落、保全が必要な雪田群落、風衝地群落、高山牧草地あり	大～小規模の侵食、進行著しい箇所あり			北海道		白雲岳避難小屋周辺登山道維持管理協力金による登山道補修				
		白雲岳避難小屋分岐	白雲岳避難小屋分岐～(ア)	G4	B(1/2)	ハイマツ群落、保全が必要な雪田群落あり	中～小規模の侵食、進行著しい箇所あり	R6: 協力金協力者数2,262			環境省		白雲岳避難小屋周辺登山道維持管理協力金による登山道補修				
		(ア)～高根ヶ原分岐	高根ヶ原分岐～平ヶ岳付近	G5	C(1/3)	ハイマツ群落、保全が必要な風衝地群落あり	中～小規模の侵食、概ね安定										
		平ヶ岳付近(イ)～(ウ)	(ウ)～忠別沼北(エ)	G5	B(1/2)	ハイマツ群落、保全が必要な雪田群落、風衝地群落あり	中～小規模の侵食、徐々に進行、ぬかるみや水溜りひどい										
		(ウ)～忠別沼北(エ)	忠別沼北(エ)～忠別沼南(オ)	G5	C(1/4)	ハイマツ群落、保全が必要な雪田群落あり	木道整備済み、部分的に老朽化					北海道		直轄再整備設計実施 (R3、高根ヶ原分岐～五ヶ原)			
		忠別沼南(オ)～忠別岳	忠別岳～忠別岳避難小屋分岐	G5	C(1/3)	ハイマツ群落、保全が必要な風衝地群落あり	木道整備済み、概ね良好だが一部老朽化										
		忠別岳～忠別岳避難小屋分岐	五ヶ原分岐～(イ)	G5	C(1/4)	ハイマツ群落	木道整備済み、概ね良好					北海道		直轄再整備設計実施 (R4、五ヶ原～ヒサゴ分岐、一部除く)			
		五ヶ原分岐～(イ)	(イ)～化雲岳周辺～ヒサゴ沼北分岐	G5	C(1/4)	ハイマツ群落、保全が必要な雪田群落、風衝地群落あり	木道整備済み、概ね安定										
		(イ)～化雲岳周辺～ヒサゴ沼北分岐	ヒサゴ沼北分岐～ヒサゴ沼南分岐	G5	C(1/4)	ハイマツ群落	木道整備済み、概ね安定										
		ヒサゴ沼北分岐～(ク)	(ク)～ヒサゴ沼避難小屋分岐	G5	A(1/1)	保全が必要な雪田群落あり	木道整備済み、概ね良好							直轄再整備設計実施 (R4、ヒサゴ沼周辺歩道)	・ヒサゴ沼周辺歩道については、雪解け水による歩道路肩の崩壊が進む	・老朽化した木道等について、現北海道の執行区間を環境省で再整備	
		(ク)～ヒサゴ沼避難小屋分岐	ヒサゴ沼避難小屋分岐～ヒサゴ沼避難小屋	G5	C(1/4)	保全が必要な雪田群落あり	木道整備済み、概ね良好										
		ヒサゴ沼避難小屋分岐～(コ)	(コ)～(サ)	G5	C(1/4)	保全が必要な雪田群落あり	木道整備済み、概ね良好										
		(コ)～(サ)	(サ)～ヒサゴ沼南分岐	G5	A(1/1)	保全が必要な雪田群落あり	木道整備済み、概ね良好										
		(サ)～ヒサゴ沼南分岐	ヒサゴ沼南分岐～天沼	G5	C(1/4)	巨岩帯、保全が必要な風衝地群落あり	問題ない道 未整備										
		天沼～北沼分岐	北沼分岐～トムラウシ山	G5	C(1/4)	ハイマツ群落、保全が必要な風衝地群落あり	問題ない道 未整備										
		北沼分岐～トムラウシ山	トムラウシ山～トムラウシ分岐～南沼	G5	C(1/3)	ハイマツ群落、巨岩帯、保全が必要な風衝地群落あり	問題ない道 未整備										
		トムラウシ山～トムラウシ分岐～南沼	南沼～三川台～(イ)	G5	A(1/1)	ハイマツ群落、巨岩帯、保全が必要な風衝地群落あり	問題ない道 未整備										
		南沼～三川台～(イ)	(イ)～(ウ)	G5	C(1/4)	ハイマツ群落、チシマザサ群落、保全が必要な風衝地群落あり	問題ない道 未整備										
		(イ)～(ウ)	(ウ)～(エ)	G5	C(1/3)	ハイマツ群落、チシマザサ群落、低木群落	問題ない道 未整備										
		(ウ)～(エ)	(エ)～(オ)	G5	C(1/3)	ハイマツ群落、チシマザサ群落	問題ない道 未整備										
		(エ)～(オ)	(オ)～(カ)	G5	C(1/4)	ハイマツ群落、チシマザサ群落	問題ない道 未整備										
		(オ)～(カ)	(カ)～(キ)	G5	C(1/4)	ハイマツ群落、チシマザサ群落	問題ない道 未整備										
		(カ)～(キ)	(キ)～(ク)	G5	C(1/4)	ハイマツ群落、チシマザサ群落	問題ない道 未整備										
(キ)～(ク)	(ク)～オプタテシケ山	G5	C(1/3)	ハイマツ群落、チシマザサ群落、保全が必要な雪田群落、風衝地群落、雪田群落あり	問題ない道 未整備												

公園計画・管理運営計画				登山道管理水準 (2015)				管理・利用の現況			今後の利用目標	今後の管理方針	
地域	番号	路線名	区間	公園計画書(H31.3) 一整備方針	管理運営計画書(R6.4) 一公園事業取扱方針(一部省略あり)	グレード(利用 体験ランク)	保全対策 ランク	植生の状況	荒廃、整備の状況	利用者数、利用状況	公園事業 執行	維持管理、補修等	課題整理
十勝岳 周辺	-	-	オプタテシキ山～美瑛富士 分岐～十勝岳・美瑛富士分 岐	-	-	G4	C(1/3)	ハイマツ群落、保全が必要な 風衝地群落・雪田群落・高山 砂礫地あり	中～小規模の侵食、徐々に進行 未整備	-	-	-	-
			C(1/4)				保全が必要な風衝地群落・高 山砂礫地あり	小規模の侵食、概ね安定 未整備					
			C(1/3)				ハイマツ群落、保全が必要な 風衝地群落あり	中～小規模の侵食、徐々に進行 未整備					
			C(1/4)				問題ない道 未整備	問題ない道 未整備					
			C(1/3)				ハイマツ群落、保全が必要な 雪田群落あり	中～小規模の侵食、徐々に進行 土留、ステップ等整備、状態良好					
			C(1/3)				ハイマツ群落、保全が必要な 風衝地群落あり	大規模の裸地あり、歩行部は整備済みで 概ね安定 土留整備済み、状態良好					
			A(1/1)				保全が必要な風衝地群落あり	大～小規模の侵食が集中、進行早い 未整備					
			C(1/3)				保全が必要な風衝地群落あり	中～小規模の侵食、概ね安定 未整備					
			D(2/4)				チシマザサ群落、低木群落	問題ない道、ぬかるみ 未整備					
			C(1/4)				針葉樹林、保全が必要な高層 湿原あり	前回調査の複線化箇所で植生回復、ぬか るみひどい、未整備					
			C(1/3)				針葉樹林、保全が必要な高層 湿原あり	中～小規模の侵食、ぬかるみ、概ね安定 未整備					
			D(2/4)				針広混交林	問題ない道 未整備					
			B(1/2)				ハイマツ群落、保全が必要な 雪田群落あり	中～小規模の侵食、徐々に進行 未整備					
			C(1/3)				針広混交林、ダケカンバ林、 ハイマツ群落、保全が必要な 風衝地群落あり	中～小規模の侵食、徐々に進行 未整備：(注)一般供用された登山道では ない					
			C(1/3)				ハイマツ群落、保全が必要な 風衝地群落・雪田群落・高山 砂礫地あり	中～小規模の侵食、徐々に進行 未整備					
C(1/3)	ハイマツ群落、保全が必要な 雪田群落あり	中～小規模の侵食、概ね安定 未整備											
22	美瑛富士線	美瑛富士登山口～標高1350m 付近 標高1350m付近～美瑛富士 避難小屋分岐／美瑛富士避難 小屋・オプタテシキ方面分 岐	美瑛富士への登山道として整備 する。	整備、補修、維持管理に当たっては、自然環境の保全に留意 することとし、登山利用者の事故防止、高山植物保護及び侵 食防止のため十分な保全対策を行う。	C(2/2or1 /3)	針広混交林、針葉樹林、ダケ カンバ林、ハイマツ群落	中～小規模の侵食、徐々に進行 未整備	R7: 500 (原始ヶ原登山口)	R7: 700 (登山口)	-	枝払い、ササ刈り		
-	-	白金温泉ウグイス谷歩道 口～望岳台(ウグイス谷歩 道)	-	-	G2	C	針広混交林	調査未実施					
23	白金温泉十勝岳 線	白金温泉望岳台歩道口～望 岳台(望岳台歩道)	望岳台及び十勝岳への登山道 として整備する。	整備、補修、維持管理に当たっては、自然環境の保全に留意 することとし、高山植物保護、侵食防止及び登山利用者の事 故防止のため、ロープ張り等の整備について関係機関と調整 を図る。	非適用	非適用	針広混交林	中～小規模の侵食、進行著しい箇所あり 旧スキーコース(望岳台歩道)		北海道?			
-	-	望岳台～十勝岳	-	-	G3	C(1/4)	保全が必要な硫黄荒原群落・ 高山砂礫地あり	小規模の侵食、概ね安定 未整備	R6: 13,000 (十勝岳登山口)	北海道		・望岳台付近ロープ張り(振興局) ・登山道沿いのロープ張り、ロープ降 ろし(PV)	
25	美瑛岳線	雲ノ平分岐～美瑛岳分岐 美瑛岳分岐～美瑛富士分岐 美瑛岳分岐～美瑛岳 美瑛岳～十勝岳・美瑛富士 分岐	美瑛岳への登山道として整備 する。	整備、補修、維持管理に当たっては、自然環境の保全に留意 することとし、登山利用者の事故防止、高山植物保護及び侵 食防止のため、現道の維持管理を適切に行うほか、特にポン ジ沢の付近は、急斜面の箇所があり、ロープの設置等をし、 歩行者の安全対策に留意する必要がある。	G3	C(1/3)	ハイマツ群落、保全が必要な 風衝地群落あり	小規模の侵食、概ね安定 土留整備 (ハ イマツ帯の箇所)、小規模な侵食		-	ポランティアで随時パトロール	・北向沢のハンゴの維持管理	
-	-	望岳台南分岐～泥流分岐	-	-	G3	C(1/4)	ハイマツ群落、保全が必要な 風衝地群落あり	小規模の侵食、概ね安定 未整備		-			
-	-	望岳台南分岐～泥流分岐	-	-	G3	B(1/2)	ハイマツ群落、保全が必要な 風衝地群落あり	大～小規模の侵食、進行著しい(ハイマ ツ群落) 未整備		-			
-	-	望岳台南分岐～泥流分岐	-	-	G3	C(1/4)	保全が必要な風衝地群落あり	問題ない道 未整備		-			
24	望岳台十勝岳温 泉線	白銀荘分岐～泥流分岐～吹 上温泉十勝岳方面登山口 吹上温泉～十勝岳温泉 十勝岳温泉西分岐～十勝岳 温泉吹上温泉方面口/旧国 民宿舎	望岳台と十勝岳温泉を結ぶ探 勝歩道として整備する。	現道の維持管理と利用者の事故防止及び利便性の確保のため に必要な対策を行う。	G2	C(1/4)	針葉樹林、ハイマツ群落、保 全が必要な風衝地群落・硫黄 荒原群落あり	小規模の侵食、概ね安定 未整備		-		計画のみ 歩道なし?	
-	-	吹上温泉～十勝岳温泉	-	-	G2	D(2/4)	針広混交林	問題ない道 未整備		-			
26	三段山線	吹上温泉三段山方面登山口 ～三段山分岐	三段山への登山道として整備 する。	現道の一部は危険な箇所があることから、整備、補修、維持 管理に当たっては、現道の維持と登山利用者の事故防止及び 利便性の確保のために必要な対策を行うものとする。	G3	C(1/3)	針葉樹林、針広混交林、ハイ マツ群落、保全が必要な風衝 地群落あり	中～小規模の侵食、概ね安定 土留整備、周囲に小規模侵食生じ老朽化		上富良野町		・老朽化した標識の再整備(三段山分 岐標識) ・山頂付近のロープ張り ・ササ刈り、倒木処理	
27	富良野岳上ホロ カメツク山線	十勝岳温泉登山口～上ホロ 分岐 上ホロ分岐～上富良野岳 上ホロ分岐～(イ) (イ)～(ウ) (ウ)～富良野岳肩分岐	富良野岳及び上ホロカメツク 山への登山道として整備す る。	整備、補修、維持管理に当たっては、自然環境の保全に留意 することとし、登山利用者の事故防止、高山植物保護及び侵 食防止のため、安政火口までは軽登山ルートとしてある程度 の幅員を確保し、それ以後は登山道として最小限の幅員とす る。	G3	C(2/2)	針広混交林、チシマザサ群 落、ハイマツ群落	中～小規模の侵食、著しく進行 土留、排水整備、小規模侵食生じケー ブル露出	R7: 16,000 (安政火口)	北海道		・PV活動による登山道沿いのロープ張 り・下ろし	
-	-	上ホロ分岐～(イ)	-	-	G3	C(1/3)	チシマザサ群落、ハイマツ群 落、保全が必要な雪田群落・ 風衝地群落あり	中～小規模の侵食、徐々に進行 土留整備、周囲に小規模侵食あり		北海道			
-	-	(イ)～(ウ)	-	-	G3	C(2/2or1 /3)	針広混交林、チシマザサ群 落、ハイマツ群落	中～小規模の侵食、徐々に進行 土留整備、周囲に小規模侵食あり		北海道			
-	-	(ウ)～富良野岳肩分岐	-	-	G3	D(2/4)	チシマザサ群落、ハイマツ群 落	問題ない道 未整備		北海道		・浸食等の現場検証及び老朽化した標 識盤再整備予定、(上川総合振興局)	
-	-	富良野岳分岐～勝竜ノ滝	原始ヶ原への探勝歩道として 整備する。	富良野市三の沢歩道分岐からニングルの森を経由し五反沼ま での遡原探勝路は、林間コース(天使の泉、広原の滝を経由 する。)と滝コース(不動の滝、勝竜の滝を経由する。)の 2コースがある。遡原探勝路は、遡原の高山植物が踏圧によ り荒廃していることから、植生保護のため、歩行区域を設定 する等必要な措置を講ずる必要がある。 整備、補修、維持管理に当たっては、沿線の自然環境の保全 に留意することとし、利用者の事故防止、高山植物保護及び 利便性の確保のために必要な対策を行うものとする。	G5	C(1/4)	保全が必要な高層湿原あり	問題ない道 未整備		-		●下草刈、枝払い	
-	-	滝・沼コース分岐～五反沼	-	-	非適用	非適用	保全が必要な高層湿原あり	問題ない道、ヤブ化著しい、ルート不明 瞭 未整備		-			
-	-	五反沼～富良野岳肩分岐	-	-	-	-	-	-		-			
-	-	勝竜ノ滝～不動ノ滝入口	-	-	G5	D	針葉樹林	調査未実施		-			
-	-	不動の滝入口との連絡部～ 布礼別登山口分岐	-	-	非適用	非適用	針葉樹林	調査未実施		-			

<当面の取組方針等(案)>

○「登山道の管理状況」「野営指定地・避難小屋等の管理状況」資料を用いた区間・地点ごとの課題整理、認識共有、計画の進捗状況を評価する仕組みを検討。

【登山道部会、R7～】

○特定の区間を選定した集中的な保全計画・管理方針の検討。必要に応じて管理水準の見直しを実施。【登山道部会・各管理者等、R8～】

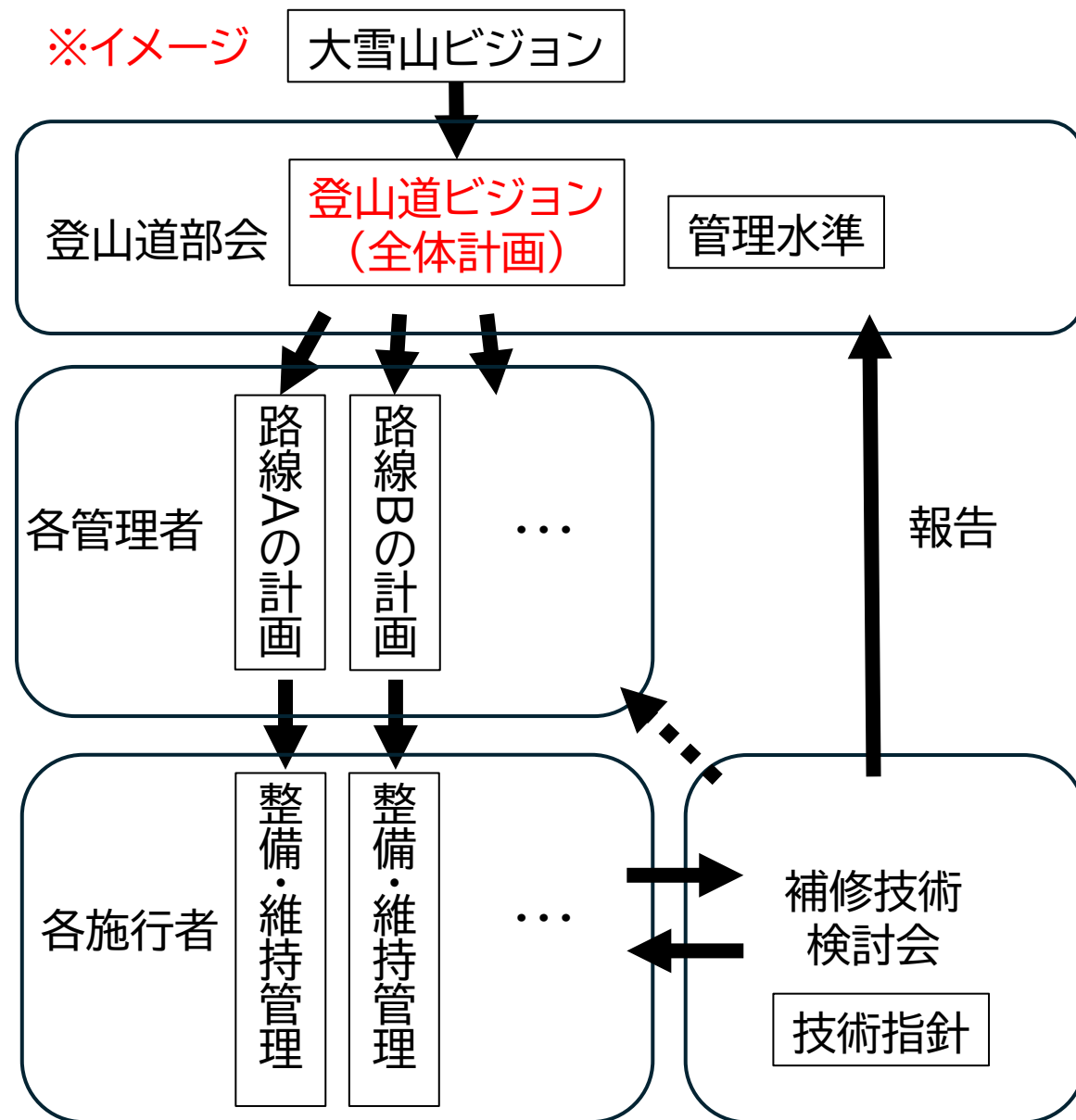
○事業執行者の配置の見直し、登山道未執行区間の解消など、整備・維持管理を行う路線・区間のメリハリをつけた全体計画(野営指定地を含む)の検討。

【登山道部会・行政機関、R8～】

○登山道等の利用・管理方針や配置計画からなる全体計画(=登山道ビジョン?)の構想の検討(上記取組みを踏まえながら検討。)

【登山道部会、R8～】

※イメージ



<別紙2>野営指定地・避難小屋等の管理状況

2025/12/26時点版

場所	市町	野営指定地		避難小屋		トイレ/携帯トイレブース			現況の課題	今後の方針・目標	
		保全対策 ランク	利用者数、利用状況	管理者、管理状況	利用者数・利用状況	管理者、管理状況	設置状況	利用者数・利用状況			管理者、管理状況
黒岳石室	上川	C		NPO悠久の森		りんゆう観光・管理人常駐	トイレ・携帯トイレブース	R6：12,065人	北海道 トイレのみ利用協力金500円/人	・野営指定地の一部でガリー侵食が進行 ・トイレの生物処理が十分機能せず、改善の検討・作業を実施中。一部を携帯トイレブースとして使用	
裏旭	東川	B	R6：7/19～9/29(73日間)でテント数168張、約228人	管理者なし	—	—	仮設携帯トイレブース(R5・6)	R6(7/4～9/30)：580人(手動カウンター)	R5・6に環境省業務で実施 R7は未実施、以降未定	・周辺の利用拠点との位置関係や雷田/風衝地草原保全上、野営指定地としての存続の要否を要考慮 ・携帯トイレブースの定期設置に際しては、維持管理体制の構築が課題	状況をみつつ、野営指定地及びトイレのあり方について関係者間で検討
姿見の池	東川	—	—	—		北海道・無人管理	携帯トイレブース		北海道 東川町や民間団体による巡視時に点検・清掃支援		
白雲岳	上川	C	R6：宿泊者994人	上川町(環境省との協定に基づく)宿泊協力金500円/泊	R6：宿泊者1,025人、日帰り利用者687人	上川町(環境省施設)・管理人常駐	トイレ		北海道 避難小屋で管理	・付帯トイレは今後環境省による改修を予定	改修再整備に向けた、汲取物の搬出その他維持管理体制全般の検討・調整(R8～)
忠別岳	上川	D	R6：避難小屋設置ノートの記録で7/3～9/21のテント数43張	管理者なし		北海道・無人管理	トイレ		北海道 白雲岳避難小屋管理人による巡視時に点検・清掃の支援	・避難小屋の老朽化が著しい ・避難小屋及び付帯トイレは今後環境省による改修を予定	改修再整備に向けた、維持管理体制全般の検討・調整(R8～)
ヒサゴ沼	新得	B				北海道・無人管理	トイレ		北海道		
トムラウシ南沼	新得、美瑛	B	R7：自動カメラによる調査で6/17～9/30のテント数497張	管理者なし	—	—	携帯トイレブース	R7：704(手動カウンター)	北海道 新得山友会に委託		
双子池	美瑛、新得	A			—	—	—	—			
美瑛富士	美瑛、新得	D		管理者なし		美瑛町・無人管理	携帯トイレブース	R7：479(手動カウンター)	美瑛町、美瑛富士トイレ管理連絡会、環境省(環境省施設)		
十勝岳	美瑛	—	—	—		林野庁・無人管理	—	—	—		
上ホロカメットク	上富良野、新得	C		北海道		北海道・無人管理	トイレ		北海道 地元山岳会による巡視時に点検・清掃の支援		
沼ノ原大沼	上川	D		管理者なし	—	—	—	—	—	・沼畔に位置し、時期により水没する ・携帯トイレブース設置の必要が課題提起されており(＜山トイレの会R6調査報告書)、維持管理体制の検討が課題とされている	
ブヨ沼	上士幌、上川	D		管理者なし	—	—	—	—	—		
小天狗のコル	上士幌	D		管理者なし	—	—	—	—	—		
ニベツツ山前天狗	上士幌	なし		管理者なし	—	—	携帯トイレブース		北海道 ひがし大雪自然ガイドセンターに委託	管理運営計画改定時に追加 大連協HPの登山情報>野営指定地にも未掲載	

●登山道ビジョン意見照会結果

No.	内容(小分類)	意見	提出者
1	進め方	ビジョンの策定にあたっては、誰のため、何のためを明確にして議論することが必要	北海道大学大学院 愛甲教授
2	進め方	大雪山国立公園ビジョンや、公園計画、管理運営計画での記述内容を確認した上で、それらにもとづく議論と検討が必要	北海道大学大学院 愛甲教授
3	進め方	平成18年の大雪山国立公園登山道管理水準と登山の心得、2015年改訂版の登山道管理水準、2016年改訂版の登山道整備技術指針の記述内容を確認した上で、それらにもとづく議論と検討が必要	北海道大学大学院 愛甲教授
4	進め方	それらに加えて、最近の登山道の崩壊の状況、利用状況の変化を整理し、その上での検討が必要	北海道大学大学院 愛甲教授
5	進め方	専門用語・行政用語の使用を一般利用者にも分かりやすく・・・営造物公園（専用公園）、地域制公園（網掛け公園）、歩道（登山道）、補修・維持管理（整備）など法律上規定されている用語や専門用語は一般利用者には分かり難い。法律的に正しくても世間一般には不要なもの。ポイントは、利害関係者がスムーズなコミュニケーションを図ることを念頭に用語を使うことが肝要。	山岳レク研 山口事務局長
6	進め方	西暦の優先的採用・・・登山道のデータ管理、経年視点、持続性、およびPDCA議論などを行う上では和暦は不都合でデータすべてを西暦または併記にすべき。	山岳レク研 山口事務局長
7	進め方	本件の名称・・・「登山道ビジョン」より「大雪山における登山道のあり方方針」のほうが良いと思う。	山岳レク研 山口事務局長
8	進め方	登山者においてもそれぞれ登山道に対して求める状態が異なるため、登山者にとっても共通認識となると良いと思います。	Asahidake Trail Keeper 藤代表
9	進め方	ビジョンの共有 「登山道ビジョン」というような大きな指針を考えるうえで、100年後200年後に大雪山をどのような形で残したいのかというイメージを共有する必要があると考える。これまでの90年間は、利用重視というか利用一辺倒の90年だった。国立公園内に国道が通り、大きなダムが作られて生態系が分断されてきた。今後の100年も同じ方向で進むのか、それとも立ち止まって少し考え直すのか、そんなことも含めて、未来の大雪山のイメージを関係者間で共有したほうが良いのではないかと。	山樂舎BEAR 佐久間代表
10	施設配置・管理計画	登山道は利用施設でなく保護施設という共通認識の確立・・・「安全・快適・便利」の名の下に整備されてきた「利用施設」である登山道は、今後は利用圧から自然環境を守り利用者に利用体験を与えるための「保護&誘導施設」と位置付けるべき。	山岳レク研 山口事務局長
11	施設配置・管理計画	維持管理が困難な登山道は一時閉鎖～廃道の判断をすべき・・・管理者不在区間および管理区間を問わず、利用に対して持続的な維持管理が困難で登山道利用を起因とする自然環境の悪化が認められる区間は、持続的利用やネイチャーポジティブの概念に照らし合わせても将来の維持管理が見通せるまで「一時閉鎖」～「廃道」の検討が必要。	山岳レク研 山口事務局長
12	施設配置・管理計画	登山道や設置物の維持管理が大雪山全体で不足なく行われている状態を目指した上で、行き過ぎた整備等がないようバランスのとれたビジョンであってほしいと思います。	Asahidake Trail Keeper 藤代表
13	施設配置・管理計画	NPO法人かむいは2020年に大雪山国立公園の全域において笹刈りと倒木処理を行いました。（→別表1）総延長100kmを越えており、大雪山の登山道300kmの3分の1が笹刈り必要なルートとなっています。 その他の必要と思われるルート（→別表2） その他の笹刈り必要箇所を含めると150kmを越えて大雪山の2分の1が笹刈りやハイマツ刈りが必要となります。この区間を一気に施工することは不可能ですので、スケジューリングを行い、優先順位をつけて作業を進めていく必要があると思われます。事業執行されているルートに関してはそれぞれの管理者が予算をつけて行って欲しいと思いますし、未執行区間に関しては予算が取れないのであれば笹刈り協力金等の対応で行っていく等、今後検討していかなければならないものと思います。 その他の笹刈りルートの中に扇沼山～三川台及び忠別直登シビナイのルートを入れていますが、これは今後の作業等に必要不可欠なルートだと考えています。双子池から三川台の笹刈りについては前回美瑛富士登山口から入り双子池をベースに6泊で100人工を超える作業となりました。扇沼山から入山して作業を分散出来ればまだまだ楽な作業になるものと言えます。 2020年に一斉に笹刈りを行ったので、現在ではすでに笹に覆われている区間が多々ありますので、今後早急に笹刈りを進めていきたいと考えます。10年放置されてから作業を行うと笹刈りの労力がとてつもないものになります。最低でも5年の1度くらいは笹刈りを行わなければなりません。根曲がり廊下に関するも放置年数が多いほど、太く切りづらい笹に成長してしまいます。そうなる前に対応できるようにお考え下さい。	NPOかむい 濱田代表理事
14	利用のあり方	登山道の場所毎の利用のあり方を決める・・・登山道の具体的な利用目標が無いために、利用者も管理者も多くの登山道で利用を最適化することなく今日に至っている。即ち場所毎の「適正利用方法」と「適正人数」がほとんど存在していない（＝来る者拒まず&やることほぼ自由状態）。大雪山には利用体験グレードがあって、抽象的ではあるが利用体験の目標が場所毎に定められているが、これの本来の意味が忘れ去られている。もう一度原点に戻って利用のあり方を決め、それに沿った登山道の利用と保全の管理体制が必要である（＝無秩序な利用に対する管理方法は定まらない）。	山岳レク研 山口事務局長

No.	内容(小分類)	意見	提出者
15	利用のあり方	大雪山グレードの具体的な議論・・・同グレードは「登山の難易度の指標」と誤解されているが、「多様な利用体験のための指標」である。グレード1や2では観光客や気軽な利用者にどうした利用体験を与えてどう整備をしていくのか。グレード4や5では利用者のための利便性や安全性のための整備より本来の大雪山らしい貴重な体験をどう担保していくのかといった議論が必要である。(先の利用の場所毎のあり方の議論と重複しているが取って再記述する)	山岳レク研 山口事務局長
16	利用のあり方	大雪山グレードとの関係 生態系の保全を基本としつつも、利用者のレベルにも配慮する。 グレード1：観光客の利用が多いことが想定されるため、年配者でも無理なく利用できる程度の整備を行う。(利用に重点) グレード2：登山道ではあるが初心者の利用も多いため、道標やロープなどで道迷いに配慮し、登山道外の植生踏み付けを防ぐ。(利用にやや重点) グレード3：中級レベル以上の利用を想定し、人工物の設置はできるだけ少なくし、景観に配慮した登山道のデザインに努める。(保全にやや重点) グレード4：植生保護目的を除き、段差処理などの人工物は最低限にとどめる。ペンキのマーキングは必要最低限にする。(保全に重点) グレード5：ロープは植生保護の目的のみ、道標も最低限にとどめる。ペンキのマーキングはしない(保全に特に重点)。	山樂舎BEAR 佐久間代表
17	利用のあり方	動植物への影響を最小限とする利用ルールの作成・・・登山道利用での地形改変、植生荒廃、野生動物(ナキウサギ、ヒグマ、シマフクロウ等)生態への影響が考えられる場合、利用の制限(期間制、時間制、場所制、人数制)を行うルールが必要で、現在一部(高原温泉、三笠新道、松仙園等)で行われているようなルールを他の場所にも拡大して考える。	山岳レク研 山口事務局長
18	利用のあり方	登山道利用における自己責任の原則論・・・登山道利用は「能動的非常体験」であり日常生活で担保されるリスク責任論は適用されないことを共通認識とすべき。即ち原則的に自己責任。ただし、大雪山グレード1や2などでは観光客や日帰りハイクなどの「日常性の中の体験」要素もあることから、登山道すべてが自己責任というくくりではない。(この考え方は奥入瀬裁判や愛別岳裁判でも示唆されている)	山岳レク研 山口事務局長
19	施工技術・人材育成	土砂流出を防止するため、在来の線形・工法・維持管理手法の見直し・・・登山道の最大の脅威は様々な要因で起る土砂流出である。土砂流失を最小限にするには既存の線形(ルート)、在来工法、および維持管理手法を適時見直すべき。これらに関しては登山道整備指針の中にある「近自然工法」や「PDCAサイクル」を実行すること、一方、大きなルート変更に関しては今後の公園計画や公園管理計画時に見直す必要がある。(ルート変更や工法見直しに関しては既に良い事例や悪い事例がありこれに学ぶことが大切)	山岳レク研 山口事務局長
20	施工技術・人材育成	数年～数十年後の景観やメンテナンスも考慮した登山道のあり方を望みます。	Asahidake Trail Keeper 藤代表
21	施工技術・人材育成	大雪山らしさに配慮し、登山道や人工物のデザインに統一感を出す。現状では登山道の施工主体(業者や団体または行政機関)によって施工法や材料がバラバラで統一感がない。薄い板と木杭や番線を使った階段など、いかにも付焼刃的な施工は止め、できるだけ自然木(枯損木など)を利用した、景観に配慮したデザインにする。植生保護のためのロープは、虎ロープや派手な色は控え、景観になじむ色に統一する。木道やグレーチングの設置に関しては、直線部分ではできるだけ真っ直ぐに、曲線部分では美しいカーブを描くように設置する。	山樂舎BEAR 佐久間代表
22	施工技術・人材育成	土木業者による施工から山関係者による施工に徐々に移行する。土木業者による施工は、ヘリコプターでの荷揚げや作業員の宿舎の仮設など費用が高み、とくに宿舎やトイレの仮設は周辺環境への負荷がかかるほか、登山者に不快感を与える。また、作業効率を優先するあまり、周辺の植生への配慮を欠いた施工も見受けられる。これに対して、北海道山岳整備や旭岳トレイルキーパーなどの山岳地域の登山道整備に特化した業者や、山岳会・ボランティアなど、大雪山の生態系に精通した業者や団体による施工は、周辺環境への負荷が低く、費用対効果も高い。資材や燃料などのコストが上昇している現状を踏まえると、今後の事業主体は後者が相応しいと思われる。	山樂舎BEAR 佐久間代表
23	施工技術・人材育成	人材の育成と次世代への継承に努力する。夏場に登山道の維持・管理・整備に従事する人たちの冬場の雇用を確保することで、年間を通じて「山に関わる」ことが出来るようにする。現状では山関係者の高齢化が進んでおり、知識や技術を時代に継承するうえで、年間を通じた雇用の確保は必須と考える。	山樂舎BEAR 佐久間代表
24	状態把握・記録	PDCAに沿った登山道調査およびデータの集積・・・順応的管理の基本はPDCAにあり。登山道の調査やデータ集積はPDCAサイクルに沿って行われるべきである。「取りあえず現状調査」ではなく、維持管理プロセスに実効あるデータとなる調査項目および調査手法を取るべきである(=効率的データ集積)。現時点で調査手法が確立されていなければ、経年変化を記録するためにGoProカメラ映像(可能なら360度映像)で基礎データを撮影しておくのが良いと考える。	山岳レク研 山口事務局長

※佐久間さんからの提出意見では、冒頭に『「ビジョン」というような大きな指針を提示することはできませんが、現場で登山道の維持・管理・整備をするうえで忘れてはならない考え方を箇条書き風に記します。』の記載あり。

※濱田さんからの提出意見(No.13)では、ササ刈り等の実施区間や今後必要な区間について一覧表の提示あり →別表として次シートに掲載

別表1 (2020年のササ刈り・倒木処理実施区間)

クチャンベツ沼の原から五色岳	11.0km
双子池から三川台	10.5km
沼の原分岐からニペ耳JP	7.0km
石狩分岐からヌプントムラウシ温泉	7.5km
愛山溪から滝の上分岐(滝コース)	3.3km
滝の上分岐から1600m	1.8km
滝の上分岐から沼の平分岐	0.5km
雲井ヶ原湿原	0.7km
ウペペサンケ山糠平コース	13.0km
朝陽山	2.5km
東雲湖から天望山	8.5km
東ヌプカウシヌプリ	1.8km
駒止湖	0.9km
天人峡温泉から第一公園	6.0km
十勝岳新得コース	3.2km
紅葉谷	0.5km
クマネシリ	5.2km
南クマネシリ	2.6km
西クマネシリ	3.5km
ピリベツ	10.5km
総延長距離	100.5km

別表2 (その他の必要と思われるルート)

当麻乗越～安足間		2 k m
平ヶ岳付近		1 k m
忠別～五色～化雲	ハイマツ	6 k m
忠別直登シビナイ		6.5 k m
天人峡第二公園		2.0 k m
扇沼山～三川台		7.5 k m
美瑛富士登山口～		6.0 k m
ポンピ沢付近		2.0 k m
吹上～三段山		3.0 k m
十勝三又から十石峠		5.5 k m
ニベソツホロカ		7 k m
ニセイカウシュッペ		5.2 k m
総距離		53.7 k m

歩道等維持管理作業実施手順マニュアルに基づく実施状況

○基本的な実施手順:右図「作業実施手順フロー図」

○令和7年シーズンの作業計画案件登録状況:次頁。全て「事後検討案件」に該当

○令和7年シーズンの作業結果報告状況

- ✓ 作業計画登録案件(環境省発注業務内での実施分は、業務完了時の報告書にて把握)
- ✓ 第10回登山道部会に向けて提出された構成員からの報告資料
- ✓ 事前登録不要の「報告のみ案件」については、パークボランティアで実施したササ刈り(9/4実施)のみ結果報告あり

<論点整理>

- ✓ 作業計画案件の登録は、大雪山でシーズン中に実施された補修案件の一部に留まっている。また、実施後の結果報告も業務や部会等の契機がない限りほとんど提出されていない

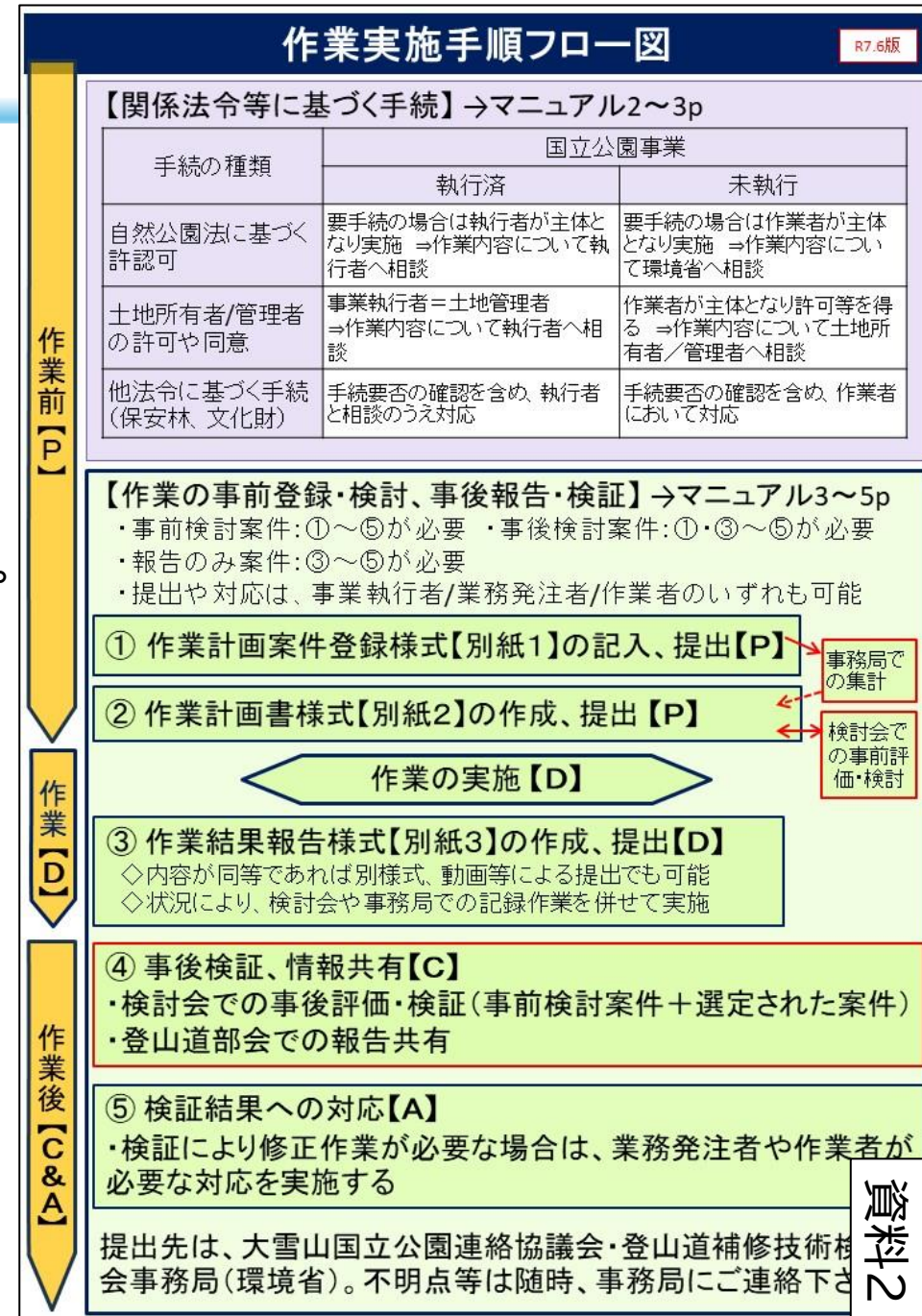
ニ考えられる要因:

- ・ マニュアルに基づく作業実施手順の再開初年度のため、フローに基づく実施が構成員に十分定着していない
- ・ 補修の実施予定は概要レベルでも比較的实施直前に決まってくることも多く、現場作業を中心に回っているシーズン中になると一覧への記入や事務局への連絡を行う時間やタイミングが不足
- ・ 個々の案件の登録や報告を行う意義が構成員間でも十分認識/共有されていない可能性あり

- ✓ 全ての補修案件を事前登録、結果報告する仕組み自体が現実的でない可能性あり。一方で、計画的・技術的に不十分な施工を事前に抑止する目的があることについて十分に留意する必要あり

- ✓ 個別の補修案件ではなく、区間ごとの補修計画を協議会で把握、審議して共有する手法も考えられる(上川総合振興局等でも検討中)

○ マニュアル改訂の可能性も含め、今後必要と考えられる実施内容や目的について意見交換したい。



歩道等維持管理作業実施手順マニュアルに基づく実施状況

歩道の維持管理作業(補修等)作業計画案件一覧 令和7(2025)年

計画者名	作業計画箇所	課題	作業内容の方向性	作業日程(予定)
(例) ○○○○○	沼ノ平 六ノ沼～当麻乗越	歩道上流水による侵食の進行、歩道法面の崩れ	歩道法面の補強、導流工設置	8月上旬
1 北海道地方環境事務所	沼ノ平姿見の池線 ピウケナイ沢～裾合平分岐	既存木道の老朽化、歩道の泥濘化・複線化	既存木道の付け替え	7月
2 北海道地方環境事務所	松仙園線 松仙園登山口付近	歩道上流水による侵食の進行、土壌流失	ヤシ土嚢を用いた床止工	7～8月
3 北海道地方環境事務所	松仙園線 松仙園分岐周辺	歩道の泥濘化	木道工	7～8月
4 上川総合振興局	層雲峡勇駒別線 赤石川北側斜面	ガリーの進行、植生の後退、土壌流失	ヤシ土嚢・ネットを用いた法止工、床止工	8月10日
5 Asahidake Trail Keeper	姿見の池園地	洗掘によるガリー化と石積みの崩壊、周辺植生の後退	・段差処理を伴う床止め ・植生復元を目的とした法面施工	8月～9月初旬
6 北海道地方環境事務所	大雪山縦走線 ヒサゴ沼分岐 ～避難小屋間	既存木道の老朽化、拡幅・複線化	グレーチング木道工、ロープ柵工	8月～9月中旬
7 北海道地方環境事務所	大雪山縦走線 ヒサゴ沼分岐北側斜面	既存木道の老朽化、ガリーの進行、土壌流失	ジオグリッドセル・ヤシ土嚢を用いた法止工、床止工、分散排水工	8月中旬
8 北海道地方環境事務所	沼ノ平姿見の池線 沼ノ平分岐付近～当麻乗越	既存木道の老朽化、歩道の泥濘化・複線化、ガリーの進行	木道工、床止工	9～10月
9 上川中部森林管理署	天人峡化雲岳線 登山口付近	倒木等による路肩決壊	倒木等を用いた路肩復元	9月下旬～10月上旬

(注)

- ・本様式によらなくても問題ありませんが、メール等で作業計画箇所、課題、作業内容の方向性、作業日程(予定)を事務局にお知らせ下さい。
- ・適宜、写真や図等を添付していただいても構いません。
- ・行が不足する場合は追加をお願いします。

登山道維持管理データベースについて

<基礎情報及び現状>

<http://db.daisetsuzan.or.jp/>

登山道の路線/区間ごとに、位置図や管理状況、補修結果の記録を掲載。令和2年に運用開始され、当年度分の補修案件や結果が掲載されているが、翌年度以降はほぼ未更新。令和7年1月に開催した登山道補修技術検討会にて、目的や方向性を再検討すべき旨の議論が行われ、引き続き取扱いは保留となっている。

<論点整理>

○ 目的と実施内容

- ✓ 現状では、個々の補修案件と結果の記録蓄積、共有
- ↳ ✓ そのこと自体の必要度や意義について(実施手順マニュアルでの議論とも関係)
- ✓ 補修案件のDBに留まらず、登山道の状況を記録・蓄積するDB(写真、動画、測量データ等を活用)が必要との意見も有力

○ 実施内容に応じた実施体制

- ✓ 実施内容が多様化・細分化するほど、管理・運用に係る労力や費用は増加
- ✓ また、それに応じて利用者を限定する(ステータスで区切る、有料化する)ことも考えられる
- ✓ 特に有料化する場合は、現行の協議会事務局では取扱困難

○ 上記を踏まえて、実施内容と作業見通しを検討していきたい。



目的

大雪山国立公園登山道維持管理データベースは補修など維持管理作業の結果を記録し蓄積していくものです。

登山道の補修やその結果を登山道関係者で共有して検証することで維持管理作業の技術的な品質の確保と向上を図り、大雪山国立公園の登山道の荒廃問題を解決することを目指します。

大雪山国立公園における歩道等維持管理作業
実施手順マニュアル

延長300kmにも及ぶ原生的な自然景観が残る高山帯での登山道の荒廃に対応するため、歩道の維持管理に多様な主体が参画する際の実施手順を明確化し、維持管理作業の技術的な品質を確保する取組です。

○歩道等維持管理作業実施手順マニュアル(令和7年6月)

○歩道等維持管理作業実施手順フロー図

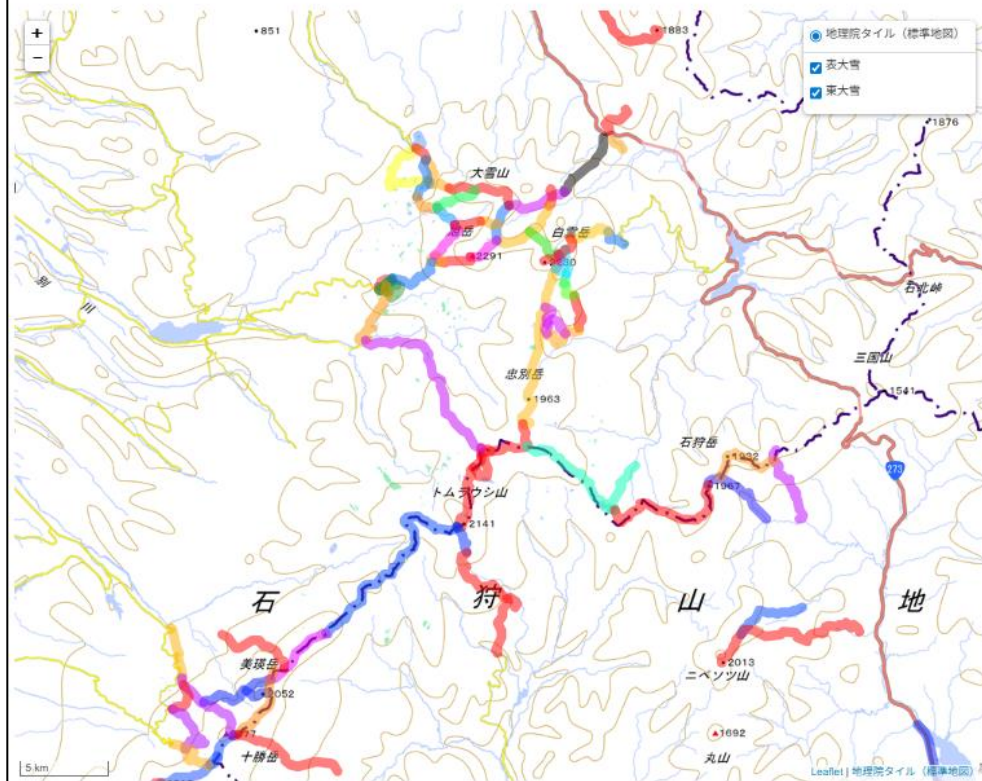
○登山道維持管理データベース トップページ
(歩道等維持管理作業実施手順マニュアルを掲載)

登山道維持管理データベースについて

補修案件登録

令和2年度補修案件

路線図一覧



番号	路線名	管理者	大雪山グレード
2-1	ニセイカウシュベ山登山口～山頂	不在	3
2-2	朝陽山登山口～山頂	不在	3
3-1	黒岳登山口～黒岳山頂	北海道	2

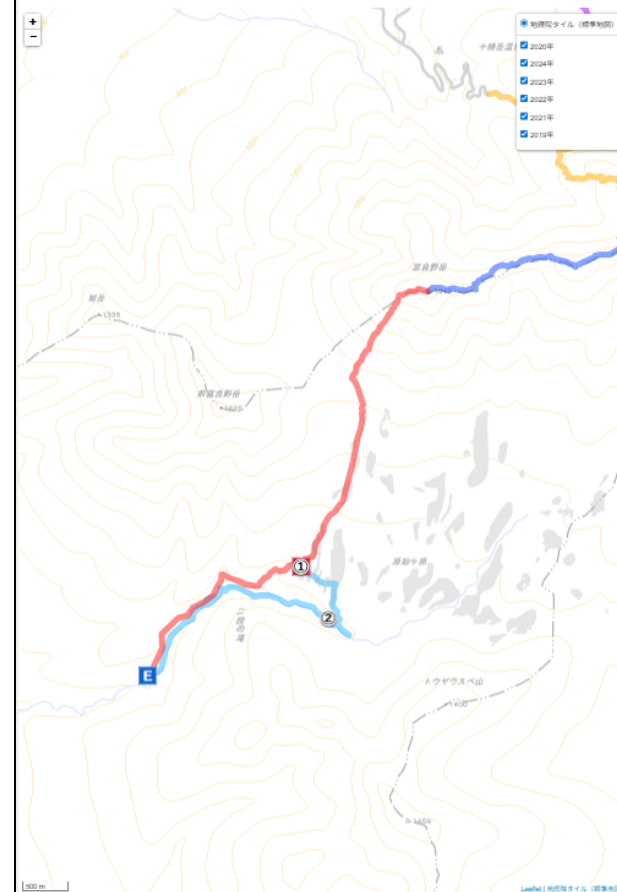
←トップページ下
補修案件の登録状況、路線図
一覧の地図とリストが掲載

路線の情報例→
範囲、管理者情報、
補修結果を掲載

大雪山縦走線

大雪山グレード-

路線番号: 12-11 始点: 43.365626,142.61703
路線管理者: 不在 終点: 43.354492,142.595477



番号	年度	実施者	内容	詳細	記録
①	2020	富良野市	誘導標識の設置	老朽化した誘導標識の撤去と、新しい標識の設置	【登山道維持記録】 開始が標
②	2020	NPO法人ふらの未来づくり	笹刈り・倒木処理	完了	【笹刈り報告】開始が標

■山岳トイレ等に関する検討課題の整理

※個別の施設や地点については、別紙資料（山岳トイレ等設置状況・登山口情報）を参照

2026/1/8 第8回部会

検討課題	主な取組項目及び目標	取組主体	実施・検討状況（～2025(R7)）	現状評価・課題の整理	当面の目標・取組予定（1～5年程度）	中期目標・取組予定（○年後）	備考
1. 山岳トイレ等の利用環境づくり							
(1)大雪山全域での山岳トイレ等の配置計画	山岳地域におけるトイレ及び携帯トイレプールの設置のあり方について、自然環境及び景観への影響、避難小屋及び野営指定地等との関係性、利用形態及び利用者数、維持管理体制の確保、将来的な利用方針や想定利用数等を総合的に勘案した上で、全体的な配置計画を検討し、自然環境保全及び適正な利用環境を確保する。	事務局	・部会において、山岳トイレ等に関する基本的考え方、検討課題、山岳トイレの設置状況等について整理しつつ、R7に「大雪山国立公園における山岳トイレの配慮事項」を作成、確定。	・本検討により、部会内での基本的な共通認識に基づく議論が容易になるものと想定 ・今後は、各地区や全域での将来的な利用像を念頭に置きつつ、必要に応じて配置計画あるいは個別課題の議論、認識共有を進めて行けるとよい ・但し、トイレ施設の設置には設置者や管理者が必要であることから、部会内での議論や連携のみでは進展や解決に至るとは限らないことに留意	・「配慮事項」の作成をもって一旦目標達成と捉え、次の目標や評価指標は状況をみて設定。 個別課題の議論を行う場合は、示された配置に関する基本的な考え方にに基づき、例えば地区や地点を絞って検討を進めることが考えられる	・配置計画を通して各山岳トイレ施設の改善等が進み、利用者のトイレ環境に対する満足度と、各施設の適正維持、山岳環境の汚損のない状態の全てが確保されること（10～20年後？）	
(2)山岳トイレ等利用環境改善・普及啓発に関する効果検証及び情報整理	・山岳トイレ等施設設置状況及び利用状況、携帯トイレ普及状況、情報発信の取組状況について指標を設定し、継続的に効果検証する	事務局	・R2年度～継続実施	・山岳トイレ全般に関する評価とすべく項目整理・再設定を行う（→別資料） ・利用者の意識等、より広範な普及状況の把握・評価を行うには別途調査が必要	・継続して実施しつつ、評価指標として積極的に活用することができるよう、必要・状況により収集項目の見直しや別途調査の実施も検討	特になし。他の項目による各取組の評価指標として用いる	
2. トイレ施設の維持・改善							
(1)利用状況の把握	・既存施設の再整備や効率的な維持管理を進める上での利用状況の把握 ・YAMAPを活用した利用者数の推計	北海道 北海道大学大学院農学研究院	・R6：忠別岳避難小屋へのノート設置による利用状況把握調査		・YAMAPを活用した利用者数の推計	・10年以内、極力3～5年程度での各施設の改修や改善実施に繋げられるよう各主体での取組を進め、必要に応じて部会での情報共有や協議を行う	
(2)汚泥等搬出手法の検討	・定期的な汚泥搬出を可能とするための搬出手法検討・確立 ・白雲岳及び忠別岳避難小屋付帯トイレ再整備に向けては、継続的に実施可能な汚泥運搬等維持管理手法・体制の見通しを得る必要がある。	環境省 北海道 上川町 北海道山岳整備	高原温泉～白雲岳避難小屋間の物流ドローン試験飛行を実施。運搬は可能だが機材にかかる費用が高く、当該区間のみでは費用対効果が望めない試算結果が得られる（R7）	再整備後の汲み取り物搬出の見通しを得るためには、黒岳等他地域も含めた運搬実施体制としていくことが必要と考えられる。	・黒岳石室等他地域での物流ドローンを用いた運搬試験、実用化検討（R8） ・検討結果に基づく維持管理体制全般の検討・調整（R8～） ・白雲・忠別での再整備に向けた省内調整・検討（環境省・R8～、白雲トイレは汲み取り式を想定）		
3. 広報、普及啓発							
(1)山岳域でのトイレの課題や取組状況、携帯トイレ持参・使用に関する情報発信・普及啓発（増加している外国人利用者向けの取組を含む）	・広報媒体の作成、利用拠点施設やWebでの情報発信 ・登山者に対して直接普及啓発することを目標とした、現地での携帯トイレ普及キャンペーン	事務局 事務局	・R6：携帯トイレ使用方法の動画試作、大連協HP英語サイトおよびグレードマップ英語版に保全ルールや携帯トイレ情報を掲載 ・R7：使用方法動画制作、チラシ増刷、英語版チラシ制作 ・2019年以降、赤岳9合目、中岳温泉、富良野岳登山道で実施（仮設携帯トイレブース設置、関係者と協働での維持管理・普及啓発活動） ・R7：富良野岳登山道で継続実施、黒岳・層雲峡地区で山の日キャンペーンの一環として実施	・取組範囲を携帯トイレに限定させることなく、広く山岳利用やトイレの状況に関する周知・普及啓発、その中での解決での一手法としての携帯トイレ、という関係性の下で取組を進めるべき。 ・現地での情報発信だけでなく、旅マエでの情報発信に課題あり。インバウンドへの対応にも特に留意。 ・動画等の媒体の整備が進んだので次はそれらの活用。 ・携帯トイレ持参率は肌感覚でも上昇している中、携帯するだけでなく実際に現地で使用するという部分への普及啓発等の取組が有効と考えられる。 ・一方で、目的がどこにあるのか（例えば、実施箇所でのトイレ施設設置に向けた試行的意味合いが主なのか、あくまで現地での普及啓発の一手法なのか）により次の段階の取組方策も見据えながら実施していくべきでは。	・内容を随時点検しつつ、整備した媒体の活用を含めて効果的な情報発信を継続する。 ・取組の効果検証手法について検討。	同左。継続性の高い取組として進める。	
	・トムラウシ南沼汚名返上プロジェクト	北海道・環境省	携帯トイレ配布ボックス設置、痕跡調査、携帯トイレブース設置・効果検証やそれらを通した普及啓発活動を実施。	南沼野営指定地での痕跡数は少ない数字で推移しており、取組の効果が出ている。	各取組、効果検証のモニタリングを当面継続	・効果検証及び進捗管理に基づいて取組状況を評価し、取組自体の継続要否を検討（今後5年程度を目安）	
	・啓発資料「山のトイレマップ」の制作・配布	山のトイレを考える会	・毎年大雪山山麓の宿泊施設、ビジターセンター、森林管理事務所等に配備して登山者へ配布。大雪山地域では年間約7,000部を配布予定。		情報更新して周知、配布する（今後はwebのみを予定）		
(2)携帯トイレ普及パートナーシップ事業	団体間の相互協力により携帯トイレの利用推進を図る	事務局	・パートナーシップの強化については、大雪山国立公園周辺における拠点施設（駅、空港、観光施設等）にはたらきかけを実施。	・継続的な取組となっているが近年は十分に運用されており、事業目的・内容等取組全体の点検も必要	・取組を当面継続	・取組状況の点検・評価を行い、取組自体の継続要否を検討（今後5年程度を目安）	

No.	名称	場所	設置年 (西暦)	改修年	規模 (面積)	基数	国立公園 事業執行	設置者	設置方式・構造	管理主体・管理状況	利用者数	課題	対応方針	備考
<常設トイレ>														
1	黒岳石室トイレ	黒岳石室		2003年		2	有	北海道	生物処理方式(コンポスト式バイオトイレ)	・4ブース(うち、現在2ブースは携帯トイレブース) ・上川地区登山道等維持管理連絡協議会と協力し管理、し尿汲み取り等は民間団体に委託(NPOかむい) ・黒岳石室の管理と合わせて日常的に点検・清掃を実施(りんゆう観光) ・利用者協力金500円/回を徴収し、し尿運搬費用に充填 ・R6:太陽光パネル&バッテリーを設置し換気ファンの稼働を再開(工事費用は上川地区登山道等維持管理連絡協議会が負担)	R6利用者数: 12,065(携帯トイレブース含む?)	・生物処理が十分機能しておらず、汲み取りが必要。処理方式の改善や、将来的な再整備時の処理方式を要検討	・便槽のヒーター回線の状況を踏まえ、太陽光パネル、バッテリー等を増設し、試験的に1ブースのみ便槽を加熱し本来のバイオ処理を目指す ・モンライト処理水質改善の検討	
2	白雲岳避難小屋トイレ	白雲岳避難小屋	1985年			2	有	北海道	汲取り式	・上川地区登山道等維持管理連絡協議会と協力し管理 ・白雲岳避難小屋の管理と合わせて日常的に点検・清掃を実施(北海道山岳整備)	上川地区	・環境省でTSS処理方式を用いた再整備の設計済だが、周辺自然環境への悪影響の可能性を排除できないとの指摘を受けて同処理方式による再整備は取り止め ・今後の再整備に向けて、処理方式の再設定およびその維持管理手法や体制の見直しを得ることが必要	・汲み取り式を想定し、ドローン等による汚泥搬出方法の試験、検討 ・処理方式・管理手法の見直しと併せて、維持管理体制の見直しも確定させていく	
3	忠別岳南避難小屋トイレ	忠別岳南避難小屋	1985年			1	有	北海道	汲取り式	・直営 ・白雲岳避難小屋管理人による巡視時に点検・清掃の支援	同上	同上	・汚泥搬出は冬期のスノーモビル使用が必要と考えられることから、必要な人数・費用の概算を進める ・再整備後の避難小屋を含めた、今後の維持管理の担い手や体制について要検討・調整	
4	ヒサゴ沼避難小屋トイレ	ヒサゴ沼避難小屋	1982年	2019年		1 (2穴)	有	北海道	汲取り式	・直営 ・白雲岳避難小屋管理人による巡視時に点検・清掃の支援		・処理方式の改善		
5	上ホロカメットク避難小屋トイレ	上ホロカメットク避難小屋	1980年			2	有	北海道	汲取り式	・直営 維持管理点検1回/月(7月~9月) ・地元山岳会による巡視時に点検・清掃の支援		・処理方式の改善		
<携帯トイレブース・常設>														
1	黒岳石室携帯トイレブース	黒岳石室	2020年			2	有	北海道	常設トイレ内	・2020年度に、新型コロナウイルス感染防止対策の一環として、携帯トイレ専用ブースを設置 ・上川地区登山道等維持管理連絡協議会と協力し管理 ・黒岳石室の管理と合わせて日常的に点検・清掃を実施				
2	赤岳コマクサ平携帯トイレブース	コマクサ平	2022年			1	無	NPO法人かむい	常設型	・登山道巡視と合わせて定期的に点検・清掃を実施				
3	旭岳石室携帯トイレブース	旭岳石室	2002年	2021年		1	有	北海道	常設型	・東川町や民間団体による巡視時に点検・清掃支援 ・R3年度に交付金事業で改修実施		石室を含めた当該場所での今後の設置継続の必要性		
4	美瑛富士避難小屋携帯トイレブース	美瑛富士避難小屋	2019年	-	1.5×0.9=1.35㎡	1	有	環境省	常設型	・美瑛町、美瑛富士トイレ管理連絡会、環境省がR元年に協定を結び協働で維持管理	R7:479(手動カウンター)			
5	トムラウシ南沼野営指定地携帯トイレブース	南沼野営指定地	2002年、2019年			2	有	北海道	常設型	新得山友会に委託	R7:704(手動カウンター)			
6	ニベソツ山前天狗携帯トイレブース	前天狗野営指定地	2002年			1	無	北海道	常設型	ひがし大雪自然ガイドセンターに委託				
<携帯トイレブース・定期的設置>														
1	高原温泉エゾ沼携帯トイレブース	沼めぐり登山コース(エゾ沼)	2020年		1.4×2.1=2.94㎡	1	無	環境省	仮設組立型・木造	・ヒグマ情報センター管理運営業務請負者が、沼めぐり登山コースの巡視と合わせて日常的に点検・清掃を実施				
2	高原温泉緑沼携帯トイレブース	沼めぐり登山コース(緑沼)	2021年		1.4×1.9=2.66㎡	1	無	環境省	仮設組立型・木造	・ヒグマ情報センター管理運営業務請負者が、沼めぐり登山コースの巡視と合わせて日常的に点検・清掃を実施				
<携帯トイレブース・試行設置>														
1	赤岳9合目携帯トイレブース	赤岳9合目	2019~2023年		1.1×1.1=1.21㎡	1	-	大雪山国立公園連絡協議会	仮設テント式	・R5年度設置期間は9/17~25(計9日間)		・携帯トイレ普及宣言推進事業の一環としてR5まで実施。コマクサ平携帯トイレブース等周辺のトイレ施設配置や利用状況を勘案してR7は未計画。		
2	裾合分岐携帯トイレブース	裾合分岐	2024年			1	-	環境省	セルフ組立式パーテーション	・直営 ・R6年度に同事業により試行的設置		・旭岳周辺登山道における他の場所でのブース設置の検討に合わせて、当該場所での必要性等について整理が必要		
3	中岳温泉携帯トイレブース	中岳	2019~2023年			1	-	大雪山国立公園連絡協議会	仮設テント式	・R5年度設置期間は、7/12~8/3、9/8~10/5(計49日間)		・旭岳周辺登山道における他の場所でのブース設置の検討に合わせて、当該場所での必要性等について整理が必要		
4	旭岳9合目携帯トイレブース	旭岳9合目	2022・2023年			1	-	環境省		・R4~5年度に旭岳周辺登山道における携帯トイレブース設置効果検証業務により試行的設置		・旭岳周辺登山道における他の場所でのブース設置の検討に合わせて、当該場所での必要性等について整理が必要		
5	裏旭野営指定地携帯トイレブース	裏旭野営指定地	2023・2024年			1	-	環境省		・旭岳周辺登山道における携帯トイレブース設置効果検証業務により、試行設置とその利用状況、周辺植生の影響調査、野営指定地の利用者数等の調査を実施。	R6(7/4~9/30):580(手動カウンター)	・旭岳周辺登山道における他の場所でのブース設置の検討に合わせて、当該場所での必要性等について、野営指定地のあり方も含めた整理が必要		
6	富良野岳携帯トイレブース	標高1580m地点(通称お花畑)	2023年~			1	-	大雪山国立公園連絡協議会	仮設テント式	・関係機関と協働で管理 ・R6年度設置期間は6/27~8/19(計54日間)、7/20及び7/21等に携帯トイレ普及キャンペーンを実施	R7(6/29~8/18):136(手動カウンター)	・R5年度から、携帯トイレ普及宣言推進事業の一環として設置。当該場所での必要性等について整理が必要。	一定の携帯トイレ持参率が維持されていることから、連絡協議会の携帯トイレ普及宣言推進事業としての設置は2年以内を目途に終了。終了後に継続設置を行いたい団体があれば、事業の移管を行う。	
7	トムラウシ山登山道	カムイサンケナイ川沿い	2022年~			1	-	環境省	仮設テント式	・R4年度~シーズン中のみ試行的設置(職員実行)				

●登山口別のトイレ関係施設等状況

2025年12月現在

場所		市町	避難小屋・山小屋	野営場	トイレ	携帯トイレ回収ボックス	携帯トイレ販売	入山者数 (R7)	備考
層雲峡	上川	有	有	有	設置：瑠璃岳 回収：層雲峡を美しくする会	有	○層雲峡ビジターセンター ○黒岳ロープウェイ売店、7合目売店 ○セイコーマート層雲峡店		
黒岳7合目	上川	無	無	→5合目駅舎内 ※トイレがないことが課題として挙げられるものの、設置者や維持管理の確保が課題。「大雪山国立公園における山岳トイレの配置基準について」参照。	無	無	→層雲峡	38,000	
銀泉台	上川	無	無	マイカー規制実施期間中は仮設式も設置	有	無	○マイカー規制シャトルバス発着場 (9月中旬)	9,900	
大雪高原温泉	上川	有	無		有	有	○大雪高原山荘 ○ヒグマ情報センター ○マイカー規制シャトルバス発着場 (9月下旬)	2,000 (緑岳コース) 3,700 (沼めぐり登山コース ※R6)	
クチャンベツ	上川	無	無	仮設式、1ブースは携帯トイレ用	無	無			
愛山渓温泉	上川	有	無	仮設式	有	有	○愛山渓倶楽部	1,700 (愛山渓温泉登山口) 600 (松山園登山口)	
旭岳温泉	東川	有	有		有	有	○旭岳ビジターセンター ○旭岳ロープウェイ (娯見駅売店) ○ホテルベアモンテ ○ホテルディアパレー ○セイコーマート東川店 ○道の駅ひがしかわ・道草館		
姿見	東川	有	無		無	無	→旭岳温泉	11,000 (娯見の池・裾合平方面) 32,000 (娯見の池・旭岳方面)	
天人峽	美瑛	無	無	仮設式	無	無		500	
白金温泉望岳台歩道登山口 (白金観光センター)	美瑛	無	有		有	有	○ホテルパークヒルズ ○湯元白金観光温泉ホテル ○大雪山白金観光ホテル ○白金観光センター	700	
美瑛富士登山口	美瑛	無	無		無	無			
望岳台	美瑛	無	無		有	有	設置・回収：美瑛町 (山のトイレを考えると)		
吹上温泉	上富良野	無	有		有	有	設置・回収：上富良野町	2,500 (十勝岳登山口・美瑛岳方面)	
十勝岳温泉	上富良野	無	無		有	有	設置・回収：上富良野町 (山のトイレを考えると)	13,000 (十勝岳登山口・十勝岳方面 *R6)	
原始ヶ原登山口	富良野	有	無		無	無	○十勝岳温泉温泉閣	16,000 (安政火口)	
十勝岳新得コース	新得	無	無		無	無	○ふらの観光協会	500	
トムラウシ温泉	新得	無	有		有	有	○トムラウシ温泉東大雪荘 ○セイコーマート屈足店 ○セブンスイブアン新得町南店	0~50 200	
トムラウシ短縮コース	新得	無	無		有	有	○同上 ○南沼沼名返上プロジェクトとして登山口に配布ボックスを設置 (R4~、1つ500円の協力金)	3,400	
ユニ石狩岳登山口	上士幌	無	無		無	無		200	
シュナイダーコース	上士幌	無	無	仮設式	無	無		1,100 (石狩岳登山口)	
ニベソツ山十六の沢コース	上士幌	無	無		無	無			
ニベソツ山幌加温泉コース	上士幌	無	無	仮設式	有	有	設置：北海道 回収：上士幌町	1,400	
ウベベサンケ山糠平コース	上士幌	無	無		無	有	○ひがし大雪自然館 ○セイコーマートうえだ上士幌店	600	
天宝山	上士幌	無	有		無	有	同上		
白雲山士幌側	士幌	無	有		無	無		900	R5時のメモ： 以下然別湖周辺の山については行程が短いことから、登山口でトイレを済ませてもらうことの啓蒙が重要
白雲山然別湖側	鹿追	無	無	仮設式	無	無		1,800	
南ベトウトル山	鹿追	無	無		無	無		100	
東ヌブカウシヌプリ	鹿追	無	無		無	無		1,700	
西ヌブカウシヌプリ	鹿追	無	無		無	無			

登山口

大雪山国立公園 山岳トイレ等利用環境改善・普及啓発に係る効果検証及び進捗管理

分類	No.	指標	算出方法・基準	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	最新の値に関する備考	現状評価・今後の目標
山岳トイレ等施設及びその維持・改善に関すること	1	山岳トイレ設置箇所数	-	5	5	5	5	5	5	黒岳石室、白雲、忠別、ヒサゴ、上ホロ（詳細は別紙：山岳トイレ等設置状況を参照）	目標値は特に無し（必要な場所に置かれていることが重要）
	2	うち、適切に処理や管理が行われている箇所数	方式に見合った処理（汲み取り式なら定期的な搬出、バイオ式なら分解）が機能し、その他施設機能の維持、清掃等の管理が継続的に行われている状態	-	-	-	-	-		現状に即して考えると、黒岳・白雲・忠別・上ホロ×。ヒサゴは比較的近年に一度汲み取りしており、管理の状況次第では1にカウントする	No.1の山岳トイレ設置箇所数と同数となることを目指す
	3	山岳トイレ又は携帯トイレブース設置検討箇所数	「山岳トイレの配慮事項」資料の、個別検討課題の整理において記載・課題整理を行っている地点数	-	-	-	-	-	3	黒岳7合目周辺、沼ノ原大沼、旭岳周辺	地点ごとの検討を通して最終的に0になることを目指す
	4	携帯トイレブース設置箇所数	-	9	10	14	14	12	10	「山岳トイレ等設置状況」資料参照	目標値は特に無し（必要な場所に置かれていることが重要）
	5	携帯トイレ回収ボックス設置箇所数	-	11	12	12	12	12	12	「登山口別のトイレ関係施設等状況」資料参照	目標値は特に無し（必要な場所に置かれていることが重要）
山岳環境、野営指定地やその周辺に対する影響への評価	6	巡視等1回あたりの野外し尿排出痕跡数：美瑛富士	痕跡数/巡視回数 (し尿痕もしくはティッシュ痕の数)	3.7	3.1	2.2	1.6	2.7	2.0		確認数は低い水準で近年推移。引き続きゼロを目指しつつ状況を注視する。
	7	巡視等1回あたりの野外し尿排出痕跡数：トムラウシ	痕跡数/巡視回数 (し尿痕もしくはティッシュ痕の数)	7.0	4.0	2.0	2.5	2.0	2.0		確認数は低い水準で近年推移。引き続きゼロを目指しつつ状況を注視する。
携帯トイレ普及状況、入手しやすさ	8	登山用品店等における携帯トイレ販売箇所数	各登山口周辺の携帯トイレ販売箇所数	-	25	-	28	-	28		目標値は特に無し（必要な場所に置かれていることが重要）
	9	大雪山国立公園オリジナル携帯トイレ卸数	例年取りまとめただいでいるりんゆう観光さんからの報告数	2525	1655	3083	3058	2231	2400		
	10	携帯トイレ普及パートナー数	パートナーシップ登録団体数	8	8	8	8	8	8		登録数に関して目標値は特に無し。取組状況や内容の点検・評価を進める
	11	携帯トイレ認知度（%）	富良野岳の携帯トイレ普及キャンペーンでのアンケート「大雪山全域で携帯トイレの利用をお願いしていることを知っていましたか？」の回答から算出	-	-	-	71.6	77.3	73.3		キャンペーン参加者は認知度が高い層であることに留意しつつ引き続き効果測定する。最終目標値としては100%としても、それには一般向けの広汎な情報発信・普及啓発が重要。
	12	登山者の携帯トイレ持参率（%）	国有林及び道有林入林簿からの推計	-	38.8	43.7	41.8	54.3	53.1	黒岳・旭岳RWの登山口の利用者が飛びぬけて多いものの持参率は低い	キャンペーン参加者は認知度が高い層であることに留意しつつ引き続き効果測定する。最終目標値としては100%としても、それには一般向けの広汎な情報発信・普及啓発が重要。
			富良野岳の携帯トイレ普及キャンペーンのアンケート結果から算出	-	-	-	62.4	61.3	74.0		
情報発信	13	大連協FB、登山情報における携帯トイレ関係記事の発信数	毎年6月～10月の記事を対象	25	34	39	41	13	14	事務局投稿9件、協議会関係者投稿シェア5件	携帯トイレに限定せず、山岳/山麓のトイレに関する情報発信全般に枠を広げてよいのでは。これまでの数値と整合性が取れなくなる場合は別項目立てでもよい。

※令和7年度の数値については、令和7年12月時点

令和7年度登山道維持管理・補修工事等実施概要(環境省)

- ① 愛山溪北鎮岳線(三十三曲分岐～沼ノ平分岐)・沼ノ平姿見の池線(沼ノ平分岐～当麻乗越) 【別紙1】
- ・段差処理、導流工補修、階段設置(三十三曲)
 - ・木道設置 27基(六ノ沼周辺)
 - ・ササ払い(1591ピーク～当麻乗越)
 - ・点検、定点モニタリング

- ② 松仙園線(歩道)
- ・土留工L=5m、木道設置L=54m 【別紙2】
 - ・ゲート解錠・施設前点検

- ③ ヤンバタツ五色岳線(沼ノ原分岐～沼ノ原大沼)
- ・点検、定点モニタリング

- ④ 層雲峡勇駒別線(中岳分岐～間宮岳)
- ・土留工20基、導流工7基
 - ・点検、定点モニタリング

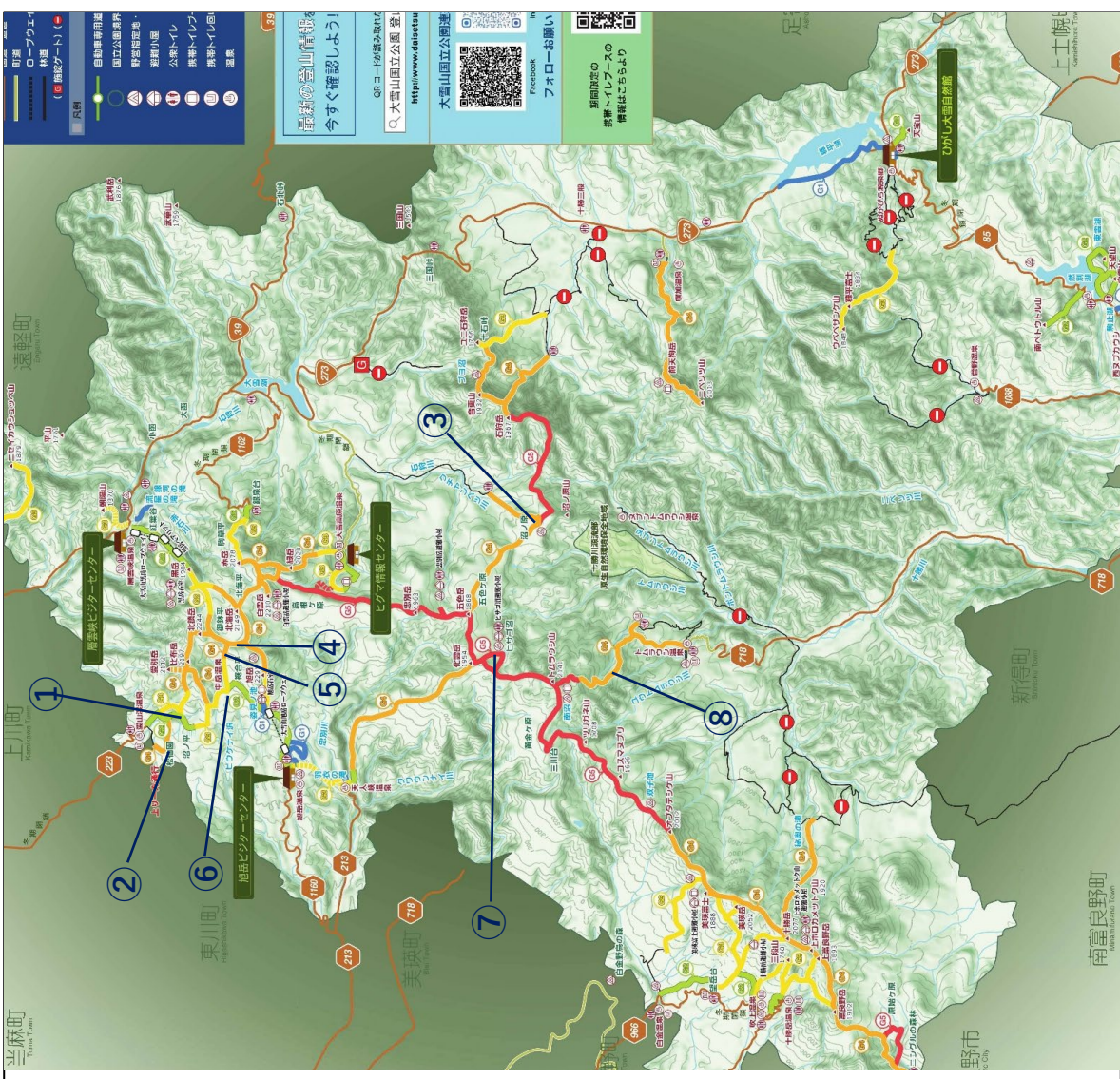
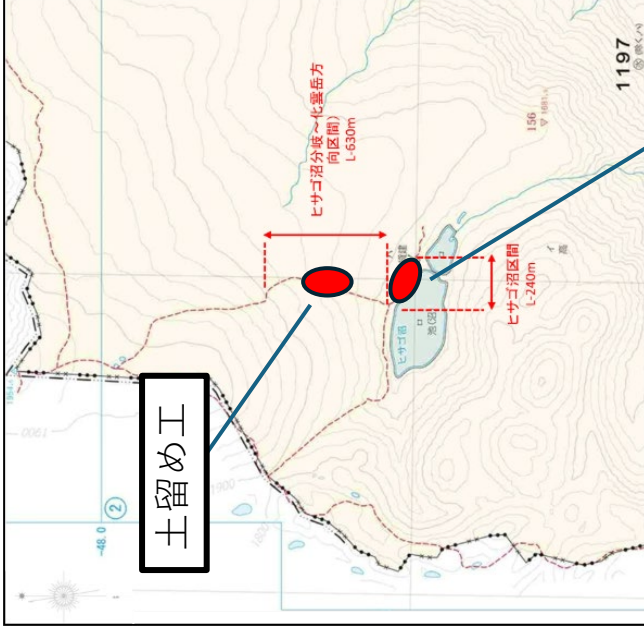
- ⑤ 中岳裾合平線(中岳分岐～中岳温泉)
- ・土留工7基
 - ・点検、定点モニタリング

- ⑥ 沼ノ平姿見の池線(当麻乗越～姿見の池)
- ・木道更新62基(ピウケナイ沢～裾合分岐) 【別紙3】
 - ・標識更新1基(ピウケナイ沢)
 - ・木道設置7基(裾合分岐～姿見の池)、導流工1基、土留工1基、石組補修
 - ・点検、定点モニタリング、ササ払い(当麻乗越～ピウケナイ沢)

- ⑦ 大雪山縦走線(ヒサゴ沼周辺歩道) 【別紙4】
- ・木道工69基:240m、標識工1基、ロープ柵150m、土留め工40基(床止工・法止工・分散排水工)

- ⑧ トムラウシ山線
- ・点検、モニタリング、ササ払い、倒木処理等

⑦ヒサゴ沼周辺拡大図



1 業務目的

大雪山国立公園上川地区に所在する、環境省所管の愛山溪北鎮岳線道路(歩道)及び沼ノ平姿見の池線道路(歩道)について、周囲の植生の保護を図り、登山者の適切な利用に供されるよう、荒廃が生じている箇所や荒廃が生じるおそれのある箇所を対象に登山道補修を実施するもの。

2 業務内容

三十三曲分岐～当麻乗越の区間において侵食が著しい箇所等を対象に補修を行うこと。

3 実施内容

【施工量】・六ノ沼～当麻乗越の約250mの区間において、新規木道27基(約50m)設置
 ・三十三曲分岐～標柱「三十三曲」の区間の侵食箇所3箇所において、木柵階段9段、石段1段の設置
 ※木道設置に当たっては、冬期にスノーモービルで運搬した木材72本を使用。

【施工日】2025年9月7日、8日

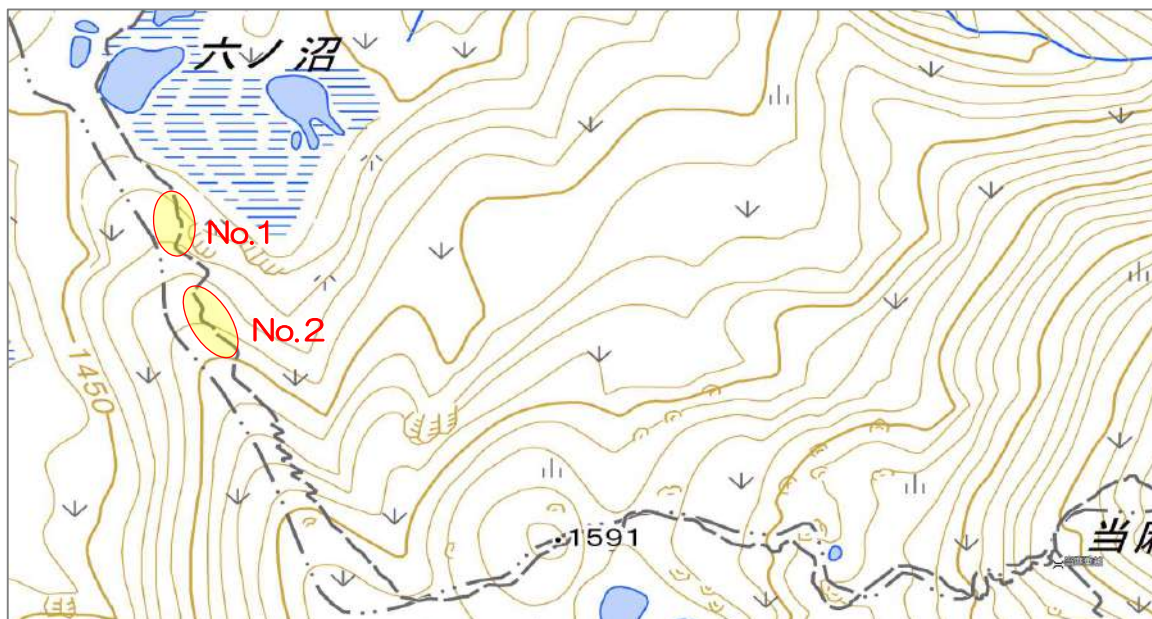
※所要人工数 計43人(うちスタッフ23人、ボランティア20人 …イベントを兼ねて実施)

<実施場所>

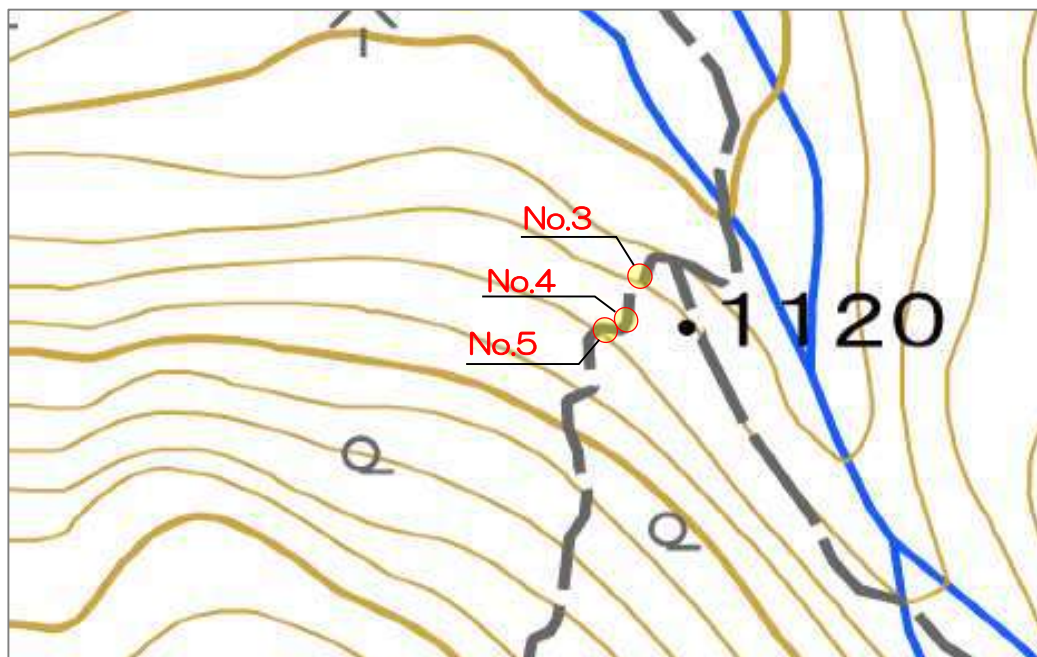


＜施工位置図＞

施工区間①



施工区間②



施工箇所	施工内容	施工区間距離
No.1	新規木道設置13基	約24m
No.2	新規木道設置14基	約26m
No.3	木柵階段設置2段	約3m
No.4	木柵階段設置3段	約3m
No.5	木柵階段設置4段、石段設置1段	約6m

新規木道設置基数:27基 及び 木柵階段9段、石段1段

4 施工内容

【新規木道の設置】

・六ノ沼～当麻乗越のうちの約250mの区間において、新規木道27基(約50m分)設置した。
 ・この区間は踏圧の影響でぬかるみになっていることが多く、それに伴う土壌流出が起きている場所である。また、土壌流出によりガリーとなっている場所もあり、狭いガリーを避けて登山道脇の法面を歩行することでさらに土壌を削る悪循環も起きている。これ以上の侵食を防ぐために、新規木道の設置を行なった。新規木道の設置により、周辺植生への踏圧による影響は減るものと思われる。

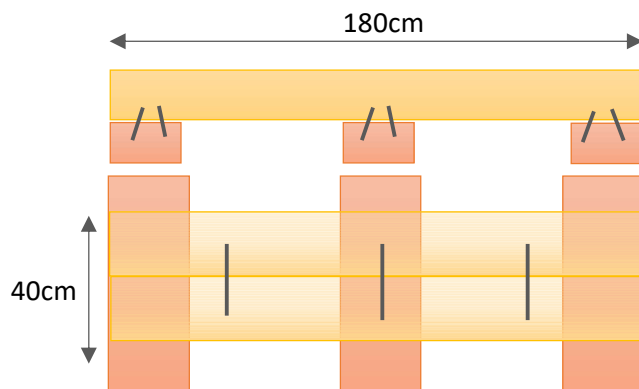


・斜度のある場所では、木材をそのまま並べると木道自体に傾斜がついて歩行時に滑りやすくなるため、階段状にするなど木道自体はできるだけ平らになるよう工夫して設置した。
 ・木道が飛び飛びに設置されていると、登山者は段差を嫌い木道を使用しないことが多いため、できるだけ連続した形になるように設置している。

＜木道の仕様＞

- ・長さ180cm、幅40cm
- ・枕木は前後に2本もしくは3本(60cm)
- ・カスガイで固定(1基17本を使用)

※上記を基本としているが、場所に合わせて枕木の位置や木道の長さを変更するなど、地形に合わせた形での設置を行なった。



【土壌流出箇所の補修】

・三十三曲分岐～標柱「三十三曲」の区間の侵食箇所3箇所において、木柵階段9段、石段1段の設置を行なった。
 ・踏圧と流水により土壌が流出し、段差が高くなっている場所の対応。歩行に支障があるとともに、落下水による洗堀によりさらに侵食が進む状況となっている。木柵階段及び石階段の設置により段差を解消し、流水による洗堀を緩和するとともに、これ以上の土壌流出を防ぐための施工を行なった。
 ・資材は周辺の倒木や砂利等を集めて使用した。



大雪山国立公園 登山道補修記録

路線名	松仙園線道路（歩道）			担当者	濱田 耕二
路線番号	8			作業日	2025年9月25日
区間				記録日	2025年10月27日
登山道管理水準					
保全対策ランク	—	大雪山グレード	4	記録者	濱田 耕二

目的

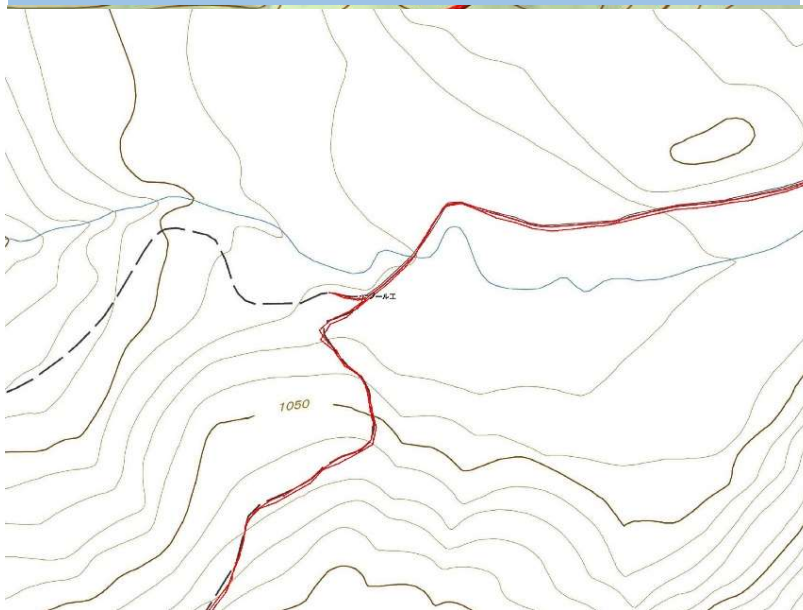
プール工

松仙園入り口プール工

昨年施工した木道の根元の補強にヤシ土嚢にてプール工5 m

浸食原因	荒廃タイプ	工法分類	使用材料
流水等 <input type="checkbox"/> 大雨 <input type="checkbox"/> 雪解け水 <input checked="" type="checkbox"/> 雨水（雨滴） 凍結融解現象等 <input type="checkbox"/> 凍結融解（霜柱） <input type="checkbox"/> 雪圧 <input type="checkbox"/> 強風 登山者の踏圧等 <input type="checkbox"/> 登山者 <input type="checkbox"/> 既存施設の影響 <input type="checkbox"/> その他 ()	<input type="checkbox"/> ぬかるみ化 <input type="checkbox"/> 水路化 <input type="checkbox"/> ガリー化 <input type="checkbox"/> 拡幅、複線化 <input type="checkbox"/> 木道等 <input type="checkbox"/> トラバース箇所 <input type="checkbox"/> ヤブ化、倒木 <input type="checkbox"/> 根系裸出 <input checked="" type="checkbox"/> その他 ()	<input type="checkbox"/> 分散排水工法 <input type="checkbox"/> 床止め工法 <input checked="" type="checkbox"/> 土留め工法 <input type="checkbox"/> マルチング工法 <input type="checkbox"/> 路面処理工法 <input type="checkbox"/> 段差処理工法 <input type="checkbox"/> 植生基盤工法 <input type="checkbox"/> 倒木処理 <input type="checkbox"/> 刈り払い <input type="checkbox"/> その他 ()	ヤシ土嚢10袋

位置図



GPS位置

始点	43° 42'51.33"	142° 48'16.15"
終点	N 43° '00.00"	E 00° 00'00.00"

概要写真

<補修前>



<補修後>



大雪山国立公園 登山道補修記録

路線名	松仙園線道路（歩道）			担当者	濱田 耕二
路線番号	8			作業日	2025年7月27日
区間				記録日	2025年10月27日
登山道管理水準					
保全対策ランク	—	大雪山グレード	4	記録者	濱田 耕二

目的

木道の設置

木道①

ぬかるみの為 角材で木道設置18m設置

浸食原因	荒廃タイプ	工法分類	使用材料
流水等 <input type="checkbox"/> 大雨 <input type="checkbox"/> 雪解け水 <input type="checkbox"/> 雨水（雨滴） 凍結融解現象等 <input type="checkbox"/> 凍結融解（霜柱） <input type="checkbox"/> 雪圧 <input type="checkbox"/> 強風 登山者の踏圧等 <input checked="" type="checkbox"/> 登山者 <input type="checkbox"/> 既存施設の影響 <input type="checkbox"/> その他 ()	<input checked="" type="checkbox"/> ぬかるみ化 <input type="checkbox"/> 水路化 <input type="checkbox"/> ガリー化 <input type="checkbox"/> 拡幅、複線化 <input type="checkbox"/> 木道等 <input type="checkbox"/> トラバース箇所 <input type="checkbox"/> ヤブ化、倒木 <input type="checkbox"/> 根系裸出 <input type="checkbox"/> その他 ()	<input type="checkbox"/> 分散排水工法 <input type="checkbox"/> 床止め工法 <input type="checkbox"/> 土留め工法 <input type="checkbox"/> マルチング工法 <input checked="" type="checkbox"/> 路面処理工法 <input type="checkbox"/> 段差処理工法 <input type="checkbox"/> 植生基盤工法 <input type="checkbox"/> 倒木処理 <input type="checkbox"/> 刈り払い <input type="checkbox"/> その他 ()	木材 六角ボルト コーキング

位置図



概要写真

<補修前>



<補修後>



GPS位置

始点	N43° 41'57.89"	E142° 47'46.33"
終点	N 43° 41' 57.72"	E 142° 47'46.34"

大雪山国立公園 登山道補修記録

路線名	松仙園線道路（歩道）			担当者	濱田 耕二
路線番号	8			作業日	2025年9月7日
区間				記録日	2025年10月27日
登山道管理水準					
保全対策ランク	—	大雪山グレード	4	記録者	濱田 耕二

目的

木道の設置

木道②

ぬかるみの為 角材で木道設置36m設置

浸食原因	荒廃タイプ	工法分類	使用材料
流水等 <input type="checkbox"/> 大雨 <input type="checkbox"/> 雪解け水 <input type="checkbox"/> 雨水（雨滴） 凍結融解現象等 <input type="checkbox"/> 凍結融解（霜柱） <input type="checkbox"/> 雪圧 <input type="checkbox"/> 強風 登山者の踏圧等 <input checked="" type="checkbox"/> 登山者 <input type="checkbox"/> 既存施設の影響 <input type="checkbox"/> その他 ()	<input checked="" type="checkbox"/> ぬかるみ化 <input type="checkbox"/> 水路化 <input type="checkbox"/> ガリー化 <input type="checkbox"/> 拡幅、複線化 <input type="checkbox"/> 木道等 <input type="checkbox"/> トラバース箇所 <input type="checkbox"/> ヤブ化、倒木 <input type="checkbox"/> 根系裸出 <input type="checkbox"/> その他 ()	<input type="checkbox"/> 分散排水工法 <input type="checkbox"/> 床止め工法 <input type="checkbox"/> 土留め工法 <input type="checkbox"/> マルチング工法 <input checked="" type="checkbox"/> 路面処理工法 <input type="checkbox"/> 段差処理工法 <input type="checkbox"/> 植生基盤工法 <input type="checkbox"/> 倒木処理 <input type="checkbox"/> 刈り払い <input type="checkbox"/> その他 ()	木材 六角ボルト コーキング

位置図



概要写真

<補修前>



<補修後>



GPS位置

始点	N43° 42'06.79"	E142° 48'08.85"
終点	N 43° 42' 05.94"	E 142° 48'09.69"

1 業務内容

① 補修資材の荷上げ

資材量	幅20cm×長さ180cm×高さ8cmの角材(約25kg/本)及びカスガイ(7mm×150mm)合計約4,100kg (※角材160本、カスガイ1000本)
運搬期間	2025年4月5日～4月22日(うちロープウェイでの運搬、モービル走行合わせて9日間)

② 登山道補修の実施

施工量	62基(約115m区間)の木道交換
施工日	2025年6月21日～9月30日(うち準備、施工、片付け合わせて8日間)

使用した資材

幅20cm×長さ180cm×高さ8cmの角材160本、及びカスガイ1000本



角材160本



カスガイ150本入りの袋を20個用意



カスガイ1000本を各残置場所に置けるよう、
250本ずつの4袋に分ける

① 補修資材の荷上げ

運搬量: 木道用資材160本とカスガイ1000本、合計約4,100kgを対象区間の各所に留置

運搬期間: 2025年4月5日～4月22日(うちロープウェイでの運搬、モービル走行合わせて9日間)



①	木材46本、カスガイ250本
②	木材46本、カスガイ250本
③	木材24本、カスガイ250本
④	木材44本、カスガイ250本
合計	木材160本、カスガイ1000本

モビル走行位置図



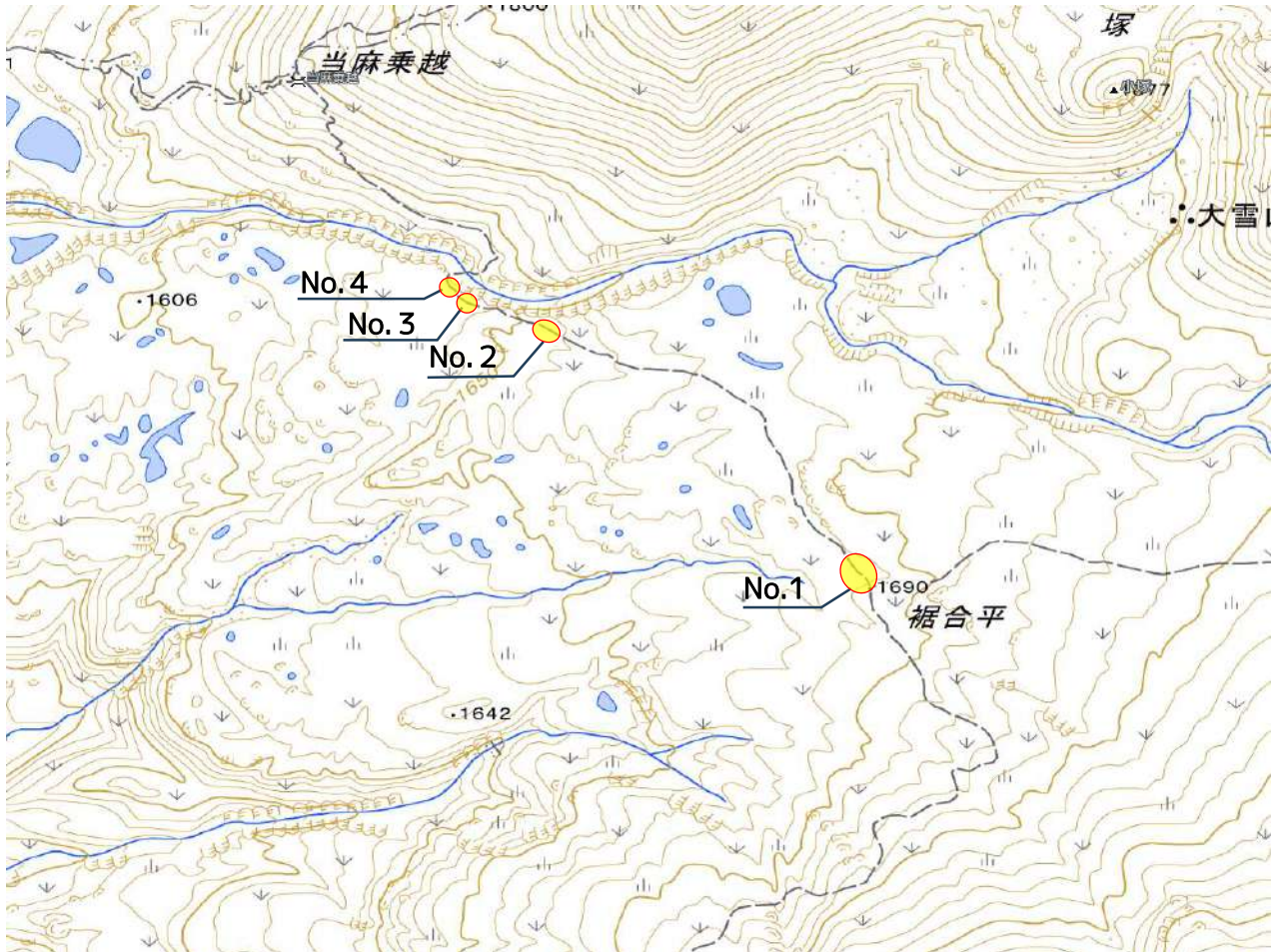
山麓駅から姿見駅までのモビル走行は、ロープウェイ運行時間前のスキー場を利用

② 登山道補修の実施

施工量：腐食した木道の撤去及び木道62基の設置（約115m区間）

施工日：2025年6月21日～9月30日のうち、準備、施工、片付け合わせて8日間

スノーモビルによって運搬した木材及びカスガイを使用し、62基の木道を設置。
約120mの区間で、腐食した木道の撤去と新規木道の設置を行なった。



施工箇所	追加木道基数	施工距離
NO.1	32基	60m
No.2	12基	22m
No.3	10基	18m
No.4	8基	15m
合計	62基	115m

資材留置地点である裾合分岐手前からピウケナイ沢の区間の大きく分けて4箇所において、腐食した木道を撤去し、新規木道を設置した。
腐食した木道は踏み抜き等の危険があるだけでなく、木道を避けて周りの植物帯への踏み込みも見られる状況であった。
新規木道の設置により周辺植生への踏圧による影響も減るものと思われる。

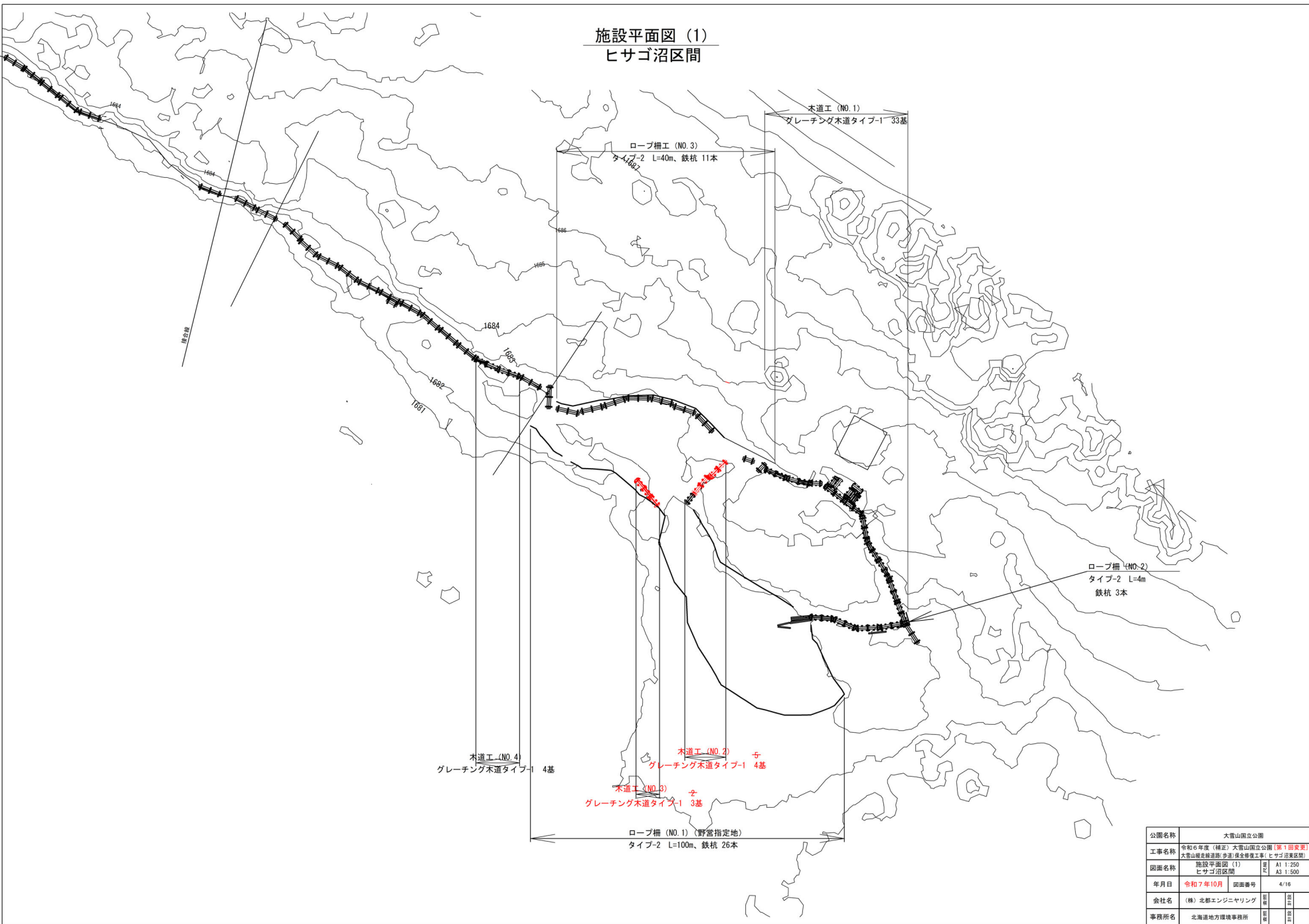
施工前後	施工箇所	追加木道基数	施工距離
	No.2	木道追加12基	約22m



施工前後	施工箇所	追加木道基数	施工距離
	No.3	木道追加10基	約18m



施設平面図 (1)
ヒサゴ沼区間



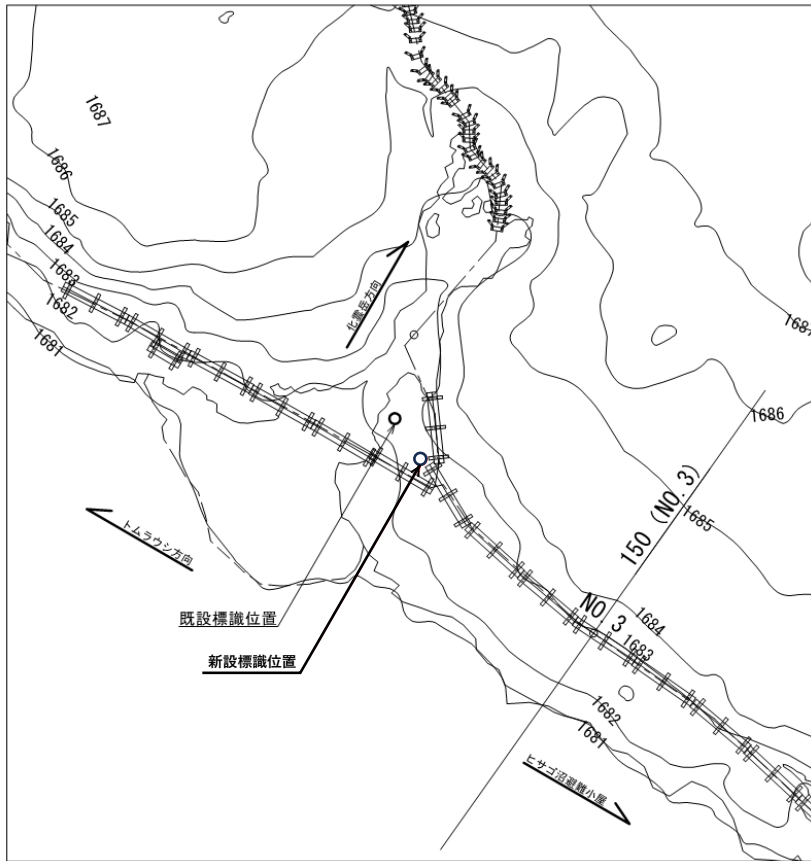
32

公園名称	大雪山国立公園		
工事名称	令和6年度(補正)大雪山国立公園【第1回実施】大雪山経走路遊歩道(歩道)保全修理工事(ヒサゴ沼区間)		
図面名称	施設平面図(1) ヒサゴ沼区間	図尺	A1 1:250 A3 1:500
年月日	令和7年10月	図面番号	4/16
会社名	(株)北都エンジニアリング	図例	
事務所名	北海道地方環境事務所	図記	

誘導標識配置一般図 (2)

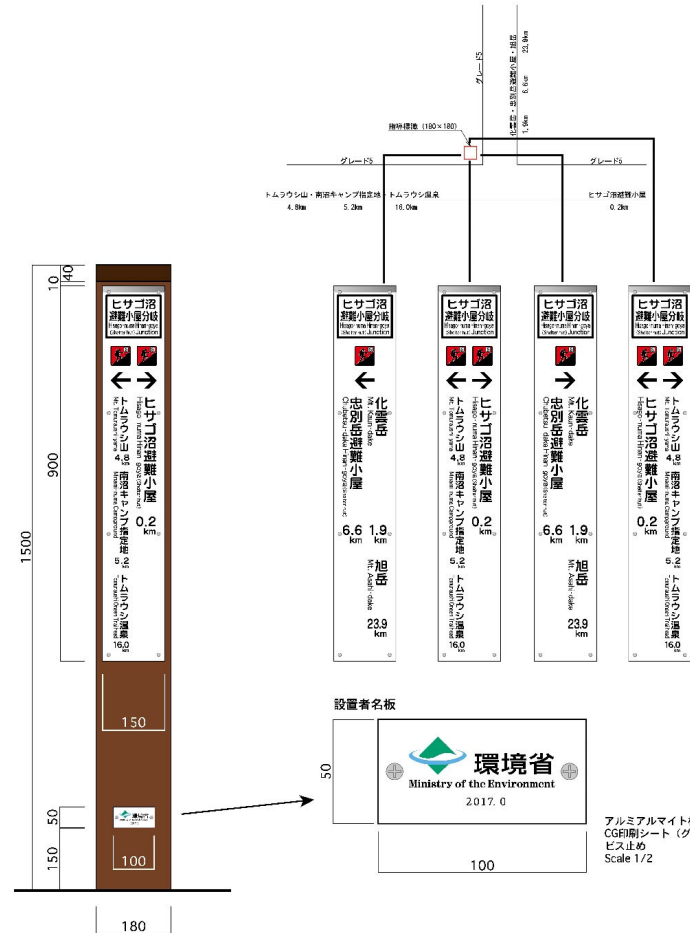
ヒサゴ沼避難小屋分岐

配置平面図



配置レイアウト図

4面表示 (CG印刷シート貼り・アルミ複合版)
単管基礎 (ベース金物併用)



アルミアルマイト板 100×50 t=2mm
CG印刷シート (グロスラミ) 貼り
ビス止め
Scale 1/2

公園名称	大雪山国立公園		
工事名称	令和5年度(緑路)大雪山国立公園 大雪山緑道補修(歩道)保全修繕工事(ヒサゴ沼東区間)		
図面名称	誘導標識配置一般図	図面番号	A1 1:30 A3 1:60
年月日	令和6年 月	図面番号	9/16
会社名	(株)北都エンジニアリング	設計	
事務所名	北海道地方環境事務所	設計	

業務内容

- ・対象区間のうち、既存施設が老朽化した箇所や、著しく侵食され、拡幅・複線化による荒廃が深刻な箇所等に、床止工・法止工・分散排水工(マキセル工)、土のう床止工を行なう。
- ・床止工・法止工・分散排水工(マキセル工)は40基以上、土のう床止工は150袋以上を想定する。

施工量:床止工・法止工・分散排水工(マキセル工)を40基設置。土のう袋を150袋使用。

施工日:2025年8月11日～8月14日

補修区間

大雪山縦走線道路(歩道) ヒサゴ沼分岐から化雲岳方面区間

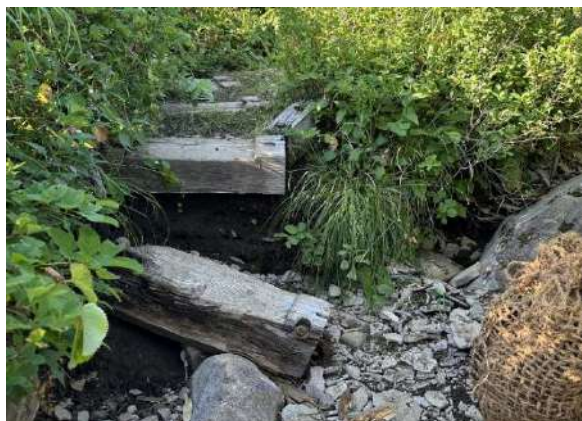
業務対象区間である630mのうち、約110mの区間において施工を行なった。



施工前後

No.1

土留め2基



No.2

土留め1基、草刈り



No.3

土留め1基



No.4

土留め1基



No.5

土留め1基



No.6

土留め1基



No.27

土留め1基



No.28

土留め2基



上から



No.29

土留め2基



上から



No.30

土留め1基



上から



大雪山国立公園におけるヒグマの対応について

<大雪山国立公園におけるヒグマ対応に関する取組み>

○ヒグマ事故を防止する普及啓発、情報発信

- ✓インターネットを通じた発信(ホームページ、SNS等)
ヒグマ情報C、層雲峡VC、旭岳VC、大雪山国立公園連絡協議会など
- ✓利用拠点施設での発信(館内案内等)
ヒグマ情報C、層雲峡VC、旭岳VC、ぬかびら温泉郷VC、黒岳RW、旭岳RW、など
- ✓登山口等での情報発信(チラシの掲示等)
各登山口の案内板など

○ヒグマ情報の収集、提供のネットワーク化

- ✓関係機関の連絡網の構築
- ✓発信のひな型作成

○大雪高原温泉地区沼めぐり登山コース

- ✓ヒグマ情報センターにおけるレクチャー



<R7年度の状況>

- 大雪山縦走線(高根ヶ原~忠別岳)
✓登山者との近距離遭遇が度々報告
→登山計画の変更に関する情報発信(9月上旬)



大雪山国立公園では、ヒグマに関する情報収集及び登山者への情報提供に関し、広範な関係者間の連携が必要となった。

- 大雪高原温泉地区沼めぐり登山コース
✓近年、人を気にしない・人を恐れない個体が増加
→今シーズンは、コースをほぼ閉鎖



専門家から意見を聴きながら、関係者間で対応を協議

<今後の取組み方針案>

- 人身事故に発展しかねない状況が発生した場合には、ただちに関係者間で共有し登山者に対し情報を提供できるよう、体制を強化
→関係者間の連絡体制の構築、役割や対応方法を確認
- 大雪高原温泉地区管理運営計画(対応マニュアル含む)の策定
→運営方法や利用のあり方を含めた検討
- 大雪山フォーラムの開催(大雪山におけるヒグマをテーマとする予定)

令和7年度大雪山国立公園入山者数調査（登山者カウンター等による推計結果）

【概要】

令和7年度における下表の計26の登山口での調査結果は以下のとおり。調査位置は別紙参照。

- ・月別入山者数では、9月が最も多く、次いで7月、8月が多かった。
- ・登山口別入山者数では、黒岳が最も多く、次いで姿見の池（旭岳方面）、十勝岳温泉（安政火口）が多かった。
- ・カウンターの精度を考慮すると、大雪山国立公園の入山者数は、約9～13万人であると考えられる。

調査登山口		合計	6月	7月	8月	9月	10月	調査方法	調査期間
1	黒岳登山口	38,000	1,200	9,900	8,600	14,000	5,000	熱感知式カウンターからの推計	令和7年6月25日～10月15日
2	銀泉台登山口（第一花園下）	9,900	300	3,000	1,400	5,100	50～100	熱感知式カウンターからの推計	令和7年6月29日～10月1日
3	高原温泉登山口（緑岳コース）	2,000	400	600	400	600	50～100	熱感知式カウンターからの推計	令和7年6月10日～10月9日
4	高原温泉登山口（沼めぐり登山コース）*1	200	200	-	-	-	-	ヒグマ情報センター利用者数資料	令和7年6月21日～6月28日
5	クチャンベツ登山口	1,000	100	300	300	200	50～100	熱感知式カウンターからの推計	令和7年6月11日～10月11日
6	松仙園登山口 *2	600	0～50	50～100	100	400	-	熱感知式カウンターからの推計	令和7年7月14日～9月30日
7	愛山溪温泉登山口	1,700	200	300	300	800	100	熱感知式カウンターからの推計	令和7年6月2日～10月7日
8	姿見の池（裾合平方面）*3	11,000	1,100	4,900	1,500	2,800	700	熱感知式カウンターからの推計	令和7年6月13日～10月10日
9	姿見の池（旭岳方面）*3	32,000	3,500	8,600	8,600	9,000	2,300	熱感知式カウンターからの推計	令和7年6月13日～10月10日
10	天人峡登山口	500	50～100	200	50～100	100	0～50	人感センサー式カメラからの推計	令和7年6月13日～10月10日
11	美瑛富士登山口	700	40～60	200	200	200	40～60	人感センサー式カメラからの推計	令和7年6月14日～10月8日
12	十勝岳登山口（美瑛岳方面）	2,500	400	400	700	300	500	熱感知式カウンターからの推計	令和7年6月1日～10月10日
13	十勝岳登山口（十勝岳方面）*4	7,000	2,200	50～100	1,000	3,300	500	熱感知式カウンターからの推計	令和7年6月1日～10月10日
14	十勝岳温泉（安政火口）	16,000	1,900	4,000	2,400	5,800	2,200	熱感知式カウンターからの推計	令和7年6月14日～10月8日
15	原始ヶ原登山口	500	200	100	50～100	40～60	0～50	人感センサー式カメラからの推計	令和7年6月1日～10月10日
16	十勝岳新得側登山口	0～50	0～50	0～50	0～50	0～50	0～50	国有林入林簿からの推計	令和7年5月29日～10月13日
17	トムラウシ山登山口（短縮コース）	3,400	300	1,200	1,100	700	50～100	赤外線式カウンターからの推計	令和7年5月27日～10月14日
18	トムラウシ山登山口（温泉コース）	200	40～60	40～60	50～100	0～50	0～50	熱感知式カウンターからの推計	令和7年5月27日～10月14日
19	石狩岳登山口	1,100	200	300	300	300	50～100	熱感知式カウンターからの推計	令和7年5月29日～10月16日
20	ユニ石狩岳登山口	200	0～50	0～50	0～50	50～100	40～60	国有林入林簿からの推計	令和7年5月21日～11月5日
21	ニペソツ山登山口（幌加温泉コース）	1,400	400	300	300	300	100	熱感知式カウンターからの推計	令和7年5月29日～10月16日
22	ウベペサンケ山糠平コース登山口	600	50～100	100	100	200	50～100	熱感知式カウンターからの推計	令和7年5月28日～10月15日
23	白雲山土幌側登山口 *5	900	300	100	100	200	200	国有林入林簿からの推計	令和7年4月1日～10月31日
24	白雲山鹿追側登山口 *5	1,800	400	400	300	400	300	国有林入林簿からの推計	令和7年4月1日～10月31日
25	東ヌプカウシヌプリ登山口 *5	1,700	300	300	300	400	300	国有林入林簿からの推計	令和7年4月1日～10月31日
26	南ペトウトル山登山口 *5	100	0～50	0～50	0～50	0～50	40～60	国有林入林簿からの推計	令和7年4月1日～10月31日

*は次ページの注記を参照

【数値の取扱方法】

計測方法や設置箇所ごとに誤差が生じるため、次のように取り扱った。

- ①各登山口の登山者カウンター等の月別計測値を記入
- ②明らかなエラー値を除外
- ③各登山口の年間合計及び各月の月間合計を算出
- ④誤差を考慮し、次のように表記
 - ・計測値 1000～ : 有効数字が2桁となるよう四捨五入
 - ・計測値 100～999 : 10の位を四捨五入
 - ・計測値 61～99 : 50～100
 - ・計測値 40～60 : 40～60
 - ・計測値 0～39 : 0～50

※①～④の操作により、次の点に注意が必要である。

- ・各登山口の月別入山者数の合計と年間合計は必ずしも一致しない。
- ・各月の登山口別入山者数の合計と月間合計は必ずしも一致しない。

【備考】

- ・現時点において、利用者が比較的少なく、かつ入林簿が設置されていない登山口については調査対象外としている。
- ・登山者カウンター等の設置期間は、雪解け後から積雪前までのため、未設置期間における入山者数は把握していない。
- ・熱感知式カウンターの精度検証結果より、入山者数の実数は計測値よりも一定程度少なくなることが明らかになっており、誤差は約110%～148%と仮定している。

【注記】

- * 1 高原温泉登山口（沼めぐり登山コース）は、ヒグマ出没により6月28日以降は全面通行止めとなったため、6月21日～28日までのうち、開館していた5日間の利用者数。
- * 2 松仙園登山道については、開通期間（7月14日～9月30日）において、一方通行運用の起点である松仙園登山口で調査を行った。
- * 3 姿見の池の裾合平方面及び旭岳方面には、周回コースのみを採勝した人数は含まれていない。
- * 4 十勝岳登山口（十勝岳方面）は、カウンター不具合のため、7月3日から8月18日までデータ欠損。
- * 5 雪解けの早い然別湖外輪山については早くから入山があり、4～5月の国有林入林簿の集計では、白雲山士幌側登山口：400、白雲山鹿追側登山口：200、南ペトウトル山登山口：0～50、東ヌプカウシヌプリ登山口：200であった。

令和7年度登山者カウンター等設置箇所 位置図

大雪山グレード



■大雪山グレード（利用体験ランク）

- グレード5 『大雪山の極めて厳しい自然に挑む登山ルート』
- グレード4 『大雪山の厳しい自然に挑む登山ルート』
- グレード3 『大雪山の自然を体感する登山ルート』
- グレード2 『大雪山の自然とふれあう軽登山ルート』
- グレード1 『大雪山の自然とふれあう探勝ルート』
- 非適用（登山道として供用していません）

注）グレード5のうち点線表示のルートは次のとおりですので、注意して下さい。

- ・台地ゲートから三川台のルートは、一般供用された登山道ではありません。所定の手続きをとり、自己責任で利用して下さい。
- ・三笠新道分岐から高根ヶ原分岐の三笠新道は、ヒグマとの軋轢を避けるため利用期間を限定している登山道です。夏山シーズンでの利用はできません。

■主なアクセス道

- 国道・道道
- 町道
- - - - ロープウェイ・ペアリフト
- 林道（⊗ 施錠ゲート）（⊙ 現在通行止）

令和7年度登山者カウンター等設置箇所 一覧表

設置箇所		計測方法
①	黒岳登山口	熱感知式カウンター
②	銀泉台登山口(第一花園下)	熱感知式カウンター
③	高原温泉登山口(緑岳コース)	熱感知式カウンター
④	高原温泉登山口(沼めぐりコース)	ヒグマ情報センター利用者数資料
⑤	クチャンベツ登山口	熱感知式カウンター
⑥	松仙園登山口	熱感知式カウンター
⑦	愛山溪温泉登山口	熱感知式カウンター
⑧	姿見の池(裾合平方面)	熱感知式カウンター
⑨	姿見の池(旭岳方面)	熱感知式カウンター
⑩	天人峡登山口	人感センサー式カメラ
⑪	美瑛富士登山口	人感センサー式カメラ
⑫	十勝岳登山口(美瑛岳方面)	熱感知式カウンター
⑬	十勝岳登山口(十勝岳方面)	熱感知式カウンター
⑭	十勝岳温泉登山口	熱感知式カウンター
⑮	原始ヶ原登山口	人感センサー式カメラ
⑯	十勝岳新得側登山口	国有林入林簿
⑰	トムラウシ山登山口(短縮コース)	赤外線式カウンター
⑱	トムラウシ山登山口(温泉コース)	熱感知式カウンター
⑲	石狩岳登山口	熱感知式カウンター
⑳	ユニ石狩岳登山口	国有林入林簿
㉑	ニペソツ山登山口(幌加温泉コース)	熱感知式カウンター
㉒	ウペペサンヶ山糠平コース登山口	熱感知式カウンター
㉓	白雲山士幌側登山口	国有林入林簿
㉔	白雲山鹿追側登山口	国有林入林簿
㉕	東ヌプカウシヌプリ登山口	国有林入林簿
㉖	南ペトウトル山登山口	国有林入林簿

令和7年度 歩道維持管理作業 実施報告書

No.1

計画者	北海道上川総合振興局(環境生活課)		
担当者	氏名	中島浩之	電子メール nakajima.hiroyuki2@pref.hokkaido.lg.jp
			電話番号 0166-46-5924
作業期間	2025年8月～9月(計8日間)		天候: —
参加者	合計 84 名 (延べ)		
施工内容	危険な木道を撤去し、木材やグレーチングを使用し路面保護を行った(旭岳裾合平)		

令和7年度 登山道保全技術セミナー実施

セミナー概要

行政だけでは適切な維持管理ができず、山岳関係者やボランティアによる協働管理が求められているなか、振興局ではCFを活用し資材確保を行うとともに登山道保全技術セミナーを一般社団法人大雪山・山守隊に委託。登山道荒廃のメカニズムの理解の上適切な補修技術整備に従事できる人材育成を目指す。

施工経緯

裾合平は約30年前に木道が設置され、その後適切な補修が行えず、木道は腐食し通行に危険が生じるほどとなっていた。また木道を避けて通る登山者により植物帯の一部が踏まれ踏圧による複線化が起きていた。豪雨時などに登山道を通る水によっても土壌流出が起き、浸食が続いている状況。また植物がなくなり裸地になった場所は凍結融解現象(霜柱)によって登山道脇の幅は続いている。

施工目的

踏圧による複線化を減少させること、植物の繁茂を促す施工を行うこと、登山者の危険箇所を減少させることなどを目的に、2022年からCFを活用して、木道の撤去、グレーチング等の再設置を行っている。

整備内容

路面保護等(既存木道撤去、グレーチングや一部木道設置、ヤシネット設置～新規歩行路の設置含む。)

施工日と参加人数

8/16,21,22,29,31

9/16,27,28

計 延べ84名(一般参加者41名、関係者4名、山守隊スタッフ39名)

施工内容(約225m)

グレーチング155基、木道2基、ヤシネット60m

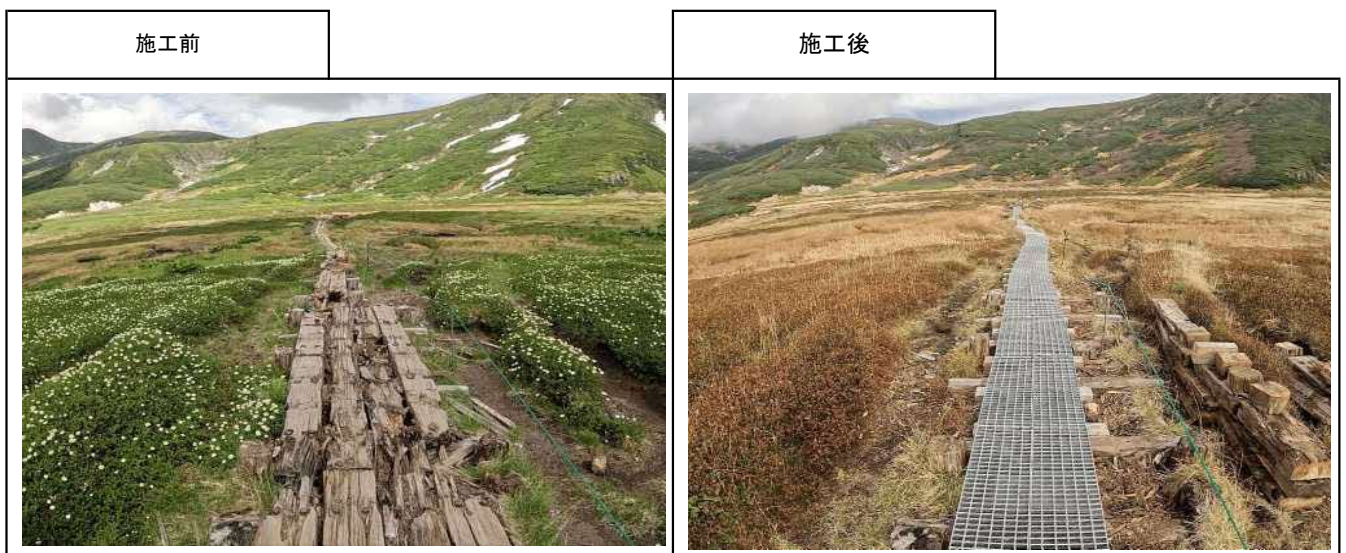


※ 施工状況は別添のとおり

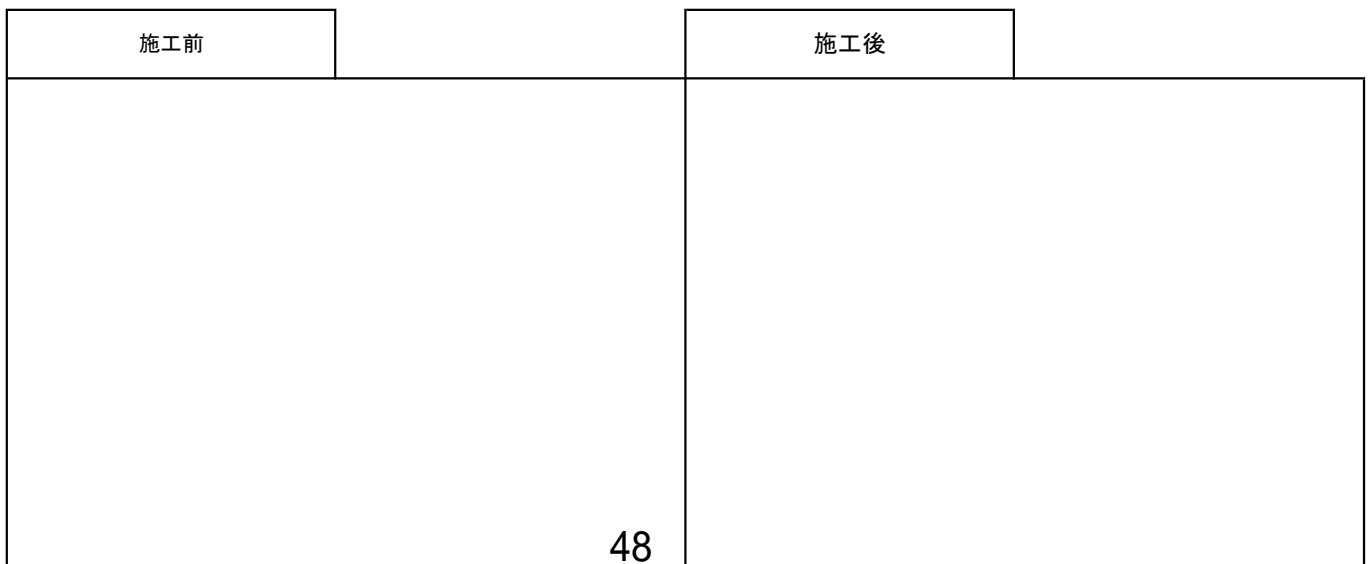
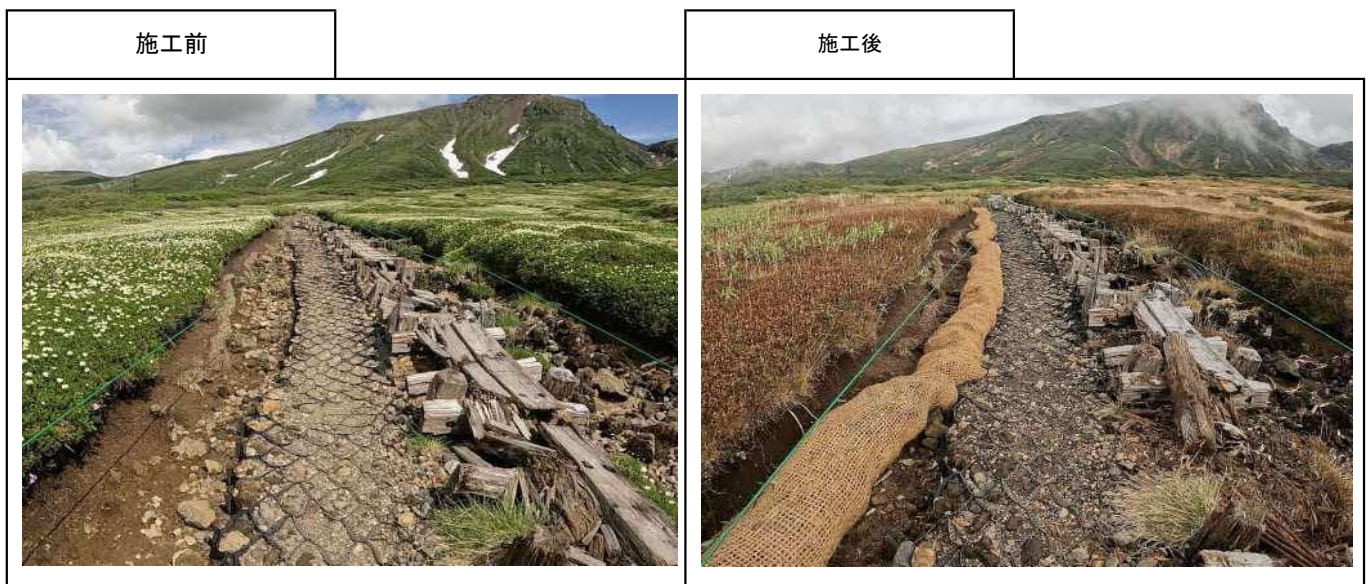
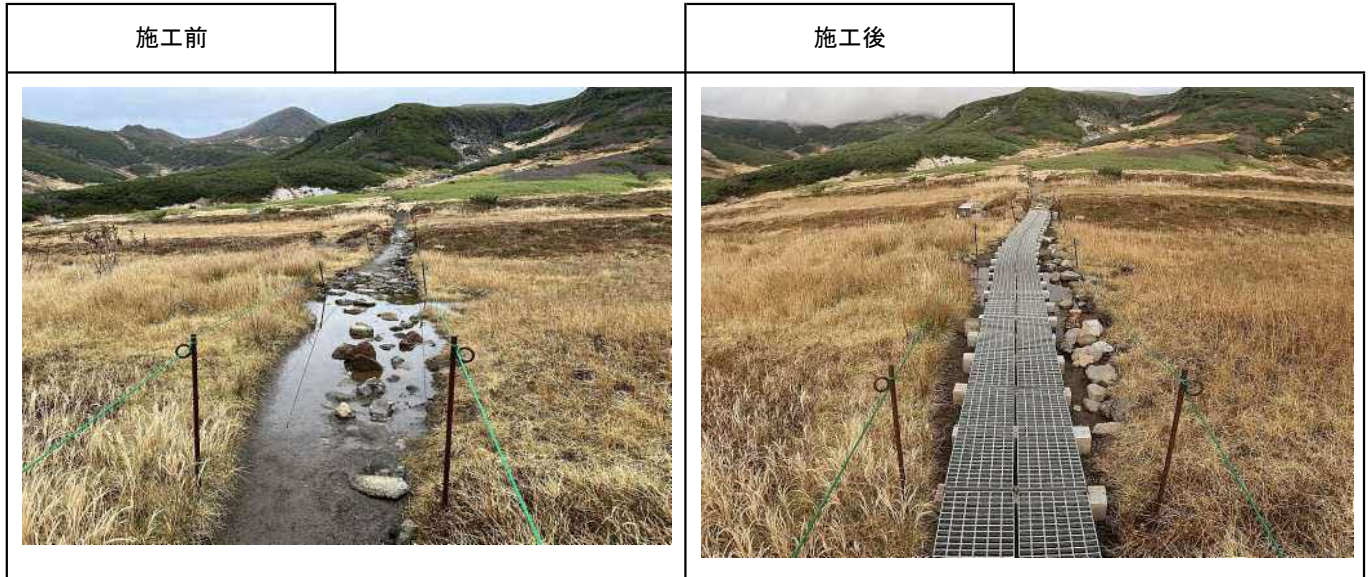
記録担当者

上記担当者と同じ

状況写真		大雪山国立公園中岳裾合平線歩道	
所属	北海道上川総合振興局	撮影日	2025.8～9
場所	裾合平分岐～中岳分岐		
写真提供	一般社団法人大雪山・山守隊		



状況写真		大雪山国立公園中岳裾合平線歩道	
所属	北海道上川総合振興局	撮影日	2025.8～9
場所	裾合平分岐～中岳分岐		
写真提供	一般社団法人大雪山・山守隊		



令和7年度 歩道維持管理作業 実施報告書

No.1

計画者	北海道上川総合振興局(環境生活課)		
担当者	氏名	中島浩之	電子メール nakajima.hiroyuki2@pref.hokkaido.lg.jp
			電話番号 0166-46-5924
作業日時	2025年8月10日(日)	10:30 ~ 15:00	天候: 晴
参加者	合計 36人		
施工内容	土留め(大雪山国立公園層雲峡勇駒別歩道 赤石川付近)		

実施結果:

令和7年度 登山道保全技術セミナー実施

セミナー概要

行政だけでは適切な維持管理ができず、山岳関係者やボランティアによる協働管理が求められているなか、振興局では登山道保全技術セミナーを一般社団法人大雪山・山守隊に委託し、登山道荒廃のメカニズムの理解の上適切な補修技術整備に従事できる人材育成を目指す。

整備内容

土留め施工

施工日と参加人数

8/10 36名(一般参加者26名、行政関係者3名、山守隊スタッフ7名)

施工経緯

黒岳石室から赤石川への歩道は長年かけて浸食が進み、深いガリーがみられる。2018年に浸食を防ぐ土留めを行っており部分的に路床の安定がみられるものの、それ以外は浸食が続き、登山道脇の植物群は常に崩れ落ちている状況。

施工の考え方

崩れて流され下流に溜まった土砂を元あった場所に戻し、今後起こりうる新たな浸食を防ぎ、植物が再生できる土壌環境を作る。

今回は、①法面の崩れ防止、②路床低下防止の達成のため、ヤシ土嚢を利用した土留め施工を行った。

また、過去の施工後の様子を参加者と観察し、作業目的の共有と保全への理解を深めた。

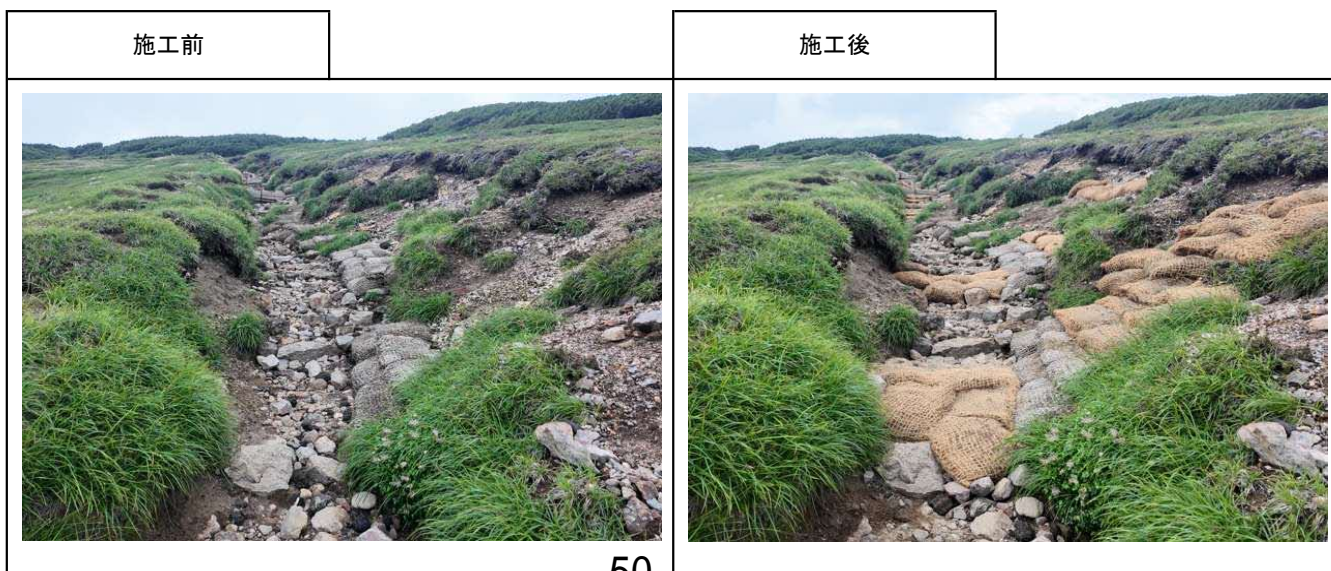


※ 施工状況は別添のとおり

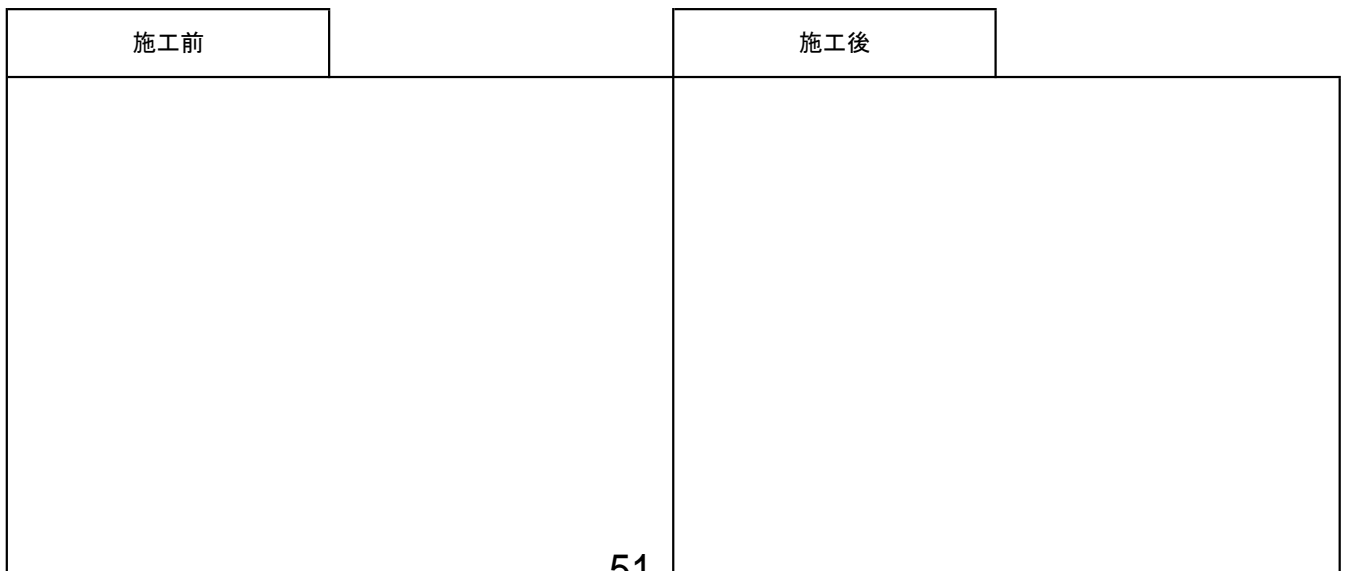
記録担当者

上記担当者と同じ

状況写真		大雪山国立公園層雲峡勇駒別歩道	
所属	北海道上川総合振興局	撮影日	2025.8.10
場所	黒岳石室から赤石川へ至る登山道		
写真提供	一般社団法人大雪山・山守隊		



状況写真		大雪山国立公園層雲峡勇駒別歩道	
所属	北海道上川総合振興局	撮影日	2025.8.10
場所	黒岳石室から赤石川へ至る登山道		
写真提供	一般社団法人大雪山・山守隊		



令和7年度 歩道維持管理作業 実施報告書

計画者	北海道上川総合振興局			
担当者	氏名	中島浩之	電子メール nakaiima.hiroyuki2@pref.hokkaido.lg.jp	
			電話番号 0166-46-5924	
作業日時	令和7年8月～9月	天候: 晴れ		
参加者	合計 5～10名			
施工内容	赤岳第2雪渓、第4雪渓手前の木道の再整備等(3年目)			
実施結果:				
○2カ所とも、一般社団法人大雪山・山守隊及び合同会社北海道山岳整備による補修作業				
<table border="1"> <tr> <td> 実施者 合同会社北海道山岳整備(白雲整備人、旭岳整備人、ヒグマ情報センタースタッフ含む。) </td> </tr> </table>				実施者 合同会社北海道山岳整備(白雲整備人、旭岳整備人、ヒグマ情報センタースタッフ含む。)
実施者 合同会社北海道山岳整備(白雲整備人、旭岳整備人、ヒグマ情報センタースタッフ含む。)				
<table border="1"> <tr> <td> 施工の考え方及び内容 別添『赤岳第2・第4雪渓整備報告』のとおり </td> </tr> </table>				施工の考え方及び内容 別添『赤岳第2・第4雪渓整備報告』のとおり
施工の考え方及び内容 別添『赤岳第2・第4雪渓整備報告』のとおり				
記録担当者				

下記個所において、登山道路床低下及び周辺土壌流出を防ぐ整備を行った。
 目的及び作業方針を定め作業を行った。

<目的>

「利用により崩れてしまった生態系の復元」

<作業方針>

- ・歩行路を明確にすることによる利用圧の軽減
- ・土壌流出を防ぐための土留め
- ・裸地化した場所への植生復元



管理者	北海道上川総合振興局
期間	令和7年 8月～9月
施工者	一般社団法人 大雪山・山守隊
施工指導	合同会社 北海道山岳整備
搬入資材	ヤシネット、ヤシ土嚢、角木材
現地発生使用材	転石、堆積土壌

作業は将来を見据えた施工となるよう、管理者との打ち合わせを行い、目標である生態系の復元を目指し、施工後の変化によって施工規模や手法を変えていくことを想定している。

第2雪溪現状



○斜面からの雨水や雪解け水が流れ込む形状となっており、流水により土壌流出が起きている。

○登山道ができる前は左右の植物群は繋がっていたと思われるため、登山利用によって地形が変化し植物群を壊滅的に崩してしまった状態だと考える。

○これらの地形を元に戻すことは不可能だと考え、現状(流水がある状態)でも植物が育ち登山利用ができる環境を想定し施工方法を選定する。



○中央部に崩れかけた木道が設置されている。この付近の植物帯の地盤は表土が数十cmと厚く、土壌が残っていた時にはかなりのぬかるみになっており、その対策として設置されて可能性がある。また、現在も雪解け時には周囲に水やシャーベット状の残雪があり、それらを回避するために使用されることがある。

○しかし木道の上よりも圧倒的に平坦な砂利道が広がっており、その場所を利用することが多い。

○法面は植物群がオーバーハングしている場所が多く、毎年植物が落ち、崩れ続けている。



○路床には石組み土留が設置され土壌が溜まっているが、侵食規模に対して施工規模が小さく、侵食を止めるものではない。

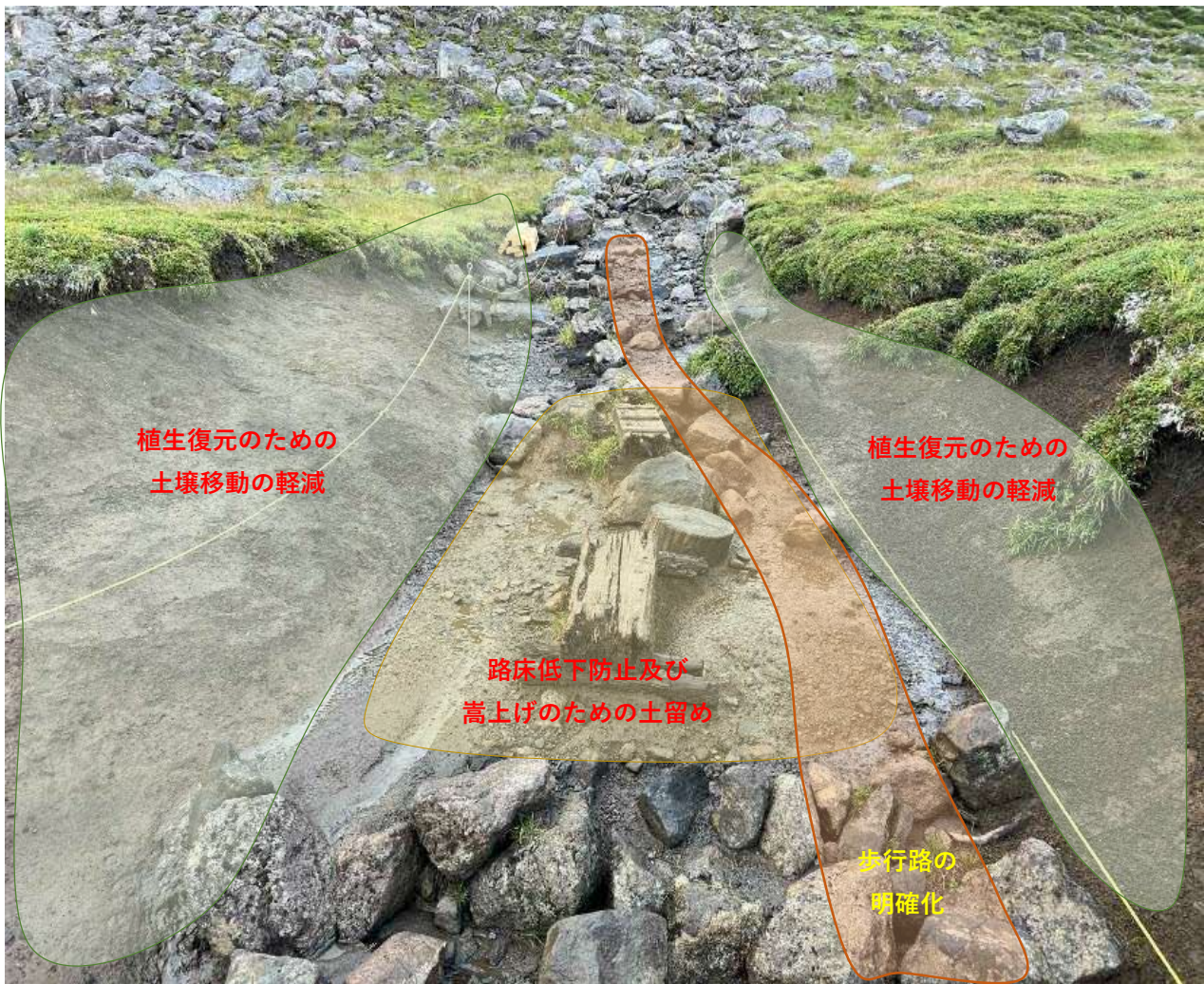
○裸地部分が多く、ロープがあっても入り込む登山者もある。

○裸地化部は利用者の踏圧、霜が降りる時期の凍結融解現象、雨滴、流水などにより崩れ続けている。

○裸地化部の土壌は表面が削れ続けているため新たな種子が定着することがなく、このままでは植生復元の可能性は低い。

<作業方針>

- ① 歩行路を明確にすることによる利用圧の軽減
- ② 土壌流出を防ぐための土留め
- ③ 裸地化した場所への植生復元



歩行路の明確化	<ul style="list-style-type: none"> ・木道の設置 ・土留めや木柵段差など、部分を歩きにくくすることによる限定
土壌流出を防ぐための土留め	<ul style="list-style-type: none"> ・路床部は木道枕木などによる土留め ・法面部はヤシネットやヤシ土嚢による土留め
裸地化した場所への植生復元	<ul style="list-style-type: none"> ・土留めによる土壌安定で種子の定着を想定 ・ヤシネットベタ張りによる利用者への侵入禁止措置 ・ヤシネットベタ張りによる凍結融解現象からの土壌移動を防ぐ (霜柱そのものは防げないため植物復元は別)

- ・まずは植生復元の一步目として土壌移動の推移を見る。
- ・また施工によって二次侵食が起きないように注意する。
- ・路床が嵩上げにより上がり路床面が広がること、土留めがあることで各路床面の勾配が緩いこと、落下水の対処ができていることなどを確認しつつ、流水があっても侵食が起きにくい環境を目指す。

第2雪溪施工前後



第2雪溪の今後について



・今年度施工個所の下部には裸地が多々残っているため施工が必要。



・今年度施工個所の土留めに堆積する土壌の量で次年度の施工規模が変化する。

・土留めがいっぱいに溜まっていれば施工を続ける。

＜シカによる植生や土壌の変化を記録すべき＞

シカによる小さな侵食や植物の食害が見られるようになってきている。まだ大きな被害ではないが、30頭程度の群れが常にいる状態は注意が必要だと考える。変化の記録をすべき。



備考



<現地発生資材の採取について>

- ・石材は登山道上や周辺の転石を確保した。
- ・土壌は下部にある登山道と並行する水路に溜まった土壌を採取した。



・搬入資材はすべてスタッフで荷上げし、現地への残置はない。

・荷上げ時、作業時は登山者の利用に支障ないように配慮した。



<施工指導について>

・施工指導は北海道山岳整備が行った。過去の状況を確認しつつ、施工により生態系の崩れや大きな変化が起きないように配慮した。



<上部1>

○斜面からの雨水や雪解け水が流れ込む形状となっており、流水により土壌流出が起きている。

○登山道ができる前は左右の植物群は繋がっていたと思われるため、登山利用によって地形が変化し植物群を壊滅的に崩してしまった状態だと考える。

○流水を登山道に集中させず、谷側の斜面に流す必要があるが、ガリーが深いままでは排水ができない。



<上部2>

○中央部に簡易木道が設置されており、歩行路の明確化はできている。

○流水による土壌の流出及び雨滴や踏圧、凍結融解現象による裸地化の拡大は止まらず、土壌堆積も起きない状態。

○法面は植物群がオーバーハングしている場所が多く、毎年植物が落ち、崩れ続けている。

○侵食規模に対して施工規模が小さい状態。このままでは侵食拡大を止めることはできない。



<下部>

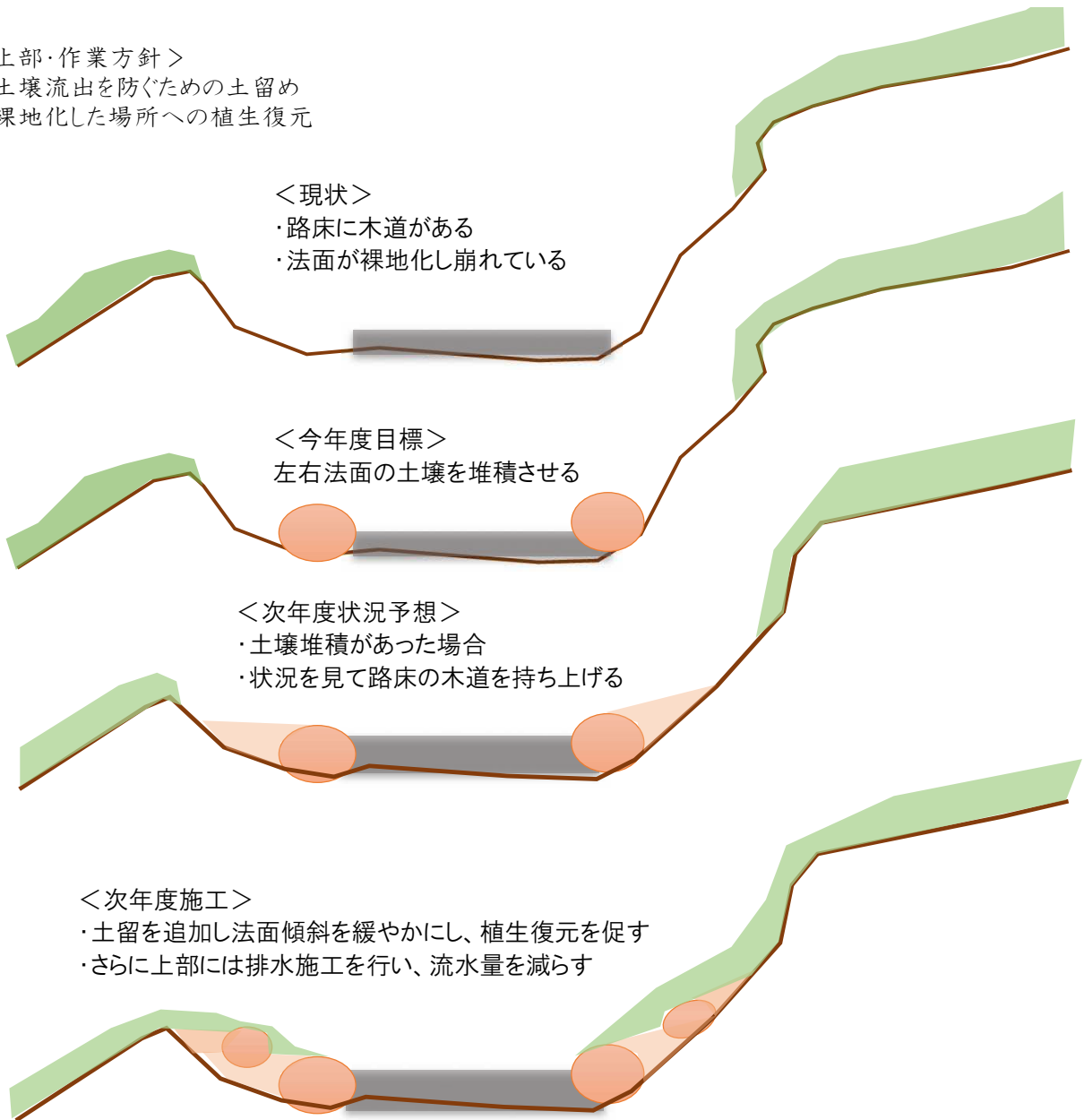
○第4雪溪から流れてくる流水や利用者の踏圧によりガリー侵食が大きくなっている場所。

○転石があるため歩きにくく、土壌面を削りながら歩いてしまう場合も見られる。

○放置した場合、左右法面の崩れ、路床の低下などが続き、植生復元に至ることはないと考えられる。

<上部・作業方針>

- ① 土壌流出を防ぐための土留め
- ② 裸地化した場所への植生復元

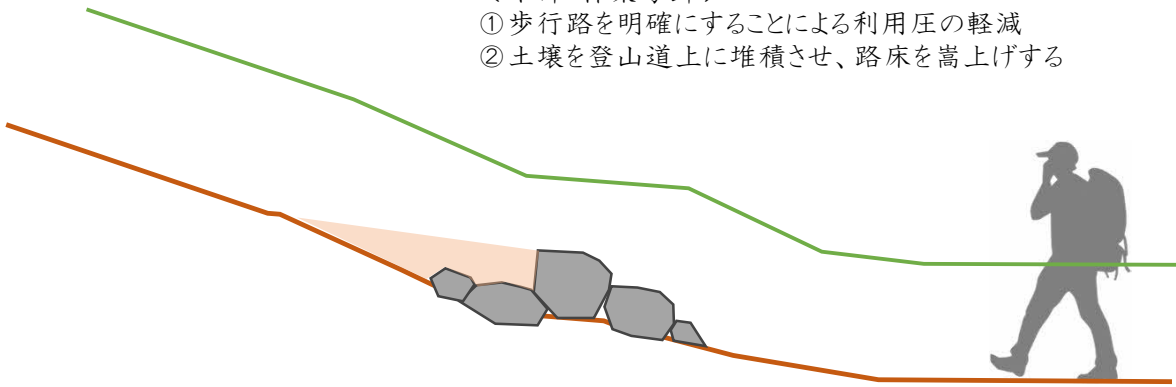


土壌流出を防ぐための土留め	・法面部はヤシネットやヤシ土嚢による土留め (昨年までの施工により下段個所では土壌安定が見られる)
裸地化した場所への植生復元	・昨年施工個所に土壌が溜まっている場所においては、さらなる土留めを行い、法面の傾斜が緩やかになるよう施工する。

- ・過去施工個所の施工物が正しく機能するよう軽微な補修を行う。
- ・最終目標である法面の傾斜を想定しつつ、土壌の堆積を確認する。
- ・土壌堆積は急激に起きるものではないので、毎年少しずつの変化に合わせる施工を行う。

<下部・作業方針>

- ① 歩行路を明確にすることによる利用圧の軽減
- ② 土壌を登山道上に堆積させ、路床を嵩上げする

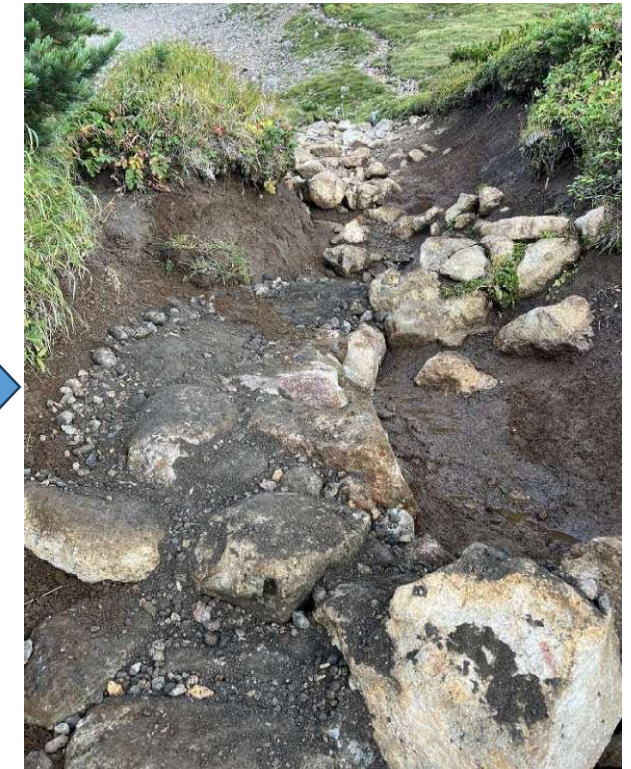


歩行路の明確化	・石組による階段 ・石畳が続く歩行路の設置
土壌を登山道上に堆積させ、路床を嵩上げする	・石組みによる土留め

第4雪溪施工前後(上部)



第4雪溪施工前後(下部)



第4雪溪の今後について



・今年度の上部個所には裸地が広がっているため施工が必要。



・昨年度施工個所の土留めに土壌が溜まっているため、上部にさらに土留めを設置し法面の傾斜を緩やかにしていく。



・今年度施工個所の石組み土留の前後にはさらなる土留めが必要。石材や木材で対応したいがガリーが深いため施工規模が大きくなる予定。



<現地発生資材の採取について>

第4雪渓近くの植物がない場所から採取している。昨年と比べ、土壌が堆積している場所を選定している。

石材は転石、浮石を選び原風景を壊さぬよう、なにがしかの生態系があることを想定しつつ選んでいる。



<施工指導について>

・施工指導は北海道山岳整備がおこなった。過去の状況を確認しつつ、施工により生態系の崩れや大きな変化が起きないように配慮した。



・施工日はほとんど登山者がこなかったが、登山者の利用に支障がないよう配慮した。

令和7年度 歩道維持管理作業 実施報告書

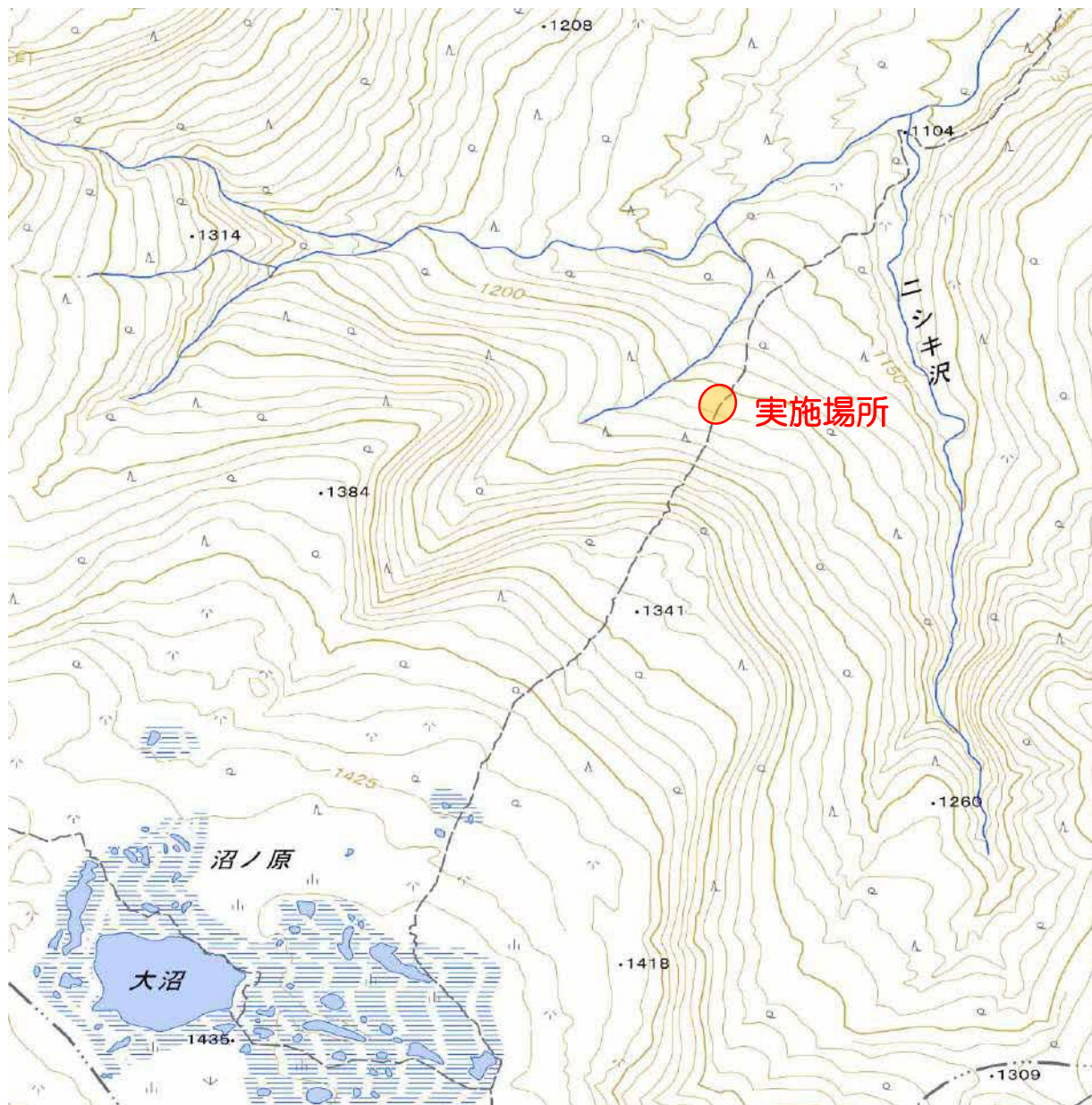
計画者	北海道上川総合振興局(環境生活課)		
担当者	氏名	中島浩之	電子メール nakajima.hiroyuki2@pref.hokkaido.lg.jp
			電話番号 0166-46-5924
作業日時	2025年9月23日、9月24日		天候: 晴
参加者	合計 17名		
施工内容	現場の倒木や土石を利用したガリーの埋め戻し及び段差処理		
<p>実施者 合同会社北海道山岳整備(白雲整備人、旭岳整備人、ヒグマ情報センタースタッフ含む。)</p>			
<p>整備内容 別添『大雪山国立公園ヤンベタツプ五色岳線歩道土壌流出防止作業報告書』のとおり</p>			
記録担当者	上記担当者と同じ		

令和7年度
大雪山国立公園ヤンベタップ五色岳線歩道土壌流出防止作業
報告書

資料作成：合同会社北海道山岳整備

<実施場所>

実施場所:ヤンベタツプ五色岳線歩道（沼ノ原登山口～沼ノ原 区間）



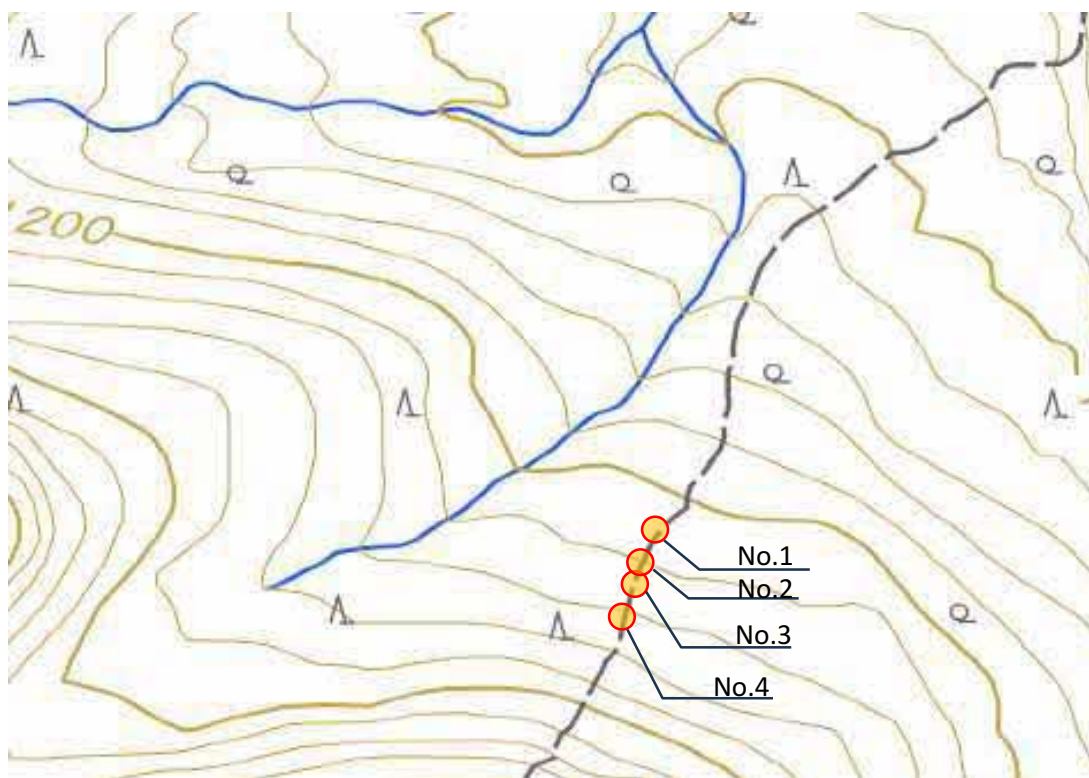
実施日	2025年9月23日（火）・2025年9月24日（水） ※作業完了日：9月24日
作業者	9月23日：9名（スタッフ6名、行政2名、ボランティア1名） 9月24日：8名（スタッフ6名、行政2名）

<実施目的>

- ・豪雨や雪解けによる流水及び長年の登山者の踏圧により土壌流出が起き、大規模なガリー侵食となっている。対応策としてガリーの埋め戻し及び段差処理、浮石の組み換えによる段差低減などを行ない、土壌流出防止、利用の改善、植生復元などを目標とする。
- ・今回の場所は保全対策ランクAの場所で「保全上の課題が極めて大きい区間」となっており、早急な対策が必要とされている。

< 施工記録 >

施工位置図



施工箇所	施工内容
No.1	段差処理7段
No.2	段差処理6段
No.3	段差処理4段
No.4	段差処理7段
設置合計	4箇所、段差処理24段

現状の課題（問題点、作業の必要性）、及び施工のねらい、目標

＜現状の課題＞

流水による深いガリー侵食箇所及び高い段差によって歩きにくい状況。利用者はガリーは歩かず、脇の植物帯を歩くため踏圧侵食が起き裸地が増えている。



＜施工のねらい及び目標＞

- ・ガリーを埋め戻すことで段差を解消し、流水による洗堀を緩和する。
- ・歩行に支障がないように段差処理を行なうことで利用者が使いやすい階段とし、脇の植物帯の復元を図る。
- ・土留めを設置し、土壌が溜まり将来的には周囲の植生が復元し風景になじみ、植物があることによって侵食が置きにくい環境を目指す。

イメージ図



No.1











上部から









施工場所において、完成イメージを共有し、
施工に必要な資材を割り出す。



資材は周辺の倒木や、上流から流れて堆積
している土砂等を使用。
倒木を切り出し、人力にて運搬。



切り出した木材の運搬。

作業中



木柵階段の設置。階段の高さや傾き等を考慮して最適な位置を考えて設置する。固定時はカケヤを使用して法面に埋め込む等の処理を行なう。



踏み面となる場所は、すべりにくいようチェーンソーで平にならす。水の流れを誘導する、蹴上げの高さを調整する等も兼ねている。



木柵を設置した背面には、周辺から収集した木っ端等を充填している。



木材だけでなく石材も階段として使用。



最後に踏み面に砂利を充填。



今後法面への踏み込みが無くなるよう、裸地化した部分には倒木や枯れ枝などを配置した。

登山道整備計画案

大雪山ビジョンに記載されている以下の目的を満たすため、
沼の原及び赤岳登山道の管理に関し、管理計画を立案します。

＜大雪山国立公園の目指す姿＞

大雪山国立公園では、荒廃や低迷を食い止め優れた価値を守ること、課題を解決することで自然環境や生物多様性の状態、利用体験の質を現状以上に豊かなものとするを指します。

一般社団法人 大雪山・山守隊
合同会社 北海道山岳整備

① 沼の原登山道(ヤンベタツプ五色岳線)整備計画

< 登山道管理ビジョン >

大雪山国立公園の中でも別格の高層湿原である沼の原湿原。この風景を見ることが到達点(目的)として認識され、「登山とは山頂へ行くことだけではない」という価値観を作り、大雪山国立公園の利用価値を深める管理を行う。

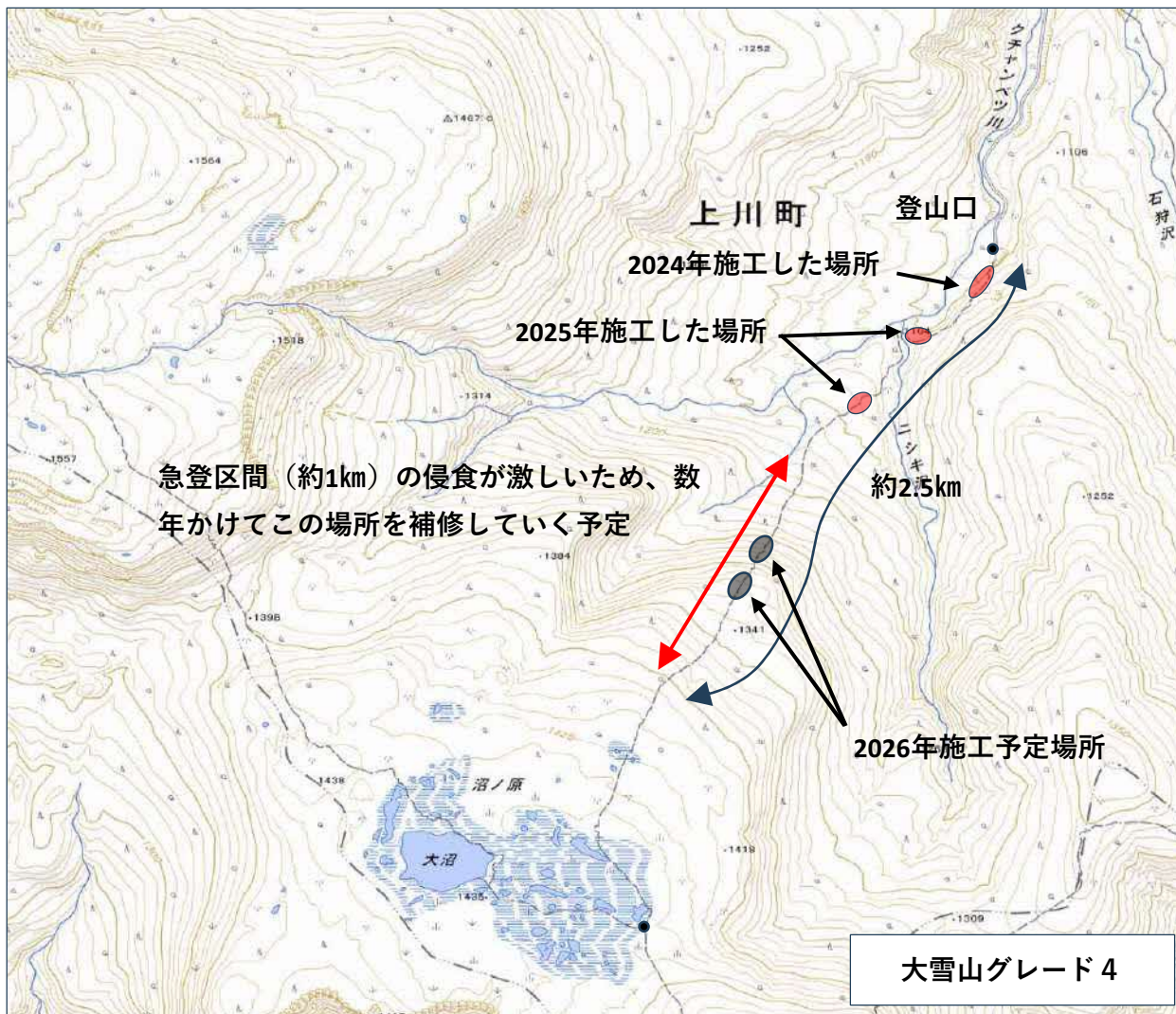


登山口から約2.5kmでたどり着く高層湿原。湿原を横断する木道が設置され途中には「大沼野営指定地」がある。



大沼野営指定地からはトムラウシや石狩連邦、旭岳など大雪山国立公園の主峰が見える。しかし「～山」という山頂がないためただの経由地と考えられており知る人ぞ知る場所である(そのほうが良いという人が多い)。

沼の原湿原への登山道(ヤンベタツプ五色岳線)



登山道から沼の原湿原に至るまでの約1.5km区間は急登が続く樹林帯である。登山者の踏圧から始まった裸地化は放置され、雨天時の流水が侵食を加速し、この30年で大雪山でも有数の激しい侵食のある登山道になってしまった。これらを解決しなければ多くの人を呼び込む場所にできない。

1kmの区間に数十か所あるこれらの崩れは地形の崩壊であり生態系の崩れである。また登山者にとっても非常に歩きにくく、縦走の装備を担ぎながら手を使って乗り越えなければならない段差が多い。



2025年に行った整備(各所ほぼ同じやり方で整備)



- 整備は侵食を止め植生が育つ環境を整えるとともに登山者の危険を減らし問題なく歩行できる施工を行う。また、これらの施工は原風景を損なわないものとし、最小限の施工を基本とする。
- 沼の原での整備では資材は現地発生資材(倒木や土砂)などで完結できる場所が多く、搬入(購入)資材はほとんど必要ない。
- 整備は施工箇所を割り出し、地形保全、危険度、植生復元などを勘案し、優先順位を決定する。
- 施工後は毎年モニタリングを行い、植生復元が起きやすいメンテナンスを継続する(施工完了が整備の完了ではない)。
- 施工で使う資材は周辺から収集するが、周囲の自然環境を乱すことがない範囲で収集し、定期的に収集した場所のモニタリングを行う。

①2026年の施工予定 <ガリー対策・・・2～4か所を想定>



ガリーの土留め兼木柵階段工を想定している場所は2025年に施工した場所の直上部。約15mに及ぶ深いガリー侵食となっているため、周辺倒木を利用して土留めをしつつ段差処理を行う。この場所は施工量が多くなるため、労力を使い切った場合はガリー対策はこの場所のみとなる。労力がある場合はこの上部にある同様の侵食に対応する予定。

ガリー対策への課題



沼の原登山道には写真のように深く長いガリーが数か所ある。ガリーを埋めるには大量の資材が必要となるため、単年度で対応することはできない。対策としてはガリーの所々に高い土留めを施工し、1～2年かけてその土留めが埋まったら次なる土留めを上部に設置するなど時間をかけて対応することが必要である。その場合、歩行路は法面上に確保しつつ、土壌が溜まったら歩行路を変化させるなど植生復元などにも合わせて柔軟に対応すべきである。また、土壌を溜めるといった想定の場合には侵食対応の排水はせず、土壌が移動しやすい状況を作る必要もあり、臨機応変な対応が肝心である。

②2026年の施工予定 <石組み階段設置・・・歩行路の確保>



・現状でも既存の石が大きく動くことは少ないが、石が大きいため跨ぐ動作も多く、斜度があるため危険を感じることもある。



・下り時は手をつけて歩くが、ザックが石に引っかかるほどの斜度であるため安全に歩行する場所を探すことで時間がかかる。

この場所は急登の土壌が流され切ったガレ場であり、石が大きいため足場が少なく非常に歩きにくい。約20mほどの区間だが、荷物を背負った状態では上り下りで危険を感じる場所である。石材と一部木材も併用し、歩行路の確保を行う。

今後10年のおおよその計画(毎年30～50人日の補修作業を行う前提)		
2026年度予定	<ul style="list-style-type: none"> ・石組み階段の施工 ・数か所の大規模ガリー対策 	<ul style="list-style-type: none"> ・ガリーを埋める形で施工していくので周辺の埋める資材(腐食木や堆積土砂)が多くあれば施工は進みやすい。 ・石組み階段設置予定箇所は全体で3～4か所ある(2026年はそのうちの1か所を完了させる)。
2027年～2030年	<ul style="list-style-type: none"> ・5年のうちに危険箇所と段差が大きい場所をすべて完了させる ・ガリーが深く、土壌を溜めながら施工を拡大していく場所は状況を見ながら進めていく ・土壌が溜まった場所やガリー対応ができた場所は上部に排水対策を行い、侵食圧を弱める ・登山者数の推移を見ながら野営指定地対策が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ・施工完了した場所は植生復元を観察しつつメンテナンスを行う。 ・踏圧などで裸地化した場所は多々あるため、優先順位を考慮しつつ施工を拡大する。
～2035年	<ul style="list-style-type: none"> ・すべての個所で大きな崩れは補修完了予定 ・刈払いや段差処理木材の交換など継続したメンテナンス ・沼の原湿原の木道交換が必要となっているため、5年を待たずに施工する必要がある 	<ul style="list-style-type: none"> ・登山者数の増加によりさらなる利用サービスを増加できるようにしたい。

②銀泉台赤岳登山道(銀泉台赤岳線)整備計画

< 登山道管理ビジョン >

銀泉台は様々な利用発展が見込まれる登山口である。紅葉を見る観光客、頑張る初級の赤岳登山、白雲岳を目指す中級者、縦走の拠点とする上級者まで多くの人が利用できる場所である。

過去には登山口に食事を提供する売店もあり賑わいがあったが、現在はバスの便数も限られ登山者数は縮小横ばい傾向である。

大雪山国立公園の利用を促進する拠点として適切な登山道管理を行い、利用価値を高める管理を行う。

このルートは紅葉期に多くの観光客が利用する展望台までの区間と、そこから上の山頂までの区間の考えを分けて考える必要がある。見晴台までのグレード2、そこから山頂までのグレード3に分かれているため登山口～見晴台までは利用者の利便を考え、崩れにくく、広く、分かりやすい階段などを施工する。その先は侵食による生態系への影響を減少させるため、植生復元や地形保全を優先し、自然環境復元をメインとした管理を行う。

山岳管理を理解してもらうため、利用区分による管理の在り方が分かるような管理・発信を行う。

登山口～見晴台(大雪山グレード2)
「利用圧に耐えうる利便を考えた施工」

見晴台～赤岳山頂(大雪山グレード3)
「侵食を軽減し、植生復元や地形保護を優先した施工」



見晴台までの区間は、紅葉期には一日で数百人が往復する利用圧が非常に高い場所となる。現状では簡易的な階段や補修が行われているが、利用圧が高い場所はしっかりした施工が必要となる。



- ← 第2雪渓
- ✓ 第3雪渓
- ↓ 第4雪渓

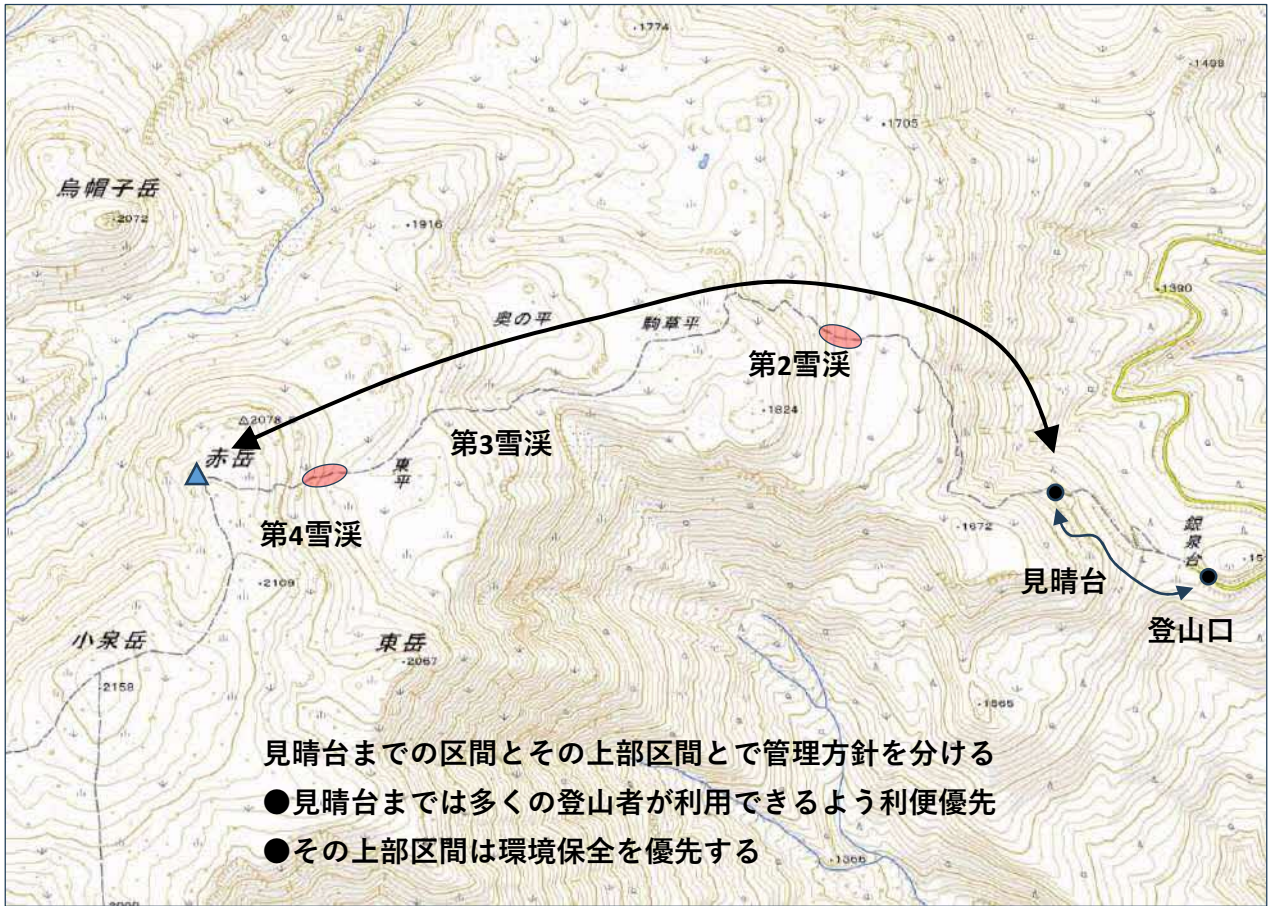
これらの場所では斜度ある区間よりもその下部の土壌堆積個所の侵食が激しい。優先度を考慮し、まずは今ある土壌を保持することで植生の復元につながる施工を考える。土壌安定後に斜面の歩みにくさを解消する。



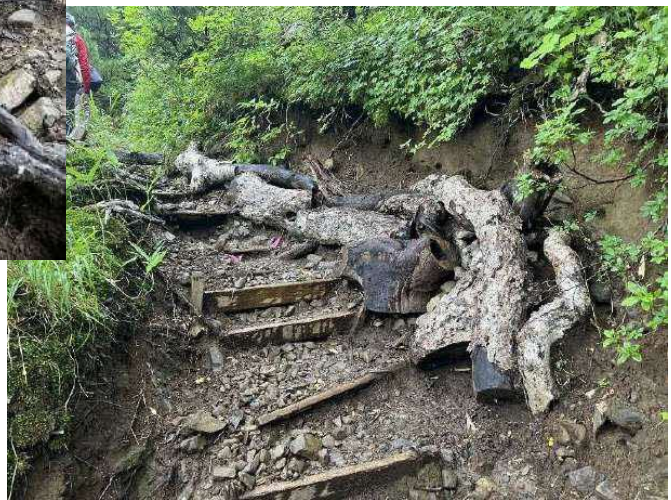
赤岳山頂までのルートにおいて急斜度の場所があり、総じて激しい侵食が起きている。急斜度のある第2、第3、第4雪渓は流水と踏圧による侵食が激しく、地形崩壊と植物帯の裸地化が進んでいる。これら以外にも踏圧による裸地化が顕著な場所やシカによる踏み分け道の増加や植物現象も見受けられるが、限られた労力を考え、2026年は各雪渓部での侵食防止作業計画を立てる。

この区間は利便よりも侵食からの保護を優先し、植生復元につながる施工を行う。

赤岳銀泉台の施工箇所



登山口～見晴台までの現状



この区間は多くの利用者があるが急傾斜の区間もあり登山道侵食(ガリー)が激しい場所もある。しかしながら現状は簡易的な階段が設置されているだけでそれらのメンテナンスも適切に行われていない。利用圧と侵食に耐えうる、侵食規模に合わせた施工を行う必要がある。



第2雪溪下部現状

ガリー侵食を放置した結果、幅5m以上の土壌流出が起き、地形が完全に崩れている。現状でも踏圧や凍結融解による裸地化が進行している。

2025年に一部土留めやヤシネットによる侵食防止工を行っているが、施工を継続すべき場所である



第3雪溪下部現状

←7月初旬までは登山道に残雪があり、登山者が雪を避け植物帯を踏むことによって裸地化が始まっている。ロープ柵などを適切な時期に設置する必要がある。



急こう配になると侵食幅が広くなり、歩行に支障が起きるため、さらに道脇を踏圧しつつ土壌が削られている状態。大規模な施工が必要。→



第4雪溪下部現状

登山道に水が流れる状態が続き侵食が拡大し続けている。この3年ほどで道脇の法面保護や植生復元、路床低下防止などを行っているが、排水やさらなる侵食防止が必要。

①2026年の施工予定 < 登山口～見晴台の整備方針 グレードと侵食規模に見合った施工 >

見晴台までの区間は紅葉期には多くの人が往復する場所となる。一日数百人になる利用があり、利用層も登山者だけでなく観光客が多くなることから、遊歩道を意識した登山道管理が必要と考える。斜度ある登山道でもあるため安全管理やすれ違いにも配慮が必要。



簡易的施工ではなく、道幅を広く取りすれ違いができる道にする。

現状では幅の狭い木材を使用しているため左右から土壌が抜けている。

木柵は左右の法面に届くものを使用し、法面の崩れが見られる場所では土壌を溜める施工をするなど侵食が止まる施工も行う。

木材は1.8m～2m、直径12～15cm程度の荒丸太を使用し、左右の道幅に合わせる。段差高は15cm程度に抑える。ガリーの深さによっては石材や木材を埋め戻しつつ左右の法面が崩れないよう配慮する。

< 利便を考慮した木柵階段事例・姿見園地での施工 >



姿見園地は大雪山グレード1の遊歩道として考えるべき区間である。そのため優先は利便や安全管理であり、道幅を広く取り、段差を低く設定し、観光客が気兼ねなく利用できる状況を目指している。



＜第2雪溪＞

2025年に行った施工では利用個所の限定と崩れた土壌を受け止めて土壌移動を防ぐ施工を行った。

次年度からは溜まった土壌からの植生が復元しやすい施工や、2025年では対応できなかった土壌侵食防止の施工を行いたい。

←法面の保護などは対応できなかったので、次年度以降に対応予定。



＜第4雪溪＞

直近3年間で緊急的な施工はできているが、土壌の溜まり具合によって施工を継続していく必要がある。

←また法面裸地化部にはさらなる保護対策が必要なため、次年度も整備継続の予定。

③2026年の施工予定 <第3雪溪の整備方針 土壌の移動を防ぐ>

2006.9



2025.8



2006.9



2025.8



2006.9



2025.8



20年前と比べ明らかに路床が低下している。しかし、法面は谷側はオーバーハングしているが山側は植物が旺盛に下方に伸びている場所が多い。土壌が路床に溜まり、安定勾配になれば植物復元が起きると想定し、まずは路床に土壌が溜まる施工を行う。

※泥濘箇所にはおそらく歩行路確保のための簡易木道が設置されているが、土留めとしては機能しておらず現状の侵食に対応できていない施工ではない。侵食規模と原因を考慮し、目指すべき自然環境を見据え(この場所は植生の復元)、それに見合った施工を行う必要がある。

ヤシ土嚢及び木材での土留め、木材と石材を使用した路床確保、土壌を踏ませないことによる路床低下防止、ヤシネットでの裸地化部の保護などを行い、土壌の溜まり具合を勘案しながら次年度につなげる。施工手法は第2、4雪溪での施工と同様を想定している。



2006.9



2025.8

第3雪渓上部には緊急的に土留めを行った方が良い箇所が点在している。2026年は写真の個所において周囲の石材を組みなおした土留め兼石組み階段を設置し、土壌堆積の変化を調べる。

石組み土留兼階段の施工事例






2025年に第4雪渓下部で行った土留め兼石組み階段。
 石組により高さある土留(50cm程度)を設置。歩行者のために左側に階段を設置し、その先も石材を配置することで歩行路を確定し土壌面を踏ませない施工を行った。土留め右側に土砂が溜まることで石組み全体の強度が増す。土壌が溜まったら上部にさらなる土留めを行い、法面の侵食を防ぐ予定。

今後10年のおおよその計画(毎年30~50人日の補修作業を行う前提)		
2026年度予定	<ul style="list-style-type: none"> ・登山口〜見晴台までの危険個所の施工 ・第2雪渓下部の施工一巡完了※ ・第3雪渓下部の土留め ・第3雪渓上部の石組み土留 ・第4雪渓の継続施工 	<p>※一純後は土壌堆積に合わせて施工を継続。またヤシネットや土嚢など損傷具合でメンテナンスを行う。</p>
2027年 ~2030年	<ul style="list-style-type: none"> ・登山口〜見晴台までの施工全て完了 ・第2雪渓下部の施工、土留めに合わせて施工完了 ・第3雪渓下部の土留め施工完了 ・第3雪渓上部の石組み作業継続中 ・第4雪渓下部の施工完了 ・第4雪渓上部の石組み施工継続中 ・各所裸地化部の保護施工開始 	<ul style="list-style-type: none"> ・施工完了した場所は植生復元を観察しつつメンテナンスを行う。 ・踏圧などで裸地化した場所は多々あるため、優先順位を考慮しつつ施工を拡大する。
~2035年	<ul style="list-style-type: none"> ・すべての個所で大きな崩れは補修完了予定 ・木材やヤシ素材を使った場所の交換やメンテナンスが主の作業になる。 ・おそらくシカの増加が顕著になる可能性もあり、駆除やシカ柵などの対策を優先した作業に変わっていくことも考慮する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・銀泉台の利用増を見越した駐車場整備や登山口での売店復活も検討したい。

歩道維持管理作業 実施結果

作成: 令和 7年 12月 24日

NO. 1

計画者	東川町大雪山国立公園保護協会「自然保護対策事業」 受託者: NPO法人大雪山自然学校 旭岳自然保全員 大塚航平		
担当者	氏名	大塚航平	電子メール otsuka@daisetsu.or.jp
			電話番号 0166-82-6500
作業期間又は日時	令和7年7月13日		天候: 晴
参加者	合計	1 人	
施工内容	姿見の池園地内、通路脇の石が外れ通路側に転がっていたものを元の位置に戻した。		
<p>実施結果: 土砂の流出を防止した。 ※施工前・施工後の比較写真を掲載し、文章や図で解説する。計画との差異等があれば、説明する。 ※計画時のねらいや目標が達成されたか、今後必要な対応は何かなども含めて、記載する。 ※当該作業(準備段階を含む)に要した人工数及び経費(概算)について記載する。</p>			
  			
記録担当者	岩田充		

歩道維持管理作業 実施結果

作成: 令和 7年 12月 24日
NO. 2

計画者	東川町大雪山国立公園保護協会「自然保護対策事業」 受託者: NPO法人大雪山自然学校 旭岳自然保全員 大塚航平		
担当者	氏名	大塚航平	電子メール otsuka@daisetsu.or.jp
			電話番号 0166-82-6500
作業期間又は日時	令和7年7月13日		天候: 晴
参加者	合計	1 人	
施工内容	姿見の池園地内 姿見駅から第一展望台までの階段のステップに開いた穴を補修した。		

実施結果: 流水による穴の拡大を防止した。

※施工前・施工後の比較写真を掲載し、文章や図で解説する。計画との差異等があれば、説明する。

※計画時のねらいや目標が達成されたか、今後必要な対応は何かなども含めて、記載する。

※当該作業(準備段階を含む)に要した人工数及び経費(概算)について記載する。



記録担当者	岩田充
-------	-----

歩道維持管理作業 実施結果

作成:令和 7年 12月 24日
NO. 3

計画者	東川町大雪山国立公園保護協会「自然保護対策事業」 受託者:NPO法人大雪山自然学校 旭岳自然保全員 大塚航平		
担当者	氏名	大塚航平	電子メール otsuka@daisetsu.or.jp
			電話番号 0166-82-6500
作業期間又は日時	令和7年7月14日		天候: 晴
参加者	合計	2 人	
施工内容	天女ヶ原登山道3合目～姿見の池園地の笹刈りを実施した。		
<p>実施結果: 通路にかかる草が無くなり歩きやすい状態になった。 ※施工前・施工後の比較写真を掲載し、文章や図で解説する。計画との差異等があれば、説明する。 ※計画時のねらいや目標が達成されたか、今後必要な対応は何かなども含めて、記載する。 ※当該作業(準備段階を含む)に要した人工数及び経費(概算)について記載する。</p>			
			
			
			
記録担当者	大塚航平		

歩道維持管理作業 実施結果

作成:令和 7年 12月 24日
NO. 4

計画者	東川町大雪山国立公園保護協会「自然保護対策事業」受託者:NPO法人大雪山自然学校 旭岳自然保全員 大塚航平		
担当者	氏名	大塚航平	電子メール otsuka@daisetsu.or.jp
			電話番号 0166-82-6500
作業期間又は日時	令和7年7月17日		天候: 曇り
参加者	合計	2 人	
施工内容	天女ヶ原登山道登山口から木道の範囲の草刈りを行った。		
<p>実施結果: 木道が見えず体にもあたる草が無くなり、歩きやすい状態になった。 ※施工前・施工後の比較写真を掲載し、文章や図で解説する。計画との差異等があれば、説明する。 ※計画時のねらいや目標が達成されたか、今後必要な対応は何かなども含めて、記載する。 ※当該作業(準備段階を含む)に要した人工数及び経費(概算)について記載する。</p>			
			
<div style="display: flex; justify-content: space-around;">  </div>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around;">  </div>			
記録担当者	大塚航平		

歩道維持管理作業 実施結果

作成: 令和 7年 12月 24日
NO. 5

計画者	東川町大雪山国立公園保護協会「自然保護対策事業」 受託者: NPO法人大雪山自然学校 旭岳自然保全員 大塚航平		
担当者	氏名	大塚航平	電子メール otsuka@daisetsu.or.jp
			電話番号 0166-82-6500
作業期間又は日時	令和7年7月21日		天候: 曇り
参加者	合計 1 人		
施工内容	姿見の池園地内 姿見展望台に設置の椅子とテーブルを固定する鍔が外れたため打ち直し、他の箇所についても緩み点検を行った。		
<p>実施結果: 鍔を打ち直した場所は不安定な状態が解消した。 ※施工前・施工後の比較写真を掲載し、文章や図で解説する。計画との差異等があれば、説明する。 ※計画時のねらいや目標が達成されたか、今後必要な対応は何かなども含めて、記載する。 ※当該作業(準備段階を含む)に要した人工数及び経費(概算)について記載する。</p>			
			
<div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>			
記録担当者	大塚航平		

歩道維持管理作業 実施結果

作成:令和 7年 12月 24日
NO. 6

計画者	東川町大雪山国立公園保護協会「自然保護対策事業」 受託者:NPO法人大雪山自然学校 旭岳自然保全員 大塚航平		
担当者	氏名	大塚航平	電子メール otsuka@daisetsu.or.jp
			電話番号 0166-82-6500
作業期間又は日時	令和7年7月24日		天候:
参加者	合計 3 人		
施工内容	姿見の池園地内 各展望台に設置されているイス・テーブルのボルトナットの緩み点検を行った。		

実施結果:緩みはなく、安全に使えることが確認できた。
 ※施工前・施工後の比較写真を掲載し、文章や図で解説する。計画との差異等があれば、説明する。
 ※計画時のねらいや目標が達成されたか、今後必要な対応は何かなども含めて、記載する。
 ※当該作業(準備段階を含む)に要した人工数及び経費(概算)について記載する。



記録担当者	大塚航平
-------	------

歩道維持管理作業 実施結果

作成:令和 7年 12月 24日
NO. 7

計画者	東川町大雪山国立公園保護協会「自然保護対策事業」受託者:NPO法人大雪山自然学校 旭岳自然保全員 大塚航平		
担当者	氏名	大塚航平	電子メール otsuka@daisetsu.or.jp
			電話番号 0166-82-6500
作業期間又は日時	令和7年8月6日		天候: くもり
参加者	合計	1 人	
施工内容	姿見の池園地内 姿見駅前の木道で両脇から通路内にはみ出した笹を刈った。		
<p>実施結果: 通路内にはみ出た笹が無くなり歩きやすい状態になった。 ※施工前・施工後の比較写真を掲載し、文章や図で解説する。計画との差異等があれば、説明する。 ※計画時のねらいや目標が達成されたか、今後必要な対応は何かなども含めて、記載する。 ※当該作業(準備段階を含む)に要した人工数及び経費(概算)について記載する。</p>			
			
<div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>			
記録担当者	滝澤クリスティーナ		

歩道維持管理作業 実施結果

作成:令和 7年 12月 24日
NO. 8

計画者	東川町大雪山国立公園保護協会「自然保護対策事業」 受託者:NPO法人大雪山自然学校 旭岳自然保全員 大塚航平		
担当者	氏名	大塚航平	電子メール otsuka@daisetsu.or.jp
			電話番号 0166-82-6500
作業期間又は日時	令和7年8月16日		天候: 晴
参加者	合計 3 人		
施工内容	姿見の池園地内 旭岳石室入口から雨水侵入防止のために設置された土嚢袋が劣化しているため土嚢袋を更新した。		

実施結果:土嚢袋が更新された。

※施工前・施工後の比較写真を掲載し、文章や図で解説する。計画との差異等があれば、説明する。

※計画時のねらいや目標が達成されたか、今後必要な対応は何かなども含めて、記載する。

※当該作業(準備段階を含む)に要した人工数及び経費(概算)について記載する。



記録担当者	大塚航平
-------	------

歩道維持管理作業 実施結果

作成:令和 7年 12月 24日
NO. 9

計画者	東川町大雪山国立公園保護協会「自然保護対策事業」 受託者:NPO法人大雪山自然学校 旭岳自然保全員 大塚航平		
担当者	氏名	大塚航平	電子メール otsuka@daisetsu.or.jp
			電話番号 0166-82-6500
作業期間又は日時	令和7年8月16日		天候: 晴
参加者	合計 3 人		
施工内容	姿見の池園地内 姿見展望台 椅子の下に設置された土砂流出を防ぐ土嚢袋が劣化しているため土嚢袋を更新した。		

実施結果:土嚢袋が更新された。

※施工前・施工後の比較写真を掲載し、文章や図で解説する。計画との差異等があれば、説明する。

※計画時のねらいや目標が達成されたか、今後必要な対応は何かなども含めて、記載する。

※当該作業(準備段階を含む)に要した人工数及び経費(概算)について記載する。



記録担当者	大塚航平
-------	------

歩道維持管理作業 実施結果

作成:令和 7年 12月 24日
NO. 10

計画者	東川町大雪山国立公園保護協会「自然保護対策事業」 受託者:NPO法人大雪山自然学校 旭岳自然保全員 大塚航平		
担当者	氏名	大塚航平	電子メール otsuka@daisetsu.or.jp
			電話番号 0166-82-6500
作業期間又は日時	令和7年8月21日		天候: 曇り
参加者	合計 3 人		
施工内容	姿見の池園地内第4展望台～姿見の池 散策路両脇の法面から転がり落ちた浮石を戻した。		

実施結果: 通路上の躓きやすい石が無くなり歩きやすい状態になった。
 ※施工前・施工後の比較写真を掲載し、文章や図で解説する。計画との差異等があれば、説明する。
 ※計画時のねらいや目標が達成されたか、今後必要な対応は何かなども含めて、記載する。
 ※当該作業(準備段階を含む)に要した人工数及び経費(概算)について記載する。



記録担当者	大塚航平
-------	------

歩道維持管理作業 実施結果

作成:令和 7年 12月 24日
NO. 11

計画者	東川町大雪山国立公園保護協会「自然保護対策事業」 受託者:NPO法人大雪山自然学校 旭岳自然保全員 大塚航平		
担当者	氏名	大塚航平	電子メール otsuka@daisetsu.or.jp
			電話番号 0166-82-6500
作業期間又は日時	令和7年8月25日		天候: 曇り
参加者	合計	1 人	
施工内容	天女ヶ原登山道登山口から木道の範囲の草刈りを行った。		
<p>実施結果: 木道にかかる草が無くなり歩きやすい状態になった。 ※施工前・施工後の比較写真を掲載し、文章や図で解説する。計画との差異等があれば、説明する。 ※計画時のねらいや目標が達成されたか、今後必要な対応は何かなども含めて、記載する。 ※当該作業(準備段階を含む)に要した人工数及び経費(概算)について記載する。</p>			
			
			
			
記録担当者	大塚航平		

歩道維持管理作業 実施結果

作成:令和 7年 12月 24日
NO. 12

計画者	東川町大雪山国立公園保護協会「自然保護対策事業」 受託者:NPO法人大雪山自然学校 旭岳自然保全員 大塚航平		
担当者	氏名	大塚航平	電子メール otsuka@daisetsu.or.jp
			電話番号 0166-82-6500
作業期間又は日時	令和7年8月30日		天候: 雨
参加者	合計	1 人	
施工内容	姿見の池園地内 姿見駅～姿見の池間(左回り) ステップ部の外れた石を戻した。		

実施結果: 不安定な石が無くなり歩きやすい状態になった。
 ※施工前・施工後の比較写真を掲載し、文章や図で解説する。計画との差異等があれば、説明する。
 ※計画時のねらいや目標が達成されたか、今後必要な対応は何かなども含めて、記載する。
 ※当該作業(準備段階を含む)に要した人工数及び経費(概算)について記載する。



記録担当者	大塚航平
-------	------

歩道維持管理作業 実施結果

作成:令和 7年 12月 24日
NO. 13

計画者	東川町大雪山国立公園保護協会「自然保護対策事業」 受託者:NPO法人大雪山自然学校 旭岳自然保全員 大塚航平		
担当者	氏名	大塚航平	電子メール otsuka@daisetsu.or.jp
			電話番号 0166-82-6500
作業期間又は日時	令和7年8月30日		天候: 雨
参加者	合計	1 人	
施工内容	姿見の池園地内 姿見駅～姿見の池間(左回り) ステップ部の外れた石を戻した。		
<p>実施結果: 不安定な石が無くなり歩きやすい状態になった。 ※施工前・施工後の比較写真を掲載し、文章や図で解説する。計画との差異等があれば、説明する。 ※計画時のねらいや目標が達成されたか、今後必要な対応は何かなども含めて、記載する。 ※当該作業(準備段階を含む)に要した人工数及び経費(概算)について記載する。</p>			
			
<div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>			
記録担当者	大塚航平		

歩道維持管理作業 実施結果

作成: 令和 7年 12月 24日
NO. 14

計画者	東川町大雪山国立公園保護協会「自然保護対策事業」受託者: NPO法人大雪山自然学校 旭岳自然保全員 大塚航平		
担当者	氏名	大塚航平	電子メール otsuka@daisetsu.or.jp
			電話番号 0166-82-6500
作業期間又は日時	令和7年9月1日		天候: 雨
参加者	合計	2 人	
施工内容	姿見の池園地内 姿見駅～姿見の池間(左回り) 植生の上に堆積した砂利を除去した。		

実施結果: 砂利に埋もれた植物が露出した。

※施工前・施工後の比較写真を掲載し、文章や図で解説する。計画との差異等があれば、説明する。

※計画時のねらいや目標が達成されたか、今後必要な対応は何かなども含めて、記載する。

※当該作業(準備段階を含む)に要した人工数及び経費(概算)について記載する。



記録担当者	大塚航平
-------	------




歩道維持管理作業 実施結果

作成:令和 7年 12月 24日
NO. 15

計画者	東川町大雪山国立公園保護協会「自然保護対策事業」 受託者:NPO法人大雪山自然学校 旭岳自然保全員 大塚航平		
担当者	氏名	大塚航平	電子メール otsuka@daisetsu.or.jp
			電話番号 0166-82-6500
作業期間又は日時	令和7年9月6日		天候: 雨
参加者	合計	1 人	
施工内容	姿見の池園地内 姿見駅～姿見の池間(左回り) んかるみに砂利を敷いた。		
<p>実施結果: んかるみを避け通路端の植生を踏む利用者が減少した。 ※施工前・施工後の比較写真を掲載し、文章や図で解説する。計画との差異等があれば、説明する。 ※計画時のねらいや目標が達成されたか、今後必要な対応は何かなども含めて、記載する。 ※当該作業(準備段階を含む)に要した人工数及び経費(概算)について記載する。</p>			
			
<div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>			
記録担当者	岩田充		

歩道維持管理作業 実施結果

作成:令和 7年 12月 24日
NO. 16

計画者	東川町大雪山国立公園保護協会「自然保護対策事業」 受託者:NPO法人大雪山自然学校 旭岳自然保全員 大塚航平		
担当者	氏名	大塚航平	電子メール otsuka@daisetsu.or.jp
			電話番号 0166-82-6500
作業期間又は日時	令和7年9月25日		天候: 曇り
参加者	合計 1 人		
施工内容	天女ヶ原登山道1合目付近 9月20日の強風により倒木が発生し、登山道がふさがれたため倒木処理を実施した。		
<p>実施結果: 通行が容易になった。 ※施工前・施工後の比較写真を掲載し、文章や図で解説する。計画との差異等があれば、説明する。 ※計画時のねらいや目標が達成されたか、今後必要な対応は何かなども含めて、記載する。 ※当該作業(準備段階を含む)に要した人工数及び経費(概算)について記載する。</p>			
			
			
			
記録担当者	大塚航平		

歩道維持管理作業 実施結果

作成:令和 7年 12月 24日
NO. 17

計画者	東川町大雪山国立公園保護協会「自然保護対策事業」受託者:NPO法人大雪山自然学校 旭岳自然保全員 大塚航平		
担当者	氏名	大塚航平	電子メール otsuka@daisetsu.or.jp
			電話番号 0166-82-6500
作業期間又は日時	令和7年10月7日		天候: 曇り
参加者	合計 1 人		
施工内容	姿見の池園地内 姿見駅～姿見の池間(左回り) 劣化し千切れた樹脂製の導水管を石段へ置き換えた。		
<p>実施結果: 導水管を避けるため大きく跨いで歩く状態が解消した。 ※施工前・施工後の比較写真を掲載し、文章や図で解説する。計画との差異等があれば、説明する。 ※計画時のねらいや目標が達成されたか、今後必要な対応は何かなども含めて、記載する。 ※当該作業(準備段階を含む)に要した人工数及び経費(概算)について記載する。</p>			
			
<div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>			
記録担当者	大塚航平		

歩道維持管理作業 実施結果

作成: 令和 7年 12月 24日
NO. 18

計画者	東川町大雪山国立公園保護協会「自然保護対策事業」 受託者: NPO法人大雪山自然学校 旭岳自然保全員 大塚航平		
担当者	氏名	大塚航平	電子メール otsuka@daisetsu.or.jp
			電話番号 0166-82-6500
作業期間又は日時	令和7年10月14日		天候: 晴
参加者	合計 1 人		
施工内容	姿見の池園地内 第4展望台付近の広範なぬかるみに飛び石を置き利用者がぬかるみを避けて歩けるようにした。		
<p>実施結果: ぬかるみを避け通路端の植生を踏む利用者が減少した。 ※施工前・施工後の比較写真を掲載し、文章や図で解説する。計画との差異等があれば、説明する。 ※計画時のねらいや目標が達成されたか、今後必要な対応は何かなども含めて、記載する。 ※当該作業(準備段階を含む)に要した人工数及び経費(概算)について記載する。</p>			
			
<div style="display: flex; justify-content: space-around;">  </div>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around;">  </div>			
記録担当者	滝澤クリスティーナ		

歩道維持管理作業 実施結果

作成:令和 7年 12月 24日
NO. 20

計画者	東川町大雪山国立公園保護協会「自然保護対策事業」 受託者:NPO法人大雪山自然学校 旭岳自然保全員 大塚航平		
担当者	氏名	大塚航平	電子メール otsuka@daisetsu.or.jp
			電話番号 0166-82-6500
作業期間又は日時	令和7年10月16日		天候: 曇り
参加者	合計	1 人	
施工内容	姿見の池園地内 第4展望台～姿見の池 法面の石段から外れた石を戻した。		

実施結果:土砂の流出を防止した。

※施工前・施工後の比較写真を掲載し、文章や図で解説する。計画との差異等があれば、説明する。

※計画時のねらいや目標が達成されたか、今後必要な対応は何かなども含めて、記載する。

※当該作業(準備段階を含む)に要した人工数及び経費(概算)について記載する。



記録担当者	滝澤クリスティーナ
-------	-----------

歩道維持管理作業 実施結果

作成: 令和 7年 12月 24日
NO. 21

計画者	東川町大雪山国立公園保護協会「自然保護対策事業」 受託者: NPO法人大雪山自然学校 旭岳自然保全員 大塚航平		
担当者	氏名	大塚航平	電子メール otsuka@daisetsu.or.jp
			電話番号 0166-82-6500
作業期間又は日時	令和7年9月18日～10月17日		天候: -
参加者	合計	1 人	
施工内容	姿見駅前の木道の板を固定しているネジ部の緩み(木側のネジ山の摩耗)が原因で、踏むと板が浮きあがり不安なものが多いため、効いていないネジの位置をずらし、木道を固定する作業を行った。 実施結果: 再固定が完了した場所では木道が浮きあがらなくなった。積雪前までに全体の約6割が完了した。95枚の板に対し350本のネジの打ち直しを行った。 ※施工前・施工後の比較写真を掲載し、文章や図で解説する。計画との差異等があれば、説明する。 ※計画時のねらいや目標が達成されたか、今後必要な対応は何かなども含めて、記載する。 ※当該作業(準備段階を含む)に要した人工数及び経費(概算)について記載する。		
			
			
			
記録担当者	大塚航平		

歩道維持管理作業 実施結果

作成: 令和 7年 12月 19日

NO. 1

計画者	Asahidake Trail Keeper		
担当者	氏名	藤このみ	電子メール fuji.co.107@gmail.com
			電話番号 090-4204-0236
作業期間又は日時	8/9~9/5 5日間	天候:	晴れ・曇り
参加者	合計	4 人	
施工内容	ガリー化した箇所には段差処理及び床止め施工。 残存植生保護のための石積みの修繕。		
<p>実施結果:</p> <p>2019~2024年度施工箇所の約10m上部に同様の施工を行なった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・段差処理・床止め工 <p>現地の石材で高さ10~15cm程度の段差処理5段、各段の間を現地石材と土砂で床止め施工。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・石積み修繕 <p>石積み下の洗掘された箇所及び崩壊部分の修繕。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・石積み崩壊部分では植生が剥がれていたため、経過観察を行う。 ・洗掘による路面の低下が著しいため、上部の分散排水工の改良が必要。 			
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">段差処理・床止</div> 		<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">施工前</div>	
		<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">施工後</div>	
記録担当者	藤このみ		

石積み修繕



施工前



施工後

記録担当者

藤このみ

2025年大雪山国立公園 ヒグマに関する意識調査 結果報告

北海道大学大学院農学研究院 愛甲哲也

北海道大学農学院 修士1年 粒來綾香

【調査概要】

対象者：大雪山国立公園内の登山者

配布期間：2025年7月～2025年9月

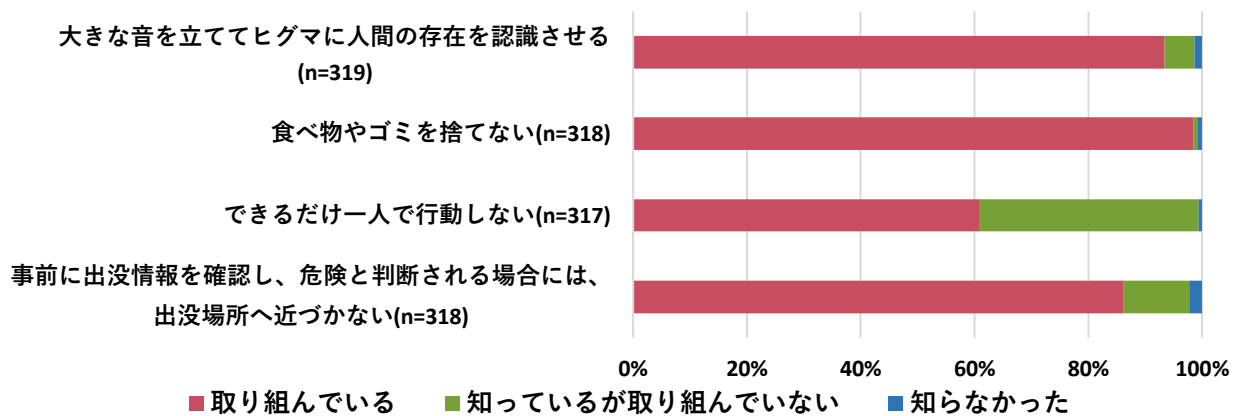
配布場所：黒岳、旭岳、富良野岳、赤岳、白雲岳、緑岳

配布部数：537部、回収部数：319（回収率：59.4%）

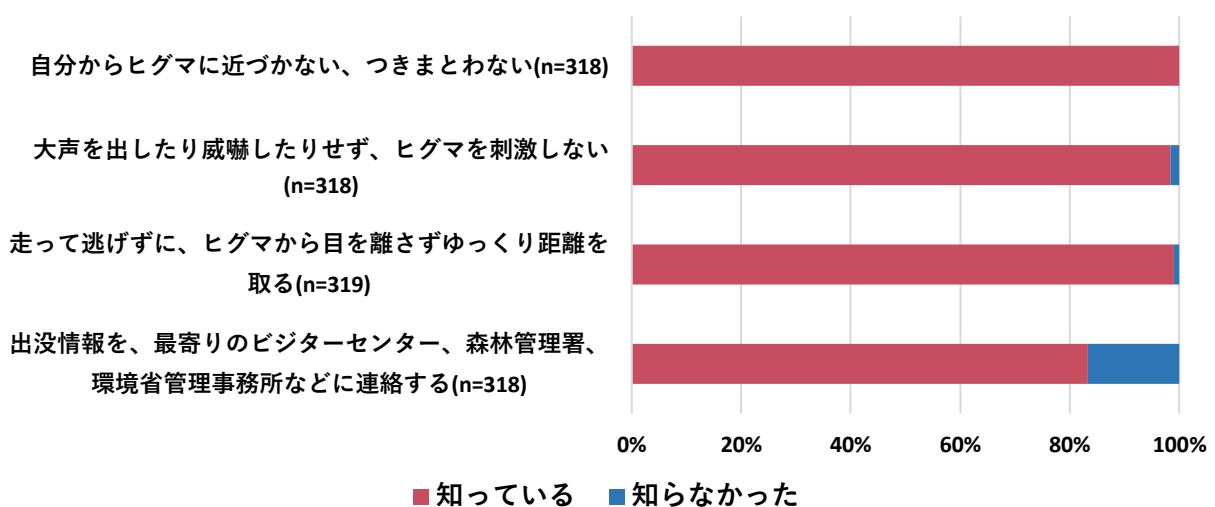
配布方法：現地で登山者に対し、調査趣旨を説明したうえで、調査票と返送用封筒を配布し、調査票への回答記入と郵送による返送、もしくはWEB版への回答を依頼した。

【調査結果】

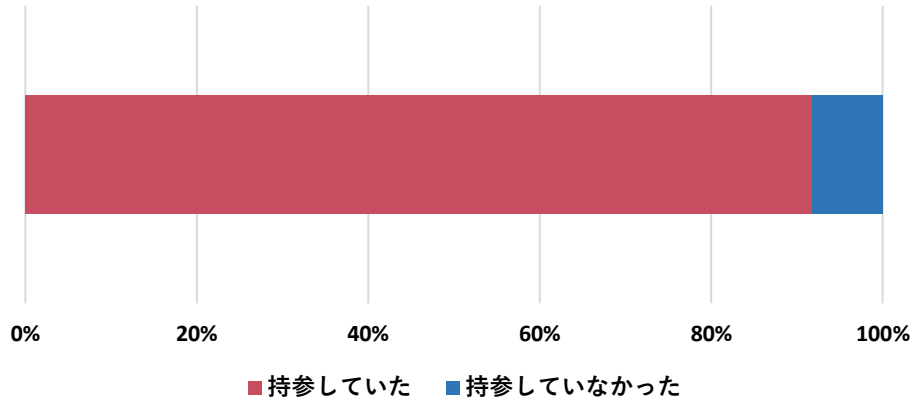
ヒグマ遭遇防止策の実施度



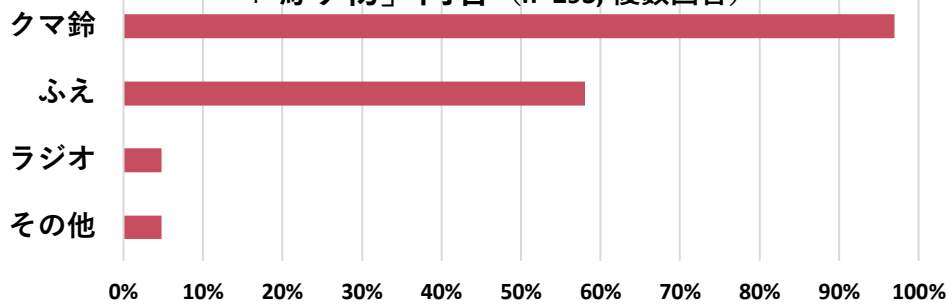
ヒグマ遭遇時の対応の認知度



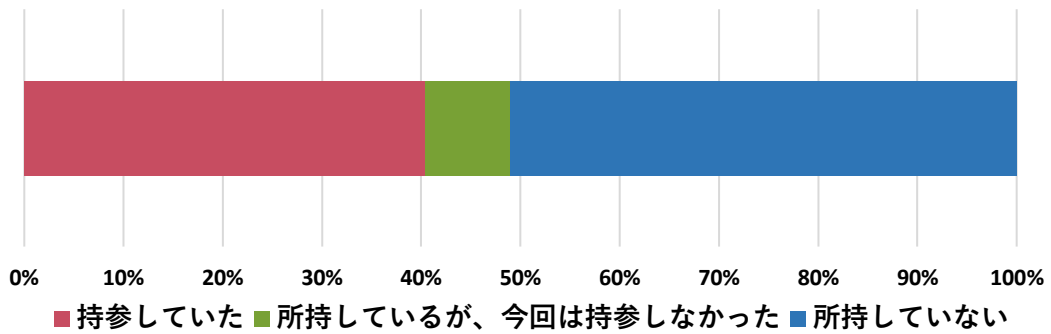
「鳴り物」携帯率 (n=319)



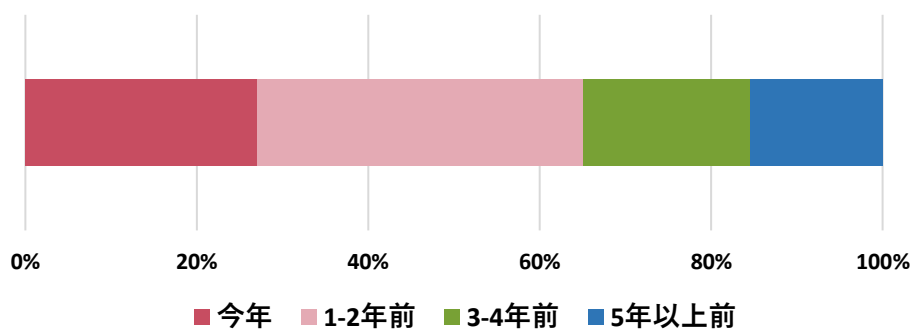
「鳴り物」内容 (n=293, 複数回答)



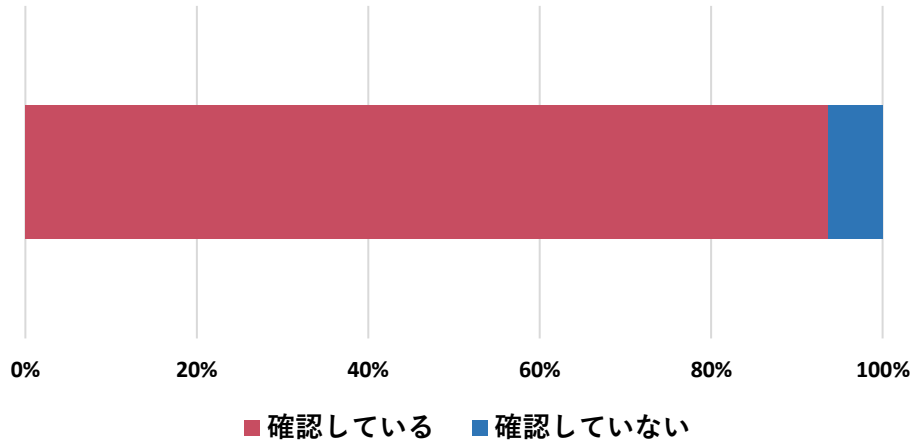
クマ撃退スプレー携帯率 (n=319)



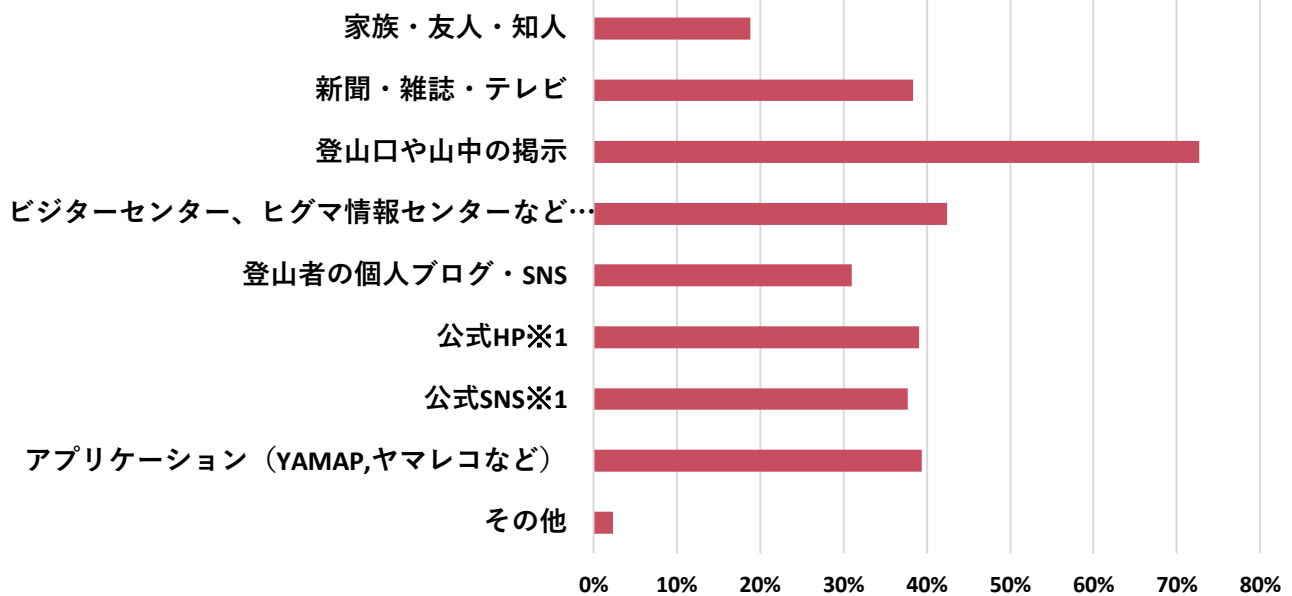
クマ撃退スプレー購入時期 (n=155)



事前のヒグマ出没情報の確認 (n=317)

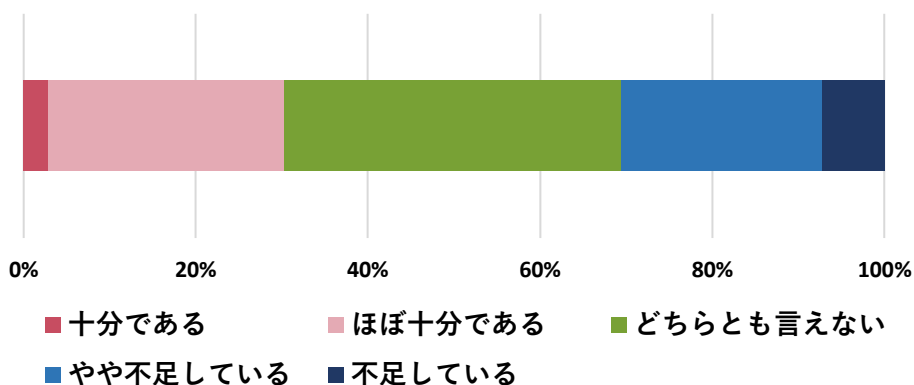


ヒグマ出没情報の情報源 (n=297, 複数回答)

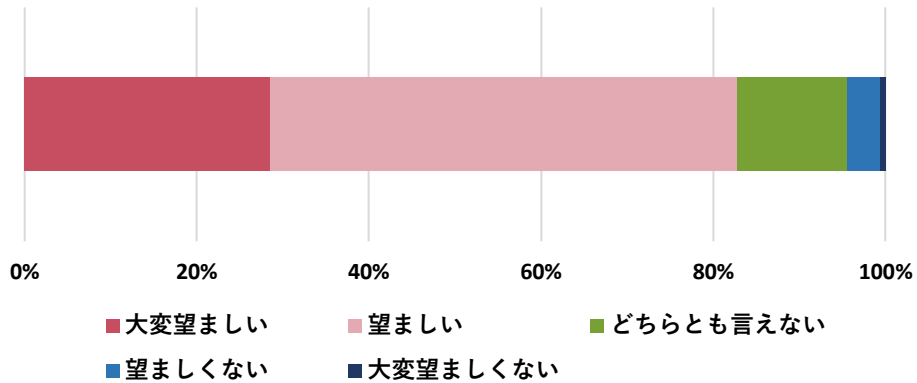


※1：大雪山国立公園連絡協議会、ビジターセンター、ヒグマ情報センター、白雲岳避難小屋などが運営・管理するホームページもしくはSNS

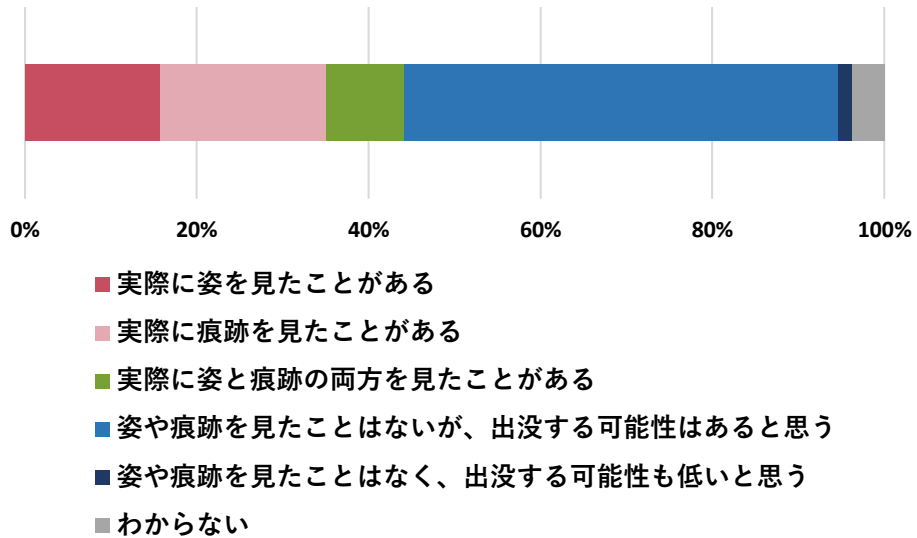
ヒグマ出没情報を十分に得られていると感じるか (n=317)



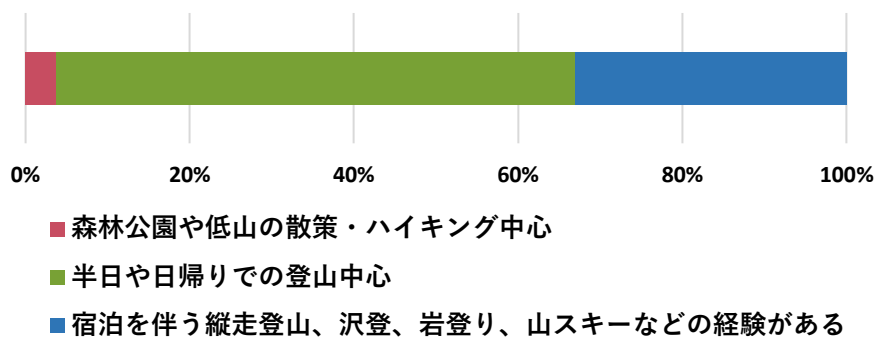
ヒグマ出没時のコース・避難小屋の 一時閉鎖について (n=319)



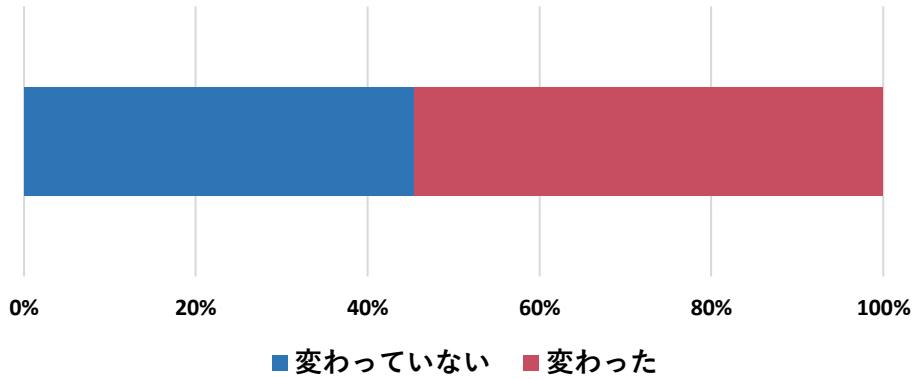
ヒグマとの遭遇経験 (n=319)



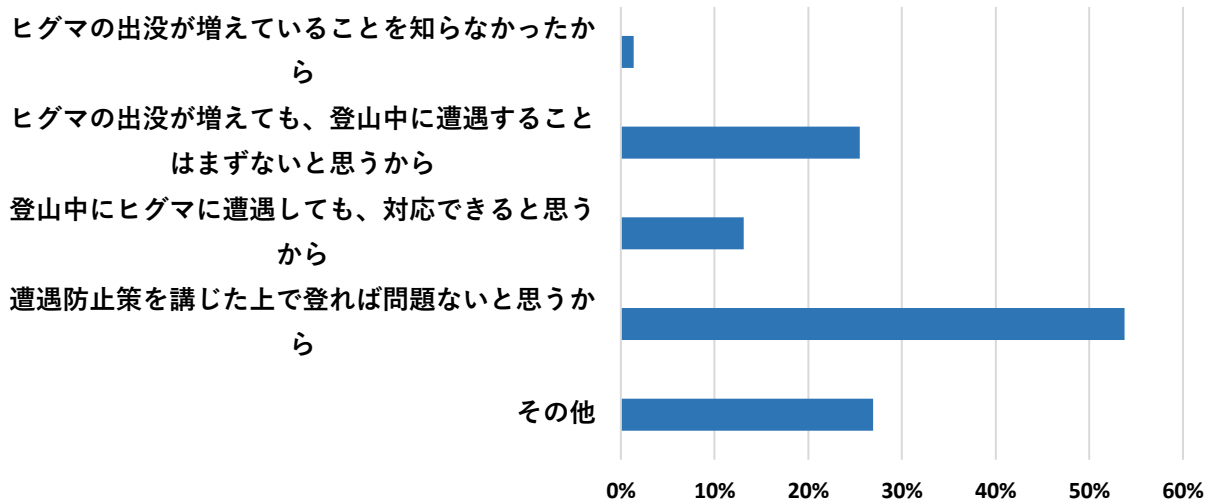
登山経験 (n=318)



ヒグマ出没増加による、 登山における行動変化 (n=319)

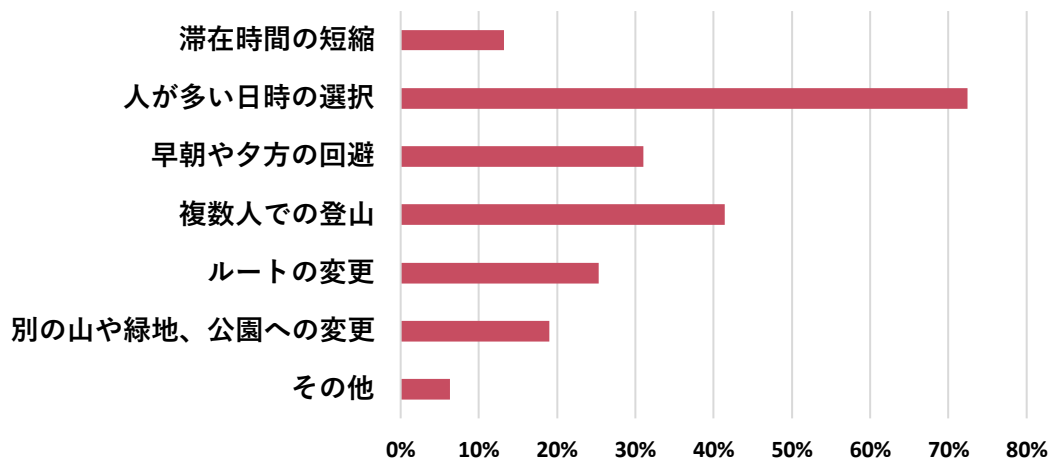


行動が変化しなかった理由 (n=145, 複数回答)

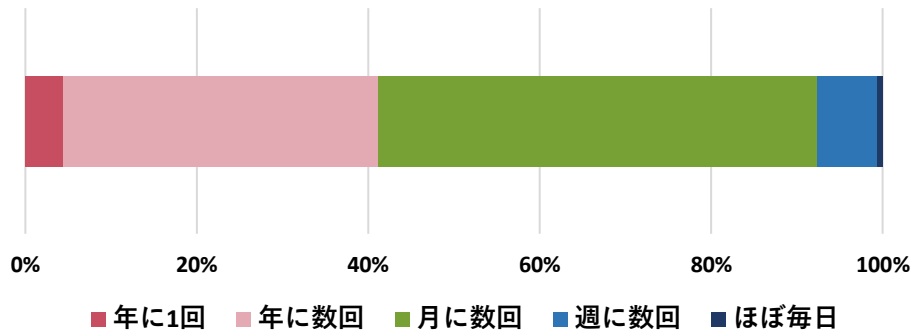


行動が変化した具体的な内容

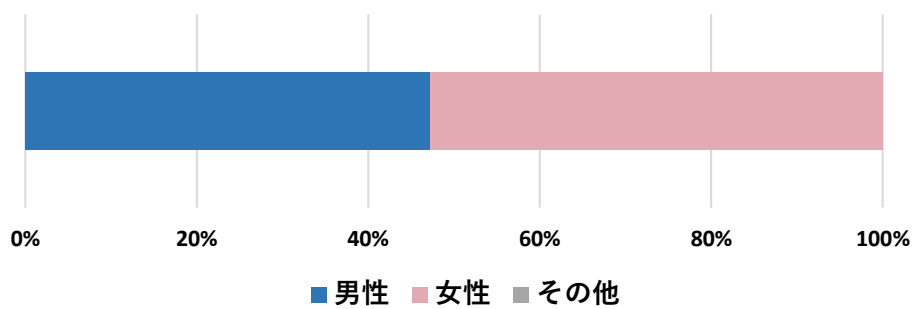
(n=174, 複数回答)



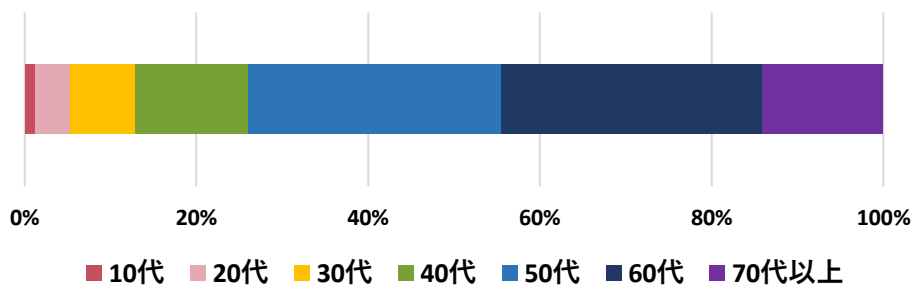
登山頻度 (n=318)



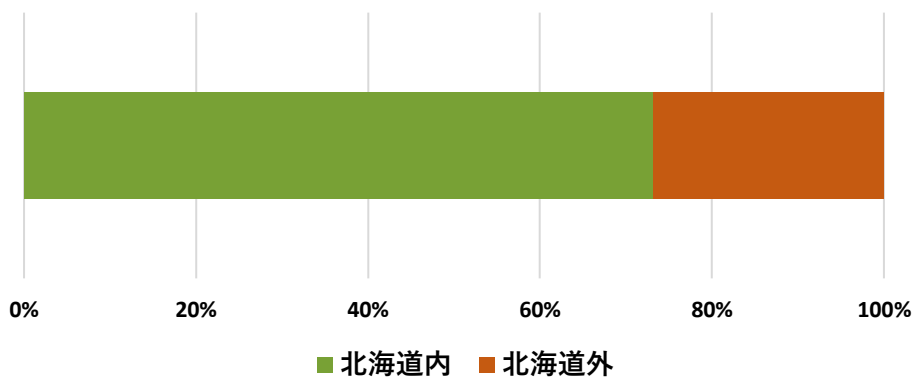
性別 (n=318)



年代 (n=319)



居住地 (n=317)



2026. 1. 8 荒井建設株式会社

荒井岳山頂への標識設置要望について

■ 要望の趣旨

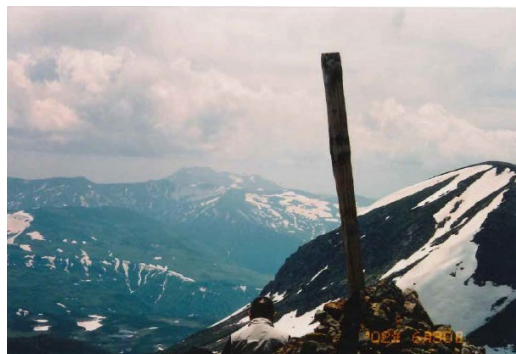
荒井岳の山名は、大正から昭和にかけて大雪山調査会を設立するなど大雪山を全国に紹介した弊社創業者荒井初一の名前がつけられているが、現在山頂に標識は設置されていない（20年ほど前に標柱があったことは弊社社員撮影の写真で確認）。

荒井岳にはお鉢平一周や旭岳黒岳縦走などで多くの登山者が訪れるが、現在間宮岳分岐から北海岳までの区間に標識類は設置されておらず、荒井岳への標識設置は登山者の道迷い防止の面でも意味があり、弊社としても協力するので、弊社創業者の名前がついた荒井岳山頂標識の復活を要望したい。

■ 荒井岳山頂付近の状況写真

上段の2枚：2002（平成14）年頃弊社社員が撮影…標柱あり

下段の2枚：2024（令和6）年7月上段写真に近い場所で弊社社員が撮影…標柱なし



■ 荒井初一と層雲峡・大雪山の関わり

①層雲峡の温泉権利取得と道路の自費開削

1900（明治33）年 石狩川上流（現在の層雲閣の位置）で温泉湧出地発見（塩谷温泉）

1921（大正10）年 大町桂月が塩谷温泉から大雪山を縦走し、塩谷温泉周辺の峡谷を「層雲峡」と命名

1922（大正11）年 塩谷温泉が大洪水で被災、経営の権利を荒井初一到に委譲

1923（大正12）年 荒井初一、双雲別から層雲峡まで12kmの道路を自費で開削（9月に関東大震災が発生し道路予算が白紙化された経緯あり）

②大雪山調査会の設立および主な活動と成果

1924（大正13）年 荒井初一 大雪山調査会を設立（初一は会長に就任）

- ・大雪山に関する学術的調査研究を目的とした民間主体の組織
- ・第七師団長、旭川市長、上川支庁長なども顧問として参加
- ・専門家に委嘱して調査を実施

第1回実地調査…根本旭川測候所長による気象調査、田中館東北大講師による地形地質調査

第2回実地調査…新島林学博士による高山植物園選定調査（上川支庁技手同行）

1925（大正14）年

- ・「大雪山調査概報」を発行（第1回調査の結果報告で、気象・地質・火山の3部構成）
- ・標高2100mの大雪山中で石器時代の遺跡を発見（第4回実地調査）
- ・第1回大雪山夏期大学を北海道山岳会と共催で開催

1926（大正15、昭和元）年

- ・「十勝岳爆発概報」を発行（5/24の十勝岳噴火発生直後に現地調査を実施）
- ・「大雪山登山法及登山案内」を発行（著者は小泉秀雄。大雪山を縦横無尽に踏査した植物学者で、大雪山の多くの山に名前をつけた。それらの功績から「大雪山の父」と呼ばれている）→「荒井岳（大雪山調査会長荒井初一氏の姓を取る）」の記述あり
- ・「大雪山及石狩川上流探検開発史」を発行（大雪山や層雲峡の開発の歴史を記載）

1927（昭和2）年

- ・大雪山山開き登山会を開催し、黒岳山頂で登山者の安全を祈願
- ・第2回大雪山夏期大学を北海タイムス社と共催（北海道山岳会後援）で開催

荒井初一が層雲峡・大雪山に大きく関わったのは、1922（大正11）年の温泉権利取得から1928（昭和3）年2月に56歳で逝去するまで5年余りの期間であるが、中身の濃い活動を展開し、層雲峡・大雪山の発展に大きく貢献した。

■ 今までの経緯について

- ・ 2024年6月より、荒井岳に標識を設置できないか荒井建設より上川総合振興局環境生活課および環境省大雪山国立公園管理事務所東川管理官事務所に相談し、自然公園法に基づく工作物新築許可申請を準備（上川中部森林管理署、文化庁窓口の東川町教育委員会にも情報提供）
- ・ 同年12月に環境省より荒井建設からの占用申請は認められないとの判断（道が公園事業として実施するなら別）が示され、上川総合振興局と調整
- ・ 登山道の事業執行者である上川総合振興局としても大雪山国立公園連絡協議会の理解を得ることが必要な案件のため、昨年度末（2025年2月17日）に協議会構成員（39機関）の皆様へ情報提供と意見照会を行い、8機関の皆様からご意見をいただいた
- ・ 本日、ご意見へのコメントを含め荒井建設としての考えを説明する場を大雪山国立公園連絡協議会の表大雪／東大雪地域登山道維持管理部会の場で作っていただき感謝
- ・ いただいた主なご意見および荒井建設としての考えは次のとおりです

<標識設置の必要性について>

- ・ 荒井岳への標識設置の必要性は低い（近くに間宮分岐の標識もある）【否定的意見】
- ・ 観光価値を高める意味で公益性としては十分【肯定的意見】
→大雪山にとって重要な歴史ある地名を表示することに大きな意味があり、荒井初一の功績を考えれば標識を設置する必要性はあるのではないか

<自然公園法の規定について>

- ・ 自然公園法の規定上設置すべきでない
→自然公園法施行規則第11条で特別保護地区内での工作物の新築は認めないとされていることは承知していますが、同条ただし書きで学術公益その他公益上必要な場合はこの限りでないといった規定もあり、設置の道はあるのではないか

<山麓部での活動について>

- ・ 山頂標識より山麓部の展示充実を優先すべき
→山麓部での展示や広報活動の充実に加え、山頂付近に標識を建てて荒井岳の名前をアピールすることも必要ではないか

<荒井建設への期待>

- ・ 荒井建設が大雪山のために協力することを期待
→荒井岳への標識設置については、設置費用等について協力する所存。また、荒井岳標識が設置された場合、一定の経済波及効果があるものと想定され、荒井建設としても大雪山全体が良い方向に向かうよう協力してまいりたい。

<企業名の表記について>

- ・ 山頂標識に企業名を表記すべきでない
→公園施設として整備の方向で考えており、ご意見どおりと理解します（照会時の図面は荒井建設が占用申請することを想定して作ったタタキ台です）

大雪山国立公園連絡協議会
表大雪地域登山道維持管理部会及び東大雪地域登山道維持管理部会規約

(趣 旨)

第1条 本規約は、大雪山国立公園連絡協議会規約第10条第1項の規定に基づき、表大雪地域登山道維持管理部会及び東大雪地域登山道維持管理部会の組織及び運営に必要な事項を定めるものとする。

(目 的)

第2条 本部会は、大雪山国立公園内の登山道の荒廃等の課題及びその対策について関係者で協議し、もって登山道の適正な維持管理に資することを目的とする。

(活動内容)

第3条 本部会は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 登山道の整備及び維持管理並びにそれに関連する登山道の利用や登山道周辺の自然環境等に関する情報交換、連絡調整
- (2) 登山道の荒廃等の課題及びその対策に必要な事業
- (3) その他、前条の目的を達成するために必要な事業

(構 成)

第4条 本部会は、別表に掲げる構成員及びオブザーバーをもって構成する。また、必要に応じて、検討の方向性を示し有効な議論を導くための役割をとして、コーディネーターをおくものとする。

(大雪山国立公園連絡協議会への出席)

第5条 本部会の構成員は、大雪山国立公園連絡協議会に出席し、第3条に規定する事業の報告や意見を述べる。

- 2 前項の出席者は2名以内とし、部会において選任する。任期は1年とする。

(運 営)

第6条 本部会は、事務局が招集し、事務局員が議事進行を務める。

- 2 本部会を年2回程度開催し、必要に応じて随時、臨時部会を開催する。

(事務局)

第7条 表大雪地域登山道維持管理部会の事務局を大雪山国立公園管理事務所に、東大雪地域登山道維持管理部会の事務局を上士幌管理官事務所に置く。

- 2 事務局は、会の庶務を行う。
- 3 表大雪地域登山道維持管理部会の事務局員は大雪山国立公園管理事務所及び東川管理官事務所職員が、東大雪地域登山道維持管理部会の事務局員は上士幌管理官事務所職員がその任にあたる。た

だし、事務局の業務を請負することを妨げない。

4 事務局員は、大雪山国立公園連絡協議会に出席し、第5条第1項に基づき出席する者を補佐する。

(会 計)

第8条 本部会の運営及び事業の実施に必要な経費は、大雪山国立公園連絡協議会の経費を充てる。

(その他)

第9条 本部会は、大雪山国立公園内の登山道の適正な維持管理のために、関係するその他の協議会との連携及び協力を図る。

付 則 この規約は令和2年6月8日から施行する。

付 則 この規約は令和2年11月4日から施行する。

付 則 この規約は令和3年5月14日から施行する。

付 則 この規約は令和4年5月13日から施行する。

付 則 この規約は令和6年5月17日から施行する。

付 則 この規約は令和7年5月9日から施行する。

表大雪地域登山道維持管理部会

構成員

分野	名称
関係行政機関	北海道地方環境事務所 上川中部森林管理署 上川南部森林管理署 北海道上川総合振興局 富良野市 上川町 東川町 美瑛町 上富良野町 南富良野町
維持管理関係団体 利用・環境教育関係団体	Asahidake trail keeper NPO 法人かむい NPO 法人大雪山自然学校 勤労者山岳連盟（道央地区） 合同会社北海道山岳整備／一般社団法人大雪山・山守隊 山樂舎 BEAR 層雲峡ビジターセンター 大雪山倶楽部 大雪山国立公園パークボランティア連絡会 TREE LIFE 富良野山岳会 北海道山岳ガイド協会（表大雪地区）
自然保護関係団体	大雪と石狩の自然を守る会 山のトイレを考える会
調査・研究関係	山岳レクリエーション管理研究会 北海道大学 渡邊 悌二名誉教授 北海道大学大学院農学研究院 愛甲 哲也教授 福山市立大学都市経営学部都市経営学科 澤田 結基教授

オブザーバー

分野	名称
維持管理関係団体 利用・環境教育関係団体	旭川勤労者山岳会 ガイドオフィス風 株式会社りんゆう観光

	上川山岳会 上富良野十勝岳山岳会 黒松内銀竜草の会 公益社団法人日本山岳会北海道支部 美瑛山岳会 ワカサリゾート株式会社
自然保護関係団体	北海道高山植物保護ネット
調査・研究関係	

※関係行政機関以外は、分野ごとに 50 音順

東大雪地域登山道維持管理部会

構成員

分野	名称
関係行政機関	北海道地方環境事務所 十勝西部森林管理署東大雪支署 北海道十勝総合振興局 士幌町 上士幌町 鹿追町 新得町
維持管理関係団体 利用・環境教育関係団体	NPO 法人かむい NPO 法人ひがし大雪自然ガイドセンター 合同会社北海道山岳整備／一般社団法人大雪山・山守隊 山樂舎 BEAR 新得山岳会 大雪山国立公園パークボランティア連絡会 十勝山岳連盟
自然保護関係団体	
調査・研究関係	北海道大学 渡邊 悌二名誉教授 北海道大学大学院農学研究院 愛甲 哲也教授 福山市立大学都市経営学部都市経営学科 澤田 結基教授

オブザーバー

分野	名称
維持管理関係団体 利用・環境教育関係団体	株式会社北海道ネイチャーセンター 公益社団法人日本山岳会北海道支部 北海道山岳ガイド協会（東大雪地区） ボレアルフォレスト
自然保護関係団体	
調査・研究関係	

※関係行政機関以外は、分野ごとに50音順